

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

ひとり親家庭の在宅就業に関する調査研究

報告書

令和3年3月

株式会社 日本経済研究所

< 目 次 >

第1章 本調査研究事業の実施概要	1
1 本調査研究事業の背景と目的	1
2 本調査研究事業の内容と実施方法	2
(1) ひとり親家庭へのアンケート調査	2
(2) 民間事業者等へのヒアリング調査	5
(3) 検討会の設置・開催	7
第2章 ひとり親家庭へのアンケート調査	9
1 アンケート調査の概要	9
2 アンケート調査結果	10
(1) 属性によるクロス分析	10
(2) 在宅ワークの平均月収を軸としたクロス分析	68
第3章 民間事業者等へのヒアリング調査	78
1 ヒアリング調査の概要	78
2 ヒアリング調査結果	79
第4章 検討会の特別委員による現場報告	101
1 現場報告の概要	101
2 現場報告の内容	102
(1) 現場報告1	102
(2) 現場報告2	106
(3) 現場報告3	108
第5章 ひとり親家庭の在宅就業支援の今後の在り方等についての提言	111
1 各調査結果から見てきたこと	111
(1) ひとり親家庭へのアンケート調査	111
(2) 民間事業者等へのヒアリング調査	116
(3) 検討会の特別委員による現場報告	122
2 ひとり親家庭の在宅就業支援の今後の在り方等についての提言	125
(1) 在宅ワーク関連	125
(2) テレワーク関連	129

第1章 本調査研究事業の実施概要

1 本調査研究事業の背景と目的

- 国が推進する働き方改革において、仕事のやり方の見直しが必要となっており、また今般の新型コロナウイルス感染拡大を阻止するための外出自粛と休業要請を受け、企業によるテレワークが推進されている。コロナ禍によりクローズアップされたテレワークを含む雇用型の在宅就業は、ひとり親家庭にとって、子どもとの生活を維持しつつ働ける就業形態であり、ひとり親家庭の生活の安定を図っていくための就業形態のひとつであると言える。

- 在宅就業は、ひとり親にとって無理なダブルワークの解消や子どもの将来の教育費など貯蓄に充てるための収入を得る場合などに有効な働き方のひとつであり、また、乳児の養育などにより外に働きにでることができない場合に強いニーズがあると考えられている。さらに、在宅就業による経験やそのための能力開発機会の提供によって、子育て期にあってもキャリアを中断させることなく、再就職や安定的な雇用につなげることが可能となると想定される。

- このような背景のもと、本調査研究事業においては、まずひとり親家庭を取り巻く在宅就業について実態の調査を行い、これらの実態を踏まえつつ、またテレワークを含む今後の新たな展開をも見据え、ひとり親家庭の在宅就業がより一層促進されるよう、今後の支援の在り方等について提言を行うことを目的とする。

2 本調査研究事業の内容と実施方法

本調査研究事業は、主に以下の（１）及び（２）の２種類の調査、及び（３）の検討会の設置・開催によって構成している。

（１）ひとり親家庭へのアンケート調査

ア アンケート調査の目的

ひとり親家庭で、現に在宅就業に携わっている方及び在宅就業を希望している方に対し、ワークスタイルを中心に実態を把握すべく、アンケート調査を行った。

なお、在宅就業には、大別して「自宅又は貸しオフィスなどの在宅での個人業務請負や内職の仕事（以下、「在宅ワーク」という。）」と「企業などの組織に所属し、自宅又は貸しオフィスなどで行うテレワーク（以下、「テレワーク」という。）」があることから、その両方を対象とした。

イ アンケート調査の実施方法等

（ア）アンケート調査対象者

ひとり親で、現に在宅就業に携わっている方又は在宅就業を希望している方
1,030名

（イ）アンケート調査票の配布・回収方法

Webアンケート調査会社にモニターとして登録しているアンケート調査対象者に対し、インターネットを通して「アンケートサイト」にアクセスしてもらい、Web上でアンケートにご回答いただいた。

（ウ）アンケート調査項目

主な調査項目は以下のとおりである。

《在宅ワーク関連》

「現に在宅ワークをしている方」に対しては以下の全項目を、「いまはしていないが、今後在宅ワークを希望している方」に対しては※印を付した項目のみを質問した。

- 在宅ワークの経験年数
- 在宅ワークを始めた（始めたい）きっかけ※
- 在宅ワークの位置づけ（本業／副業）※
- 在宅ワークの業務内容（現在、将来の希望※）
- 在宅ワークの受注に関する継続性、将来の受注見込み
- 在宅ワークの受注経路（現在、本来の希望）

- 在宅ワークの実施状況（週平均日数※、1日の平均的な仕事時間※、本来の希望とのギャップ）
- 在宅ワークによる手取り月収（現在、本来の希望※）
- 在宅ワークを続けるために必要な知識や技術と、現状保有している知識や技術※
- 取り組んでいるスキルアップ
- 在宅ワークに対する今後の希望
- 在宅ワークに関して困っていること※
- 在宅ワークに必要な支援※

《テレワーク関連》

「現にテレワークをしている方」、「いまはテレワークをしていないが、今後は希望している方」に対し、それぞれ以下の質問を行った。

（共通質問）

- 現在の雇用形態
- 勤務先の業種
- 勤務先の従業員規模
- 職種

（現にテレワークをしている方に対する質問）

- テレワークを行っている期間
- テレワークは新型コロナウイルス感染予防対策がきっかけか
- テレワークの頻度
- テレワークの1日当たりの平均勤務時間
- テレワークに対する今後の希望
- テレワークの割合を増やせる見込み
- （上記でテレワークの割合を増やせないと回答した場合）その理由
- テレワークの利点
- テレワークで困っていること
- テレワークで必要としている支援

（いまはテレワークをしていないが、今後は希望している方に対する質問）

- テレワークを希望する理由
- テレワークの実現可能性
- （上記でテレワークができないと回答した場合）その理由

(エ) アンケート調査時期

令和3年1月28日(木)～2月8日(月)

(オ) アンケート回収数

調査対象者			回収状況			
在宅就業の形態	現在の状況	就労による年収	有効回収数	割合	有効回収数	割合
在宅ワーク	(1) 現に在宅ワークを <u>している方</u>	年収 100 万円未満	258	23.5%	76	6.9%
		年収 100～200 万円未満			45	4.1%
		年収 200～300 万円未満			36	3.3%
		年収 300～400 万円未満			29	2.6%
		年収 400 万円以上			39	3.6%
		わからない・答えたくない			33	3.0%
	(2) いまはしていないが、今後、在宅ワークを <u>希望している方</u>	年収 100 万円未満	213	19.4%	62	5.7%
		年収 100～200 万円未満			49	4.5%
		年収 200～300 万円未満			37	3.4%
		年収 300～400 万円未満			16	1.5%
		年収 400 万円以上			23	2.1%
		わからない・答えたくない			26	2.4%
テレワーク	(3) 現にテレワークを <u>している方</u>	年収 100 万円未満	297	27.1%	19	1.7%
		年収 100～200 万円未満			43	3.9%
		年収 200～300 万円未満			47	4.3%
		年収 300～400 万円未満			36	3.3%
		年収 400 万円以上			126	11.5%
		わからない・答えたくない			26	2.4%
	(4) いまはテレワークをしていないが、今後は <u>希望している方</u>	年収 100 万円未満	328	29.9%	22	2.0%
		年収 100～200 万円未満			60	5.5%
		年収 200～300 万円未満			100	9.1%
		年収 300～400 万円未満			53	4.8%
		年収 400 万円以上			80	7.3%
		わからない・答えたくない			13	1.2%
合計			1,096	100.0%	1,096	100.0%

(注) 在宅ワークとテレワークの両方を行っている場合があるため、調査対象者数よりも回収数の方が多くなっている。

(2) 民間事業者等へのヒアリング調査

ア ヒアリング調査の目的

ひとり親家庭の実態をより深く把握し、ひとり親家庭に対する今後の在宅就業支援の在り方や具体的な支援策について示唆を得るべく、在宅就業支援に取り組んでいる（いた）民間事業者等に対しヒアリング調査を行う。

イ ヒアリング調査の実施方法等

(ア) ヒアリング調査対象及び実施方法

国の母子家庭等就業・自立支援事業のメニューである「ひとり親家庭の在宅就業推進事業」を理解している民間事業者等であることが望ましいことから、これまで当該事業を地方自治体から受託した実績のある民間事業者4社、NPO法人1者をヒアリング対象として選定した。また、母子寡婦団体2者についてもヒアリング対象に含めた。なお、ヒアリングは、原則としてオンラインにてWeb会議システムを用いて実施し、一部については書面で回答を得た。

No.	法人種別	企業名	主な提供事業	ひとり親の就業支援
1	民間事業者	(株)エイジェック (東京都)	BPO事業※	練馬区「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」、八王子市「ひとり親家庭テレワーク推進事業」の受託実績あり
2		(株)うるる (東京都)	クラウドソーシング事業	東京都「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
3		(株)パソナテック (東京都)	BPO事業※	仙台市、相模原市、岡山市、松山市の「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
4		(株)東海道シグマ (静岡県)	人材派遣事業	静岡県「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
5	NPO法人	NPO法人 在宅はたらき隊 (栃木県)	行政事務支援事業	栃木県小山市、群馬県太田市の「ひとり親家庭等の在宅就業支援事業」の受託実績あり
6	母子寡婦団体	(公財)青森県 母子寡婦福祉 連合会	ひとり親家庭に対する就業支援・相談	受託している青森県・八戸市「ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業」の一環で、在宅就業推進事業を実施
7		(公社)札幌市 母子寡婦福祉 連合会	同上	ひとり親家庭の就業支援は行っているものの、在宅就業への取組み実績はなし

※ BPO事業とは、企業から業務のアウトソーシングを請け負う事業のこと。

(イ) ヒアリング調査項目

主な調査項目は、以下のとおりである。

- 貴法人における在宅就業支援の取組み
- ひとり親の特性について
- 在宅就業者が困っていること
- 現在及び今後の在宅就業のニーズについて
- 成功モデルについて

(ウ) ヒアリング調査時期

令和3年1月13日（水）～1月25日（月）

(3) 検討会の設置・開催

ア 検討会の目的

本調査研究事業の実施に際しては、調査の企画や結果の分析、提言内容の検討等に対する助言を得るべく、有識者が参画する検討会を設置した。

イ 検討会の実施方法

(ア) 出席者

敬称略

(常設委員)

所 属	氏 名
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 教授	新保 幸男
株式会社リクルート リクルートワークス研究所 調査設計・解析センター長	萩原 牧子
練馬区 福祉部 生活福祉課 ひとり親家庭支援係長	森 裕章

(特別委員) ※ 第2回検討会のみ

所 属	氏 名
認定特定非営利活動法人「育て上げネット」理事長	工藤 啓
特定非営利活動 法人「マドレボニータ」創業者	吉岡 マコ
日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 社会貢献 担当部長	龍治 玲奈

(オブザーバー)

所 属	氏 名
厚生労働省 子ども家庭局 家庭福祉課長	中野 孝浩
厚生労働省 子ども家庭局 家庭福祉課 母子家庭等自立支援 室長補佐	川岸 直樹
厚生労働省 子ども家庭局 家庭福祉課 企画係主査	中村 舞
厚生労働省 子ども家庭局 家庭福祉課 母子家庭等自立支援室 就業支援係長	多鹿 みさ

(事務局)

所 属	氏 名
株式会社日本経済研究所 医療・福祉チーム 部長	菅原 尚子
株式会社日本経済研究所 医療・福祉チーム 主任研究員	澤田 武志
株式会社日本経済研究所 医療・福祉チーム 副主任研究員	前田 聡紀

(イ) 検討会の開催時期・内容

以下のとおり、検討会を3回にわたり開催した。

回	時期	内容
第1回	令和2年12月17日(木) 13時00分～15時00分	・アンケート項目の精査 ・ヒアリング対象とする民間事業者の選定
第2回	令和3年2月26日(金) 15時30分～17時30分	・アンケート結果及びヒアリング結果の分析 ・目指すべき在宅就業の新たな展開の方向性、そのための施策
第3回	令和3年3月25日(木) 16時30分～18時30分	・報告書(案)の確認

第2章 ひとり親家庭へのアンケート調査

1 アンケート調査の概要

ひとり親で、現に在宅就業に携わっている方又は在宅就業を希望している方1,030人に対し、アンケート調査を実施した（調査の実施方法の詳細は、第1章2（1）を参照のこと。）。

下記の表中、アンケート調査対象者の「現在の状況」（1）から（4）ごとに質問を変えて設定しており、各設問の結果は、次頁の2のとおりである。

■ アンケート調査対象者

調査対象者			回収状況			
在宅就業の形態	現在の状況	就労による年収	有効回収数	割合	有効回収数	割合
在宅ワーク	(1) 現に在宅ワークをしている方 ⇒ Q1～18	年収 100 万円未満	258	23.5%	76	6.9%
		年収 100～200 万円未満			45	4.1%
		年収 200～300 万円未満			36	3.3%
		年収 300～400 万円未満			29	2.6%
		年収 400 万円以上			39	3.6%
		わからない・答えたくない			33	3.0%
	(2) いまはしていないが、今後、在宅ワークを希望している方 ⇒ Q19～27	年収 100 万円未満	213	19.4%	62	5.7%
		年収 100～200 万円未満			49	4.5%
		年収 200～300 万円未満			37	3.4%
		年収 300～400 万円未満			16	1.5%
		年収 400 万円以上			23	2.1%
		わからない・答えたくない			26	2.4%
テレワーク	(3) 現にテレワークをしている方 ⇒ Q28～41	年収 100 万円未満	297	27.1%	19	1.7%
		年収 100～200 万円未満			43	3.9%
		年収 200～300 万円未満			47	4.3%
		年収 300～400 万円未満			36	3.3%
		年収 400 万円以上			126	11.5%
		わからない・答えたくない			26	2.4%
	(4) いまはテレワークをしていないが、今後は希望している方 ⇒ Q42～48	年収 100 万円未満	328	29.9%	22	2.0%
		年収 100～200 万円未満			60	5.5%
		年収 200～300 万円未満			100	9.1%
		年収 300～400 万円未満			53	4.8%
		年収 400 万円以上			80	7.3%
		わからない・答えたくない			13	1.2%
合計			1,096	100.0%	1,096	100.0%

(注) 在宅ワークとテレワークの両方を行っている場合があるため、調査対象者数よりも回収数の方が多くなっている。

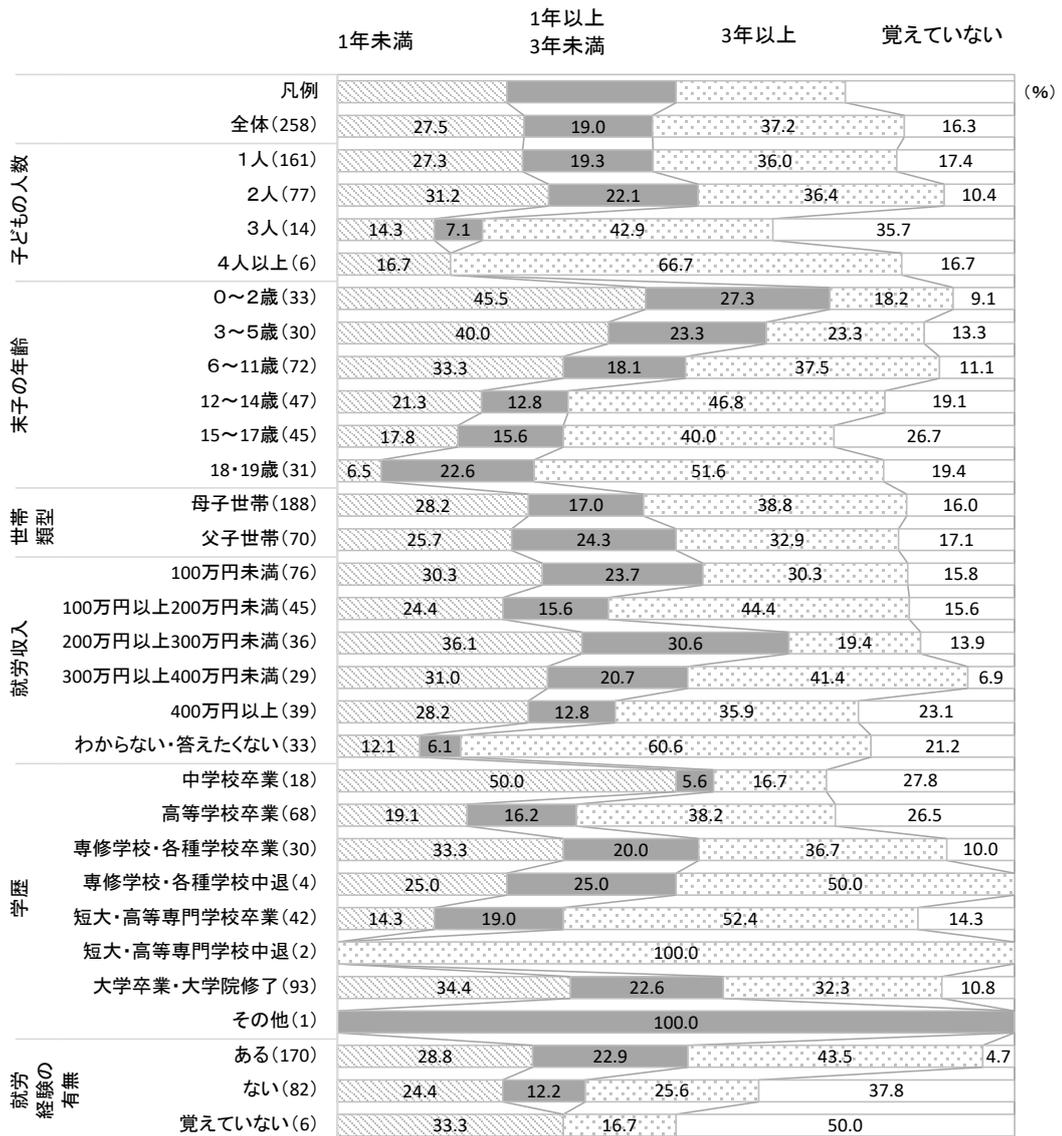
2 アンケート調査結果

(1) 属性によるクロス分析

ア 「現在在宅ワークをしている方」に対する設問

Q1 在宅ワークの経験年数

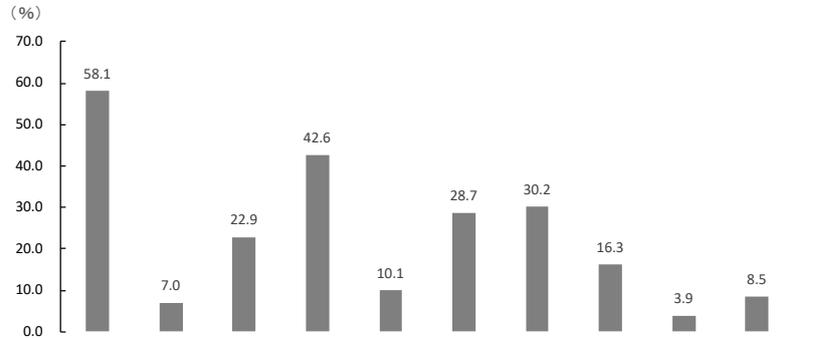
在宅ワークの経験期間をたずねたところ、全体で見ると「3年以上」が37.2%と最も多く、次いで「1年未満」が27.5%であった。



()内は回答者数

Q2 在宅ワークを始めたきっかけ（複数回答）

在宅ワークを始めたきっかけをたずねたところ、「子どもとの生活を維持しつつ働きたいため」が最も多く、58.1%であった。



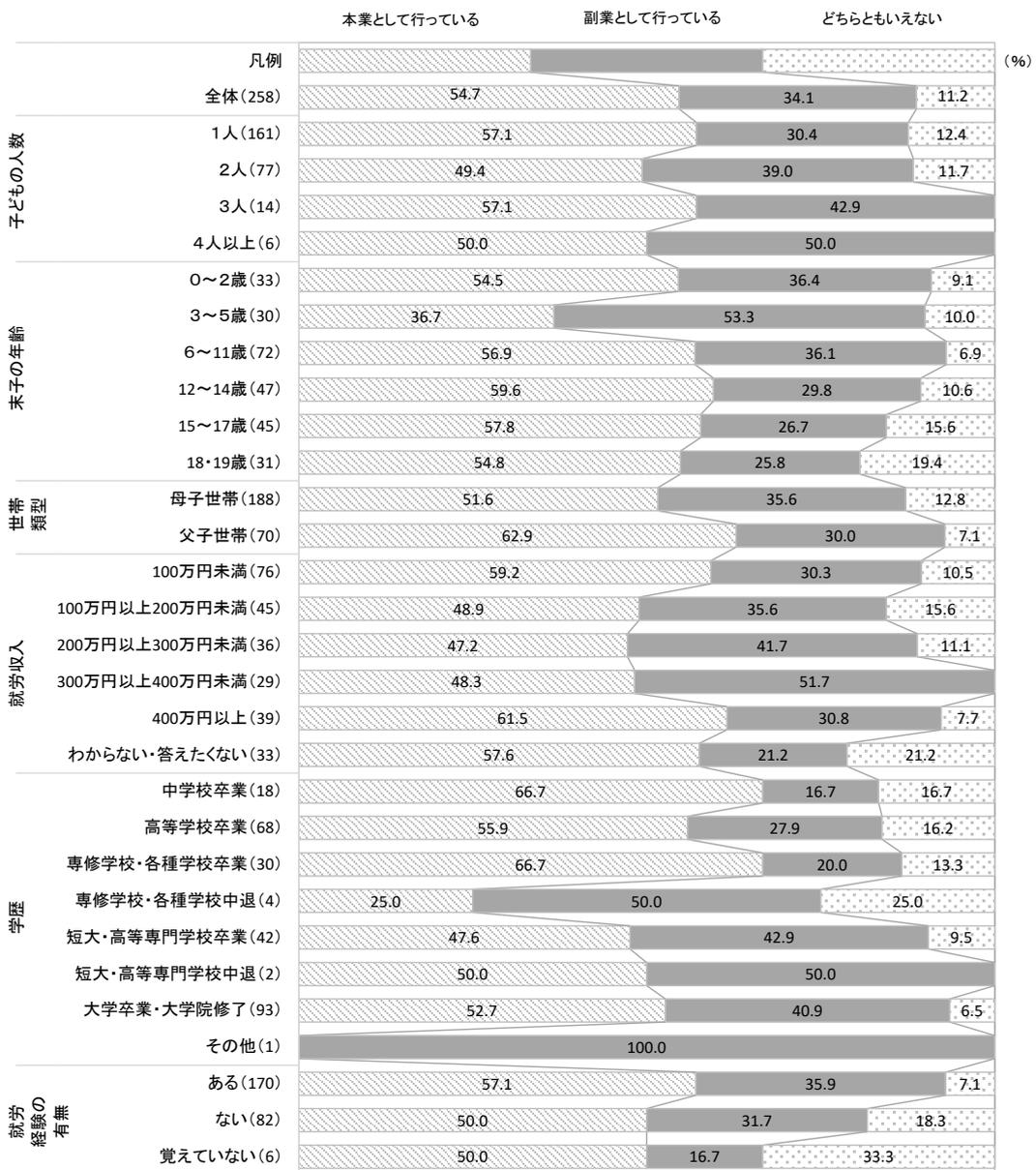
	子どもとの生活を維持しつつ働きたいため	親の介護が必要なため	希望する仕事ができるため	都合のいい時間に働けるため	外に出て働きたいが、よい勤め先が見つからないため	収入を増やすため	空いた時間を有効に活用したいため	企業などの組織に所属せず、柔軟に働きたいため	その他	特にきっかけはない・覚えていない	(%)
全体(258)	58.1	7.0	22.9	42.6	10.1	28.7	30.2	16.3	3.9	8.5	(%)
子どもの人数	1人(161)	55.9	5.0	27.3	42.9	8.1	24.2	28.0	19.3	2.5	8.1
	2人(77)	62.3	7.8	18.2	42.9	13.0	42.9	35.1	13.0	7.8	6.5
	3人(14)	42.9	14.3	-	35.7	14.3	7.1	21.4	-	-	28.6
	4人以上(6)	100.0	33.3	16.7	50.0	16.7	16.7	50.0	16.7	-	-
末子の年齢	0~2歳(33)	66.7	24.2	21.2	42.4	24.2	27.3	24.2	12.1	3.0	-
	3~5歳(30)	63.3	13.3	3.3	43.3	3.3	43.3	43.3	3.3	-	10.0
	6~11歳(72)	62.5	2.8	23.6	41.7	9.7	29.2	30.6	19.4	4.2	9.7
	12~14歳(47)	57.4	2.1	25.5	42.6	8.5	23.4	31.9	17.0	4.3	8.5
	15~17歳(45)	62.2	-	24.4	40.0	8.9	26.7	33.3	17.8	4.4	8.9
	18~19歳(31)	29.0	9.7	35.5	48.4	6.5	25.8	16.1	22.6	6.5	12.9
世帯類型	母子世帯(188)	64.4	3.7	21.8	43.1	11.2	30.9	31.9	15.4	5.3	9.0
	父子世帯(70)	41.4	15.7	25.7	41.4	7.1	22.9	25.7	18.6	-	7.1
就労収入	100万円未満(76)	61.8	3.9	19.7	48.7	14.5	25.0	32.9	18.4	1.3	9.2
	100万円以上200万円未満(45)	60.0	2.2	15.6	48.9	8.9	31.1	26.7	8.9	4.4	11.1
	200万円以上300万円未満(36)	41.7	13.9	19.4	33.3	5.6	33.3	27.8	2.8	5.6	8.3
	300万円以上400万円未満(29)	72.4	10.3	31.0	51.7	10.3	41.4	37.9	34.5	3.4	-
	400万円以上(39)	48.7	7.7	35.9	41.0	7.7	30.8	28.2	17.9	7.7	12.8
	わからない・答えたくない(33)	63.6	9.1	21.2	24.2	9.1	15.2	27.3	18.2	3.0	6.1
学歴	中学校卒業(18)	61.1	5.6	-	27.8	16.7	11.1	16.7	-	-	16.7
	高等学校卒業(68)	52.9	5.9	17.6	35.3	14.7	30.9	27.9	13.2	7.4	13.2
	専修学校・各種学校卒業(30)	63.3	3.3	26.7	43.3	20.0	23.3	30.0	26.7	-	3.3
	専修学校・各種学校中退(4)	25.0	25.0	50.0	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-
	短大・高等専門学校卒業(42)	59.5	7.1	21.4	47.6	4.8	33.3	40.5	16.7	4.8	9.5
	短大・高等専門学校中退(2)	50.0	-	-	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	-
	大学卒業・大学院修了(93)	61.3	8.6	30.1	47.3	5.4	29.0	30.1	18.3	2.2	5.4
その他(1)	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	
就労経験の有無	ある(170)	62.4	8.8	27.6	47.1	11.8	31.8	34.7	19.4	2.9	2.4
	ない(82)	51.2	3.7	14.6	36.6	7.3	24.4	23.2	11.0	6.1	17.1
	覚えていない(6)	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7

「その他」の主な意見

- 会社からの依頼
- 夢を叶えるため
- 子どもの介護のため

Q3 在宅ワークの位置づけ

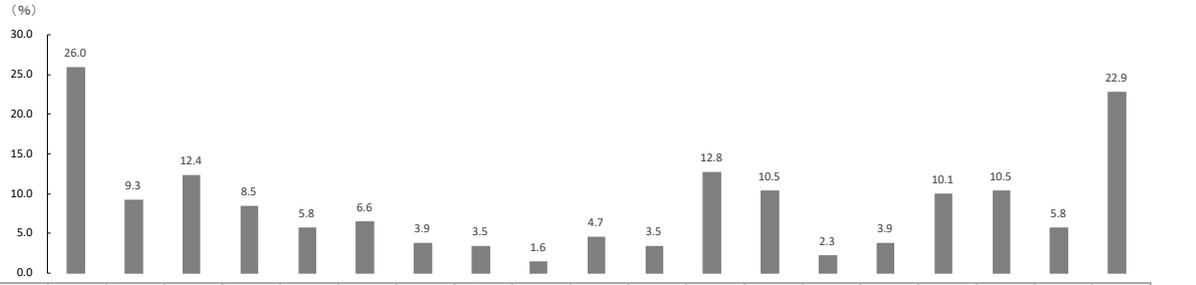
在宅ワークを本業で行っているか、または副業として行っているかをたずねたところ、「本業として行っている」が54.7%と、半数以上を占めていた。



()内は回答者数

Q4① 現在の在宅ワークの業務内容（複数回答）

現在の在宅ワークの業務内容をたずねたところ、多い順に「データ入力」が26.0%、「その他」が22.9%、「事務」が12.8%であった。



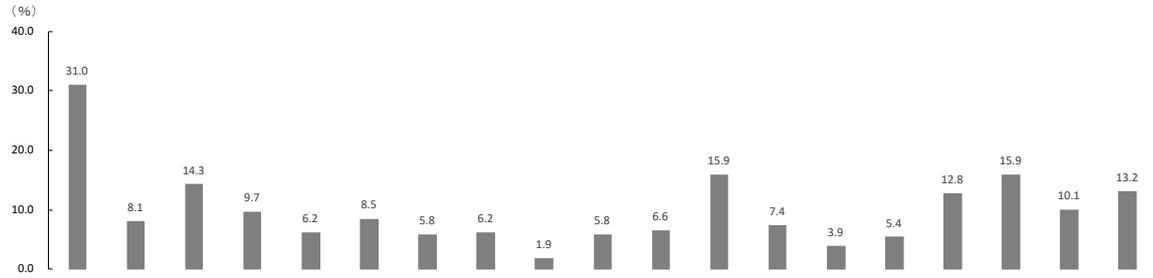
	データ入力	設計・製図	デザイン	画像加工	DTP(印刷物のデザイン、フォートマト作成)	ウェブサイト・モバイルサイト等制作	プログラミング	翻訳	システム設計	リサーチ・分析	音声起こし	事務	営業	企画・広報	人事・総務・法務	フリーライター	ウェブショップ	オンライン講師(ビジネススキル・マナーなど)	その他
全体(258)	26.0	9.3	12.4	8.5	5.8	6.6	3.9	3.5	1.6	4.7	3.5	12.8	10.5	2.3	3.9	10.1	10.5	5.8	22.9
子どもの人数																			
1人(161)	25.5	9.3	14.3	7.5	5.6	5.0	3.1	2.5	1.2	3.7	3.1	13.7	11.2	1.9	3.1	10.6	8.7	5.0	19.3
2人(77)	29.9	7.8	7.8	11.7	5.2	10.4	5.2	3.9	1.3	5.2	3.9	11.7	9.1	2.6	5.2	9.1	14.3	7.8	27.3
3人(14)	14.3	14.3	7.1	-	7.1	-	-	7.1	-	7.1	-	7.1	7.1	-	-	7.1	7.1	7.1	21.4
4人以上(6)	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	66.7
末子の年齢																			
0~2歳(33)	57.6	15.2	15.2	12.1	15.2	9.1	9.1	6.1	9.1	12.1	9.1	27.3	15.2	6.1	15.2	18.2	12.1	3.0	12.1
3~5歳(30)	26.7	6.7	6.7	10.0	6.7	6.7	3.3	-	6.7	-	6.7	6.7	3.3	-	3.3	10.0	13.3	3.3	20.0
6~11歳(72)	27.8	5.6	9.7	5.6	2.8	2.8	-	5.6	-	2.8	2.8	15.3	8.3	1.4	4.2	2.8	6.9	8.3	27.8
12~14歳(47)	17.0	8.5	17.0	14.9	6.4	14.9	6.4	2.1	2.1	4.3	8.5	10.6	10.6	2.1	2.1	4.3	12.8	8.5	27.7
15~17歳(45)	15.6	13.3	13.3	4.4	4.4	6.7	2.2	-	4.4	-	4.4	6.7	13.3	4.4	-	20.0	6.7	2.2	20.0
18~19歳(31)	16.1	9.7	12.9	6.5	3.2	-	3.2	3.2	-	-	-	9.7	12.9	-	-	12.9	16.1	6.5	22.6
世帯類型																			
母子世帯(188)	25.0	2.7	9.0	5.9	4.8	4.3	2.1	2.7	1.1	4.8	3.7	12.2	8.0	1.1	2.7	9.0	10.6	6.9	28.7
父子世帯(70)	28.6	27.1	21.4	15.7	8.6	12.9	8.6	5.7	2.9	4.3	2.9	14.3	17.1	5.7	7.1	12.9	10.0	2.9	7.1
100万円未満(76)	23.7	2.6	3.9	3.9	2.6	2.6	-	1.3	-	3.9	1.3	9.2	11.8	1.3	-	9.2	6.6	6.6	32.9
100万円以上200万円未満(45)	24.4	6.7	6.7	8.9	-	2.2	2.2	-	2.2	2.2	2.2	15.6	8.9	-	4.4	6.7	8.9	2.2	26.7
200万円以上300万円未満(36)	27.8	11.1	11.1	11.1	8.3	2.8	2.8	5.6	2.8	5.6	5.6	11.1	-	-	5.6	11.1	8.3	5.6	11.1
300万円以上400万円未満(29)	34.5	17.2	20.7	20.7	10.3	24.1	10.3	6.9	6.9	10.3	10.3	20.7	13.8	6.9	6.9	13.8	24.1	6.9	17.2
400万円以上(39)	35.9	17.9	20.5	10.3	12.8	10.3	10.3	7.7	2.6	2.6	2.6	20.5	7.7	5.1	7.7	12.8	7.7	10.3	12.8
わからない・答えたくない(33)	12.1	9.1	24.2	3.0	6.1	6.1	3.0	3.0	-	6.1	3.0	9.1	9.1	3.0	3.0	9.1	15.2	3.0	24.2
学歴																			
中学校卒業(18)	38.9	5.6	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	16.7	5.6	-	-	5.6	16.7	5.6	16.7
高等学校卒業(68)	19.1	7.4	8.8	8.8	4.4	5.9	5.9	1.5	2.9	4.4	5.9	13.2	17.6	1.5	7.4	8.8	5.9	2.9	30.9
専修学校・各種学校卒業(30)	26.7	13.3	16.7	10.0	-	6.7	-	3.3	-	3.3	-	13.3	-	-	3.3	10.0	23.3	-	23.3
専修学校・各種学校中退(4)	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
短大・高等専門学校卒業(42)	14.3	4.8	14.3	7.1	9.5	4.8	4.8	-	2.4	4.8	2.4	14.3	7.1	-	-	7.1	7.1	4.8	33.3
短大・高等専門学校中退(2)	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-
大学卒業・大学院修了(93)	32.3	12.9	15.1	9.7	7.5	9.7	4.3	6.5	1.1	3.2	4.3	11.8	11.8	5.4	4.3	12.9	9.7	10.8	15.1
その他(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
就労経験の有無																			
ある(170)	30.0	12.9	15.9	11.2	7.6	8.2	4.7	5.3	2.4	5.9	4.7	10.0	11.8	2.9	4.1	11.2	12.4	6.5	18.2
ない(82)	15.9	1.2	6.1	3.7	2.4	3.7	1.2	-	-	2.4	1.2	18.3	6.1	-	2.4	8.5	7.3	3.7	34.1
覚えていない(6)	50.0	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	16.7	33.3	16.7	16.7	-	-	16.7	-

「その他」の主な意見

- 添削
- 部品組み立て、検品
- 縫製等
- 電話オペレーター
- 動画制作

Q4② 将来、積極的に受注していきたい在宅ワークの業務内容（複数回答）

将来に受注したい業務内容をたずねたところ、多い順に「データ入力」が31.0%、「事務」及び「ウェブショップ」が15.9%であった。



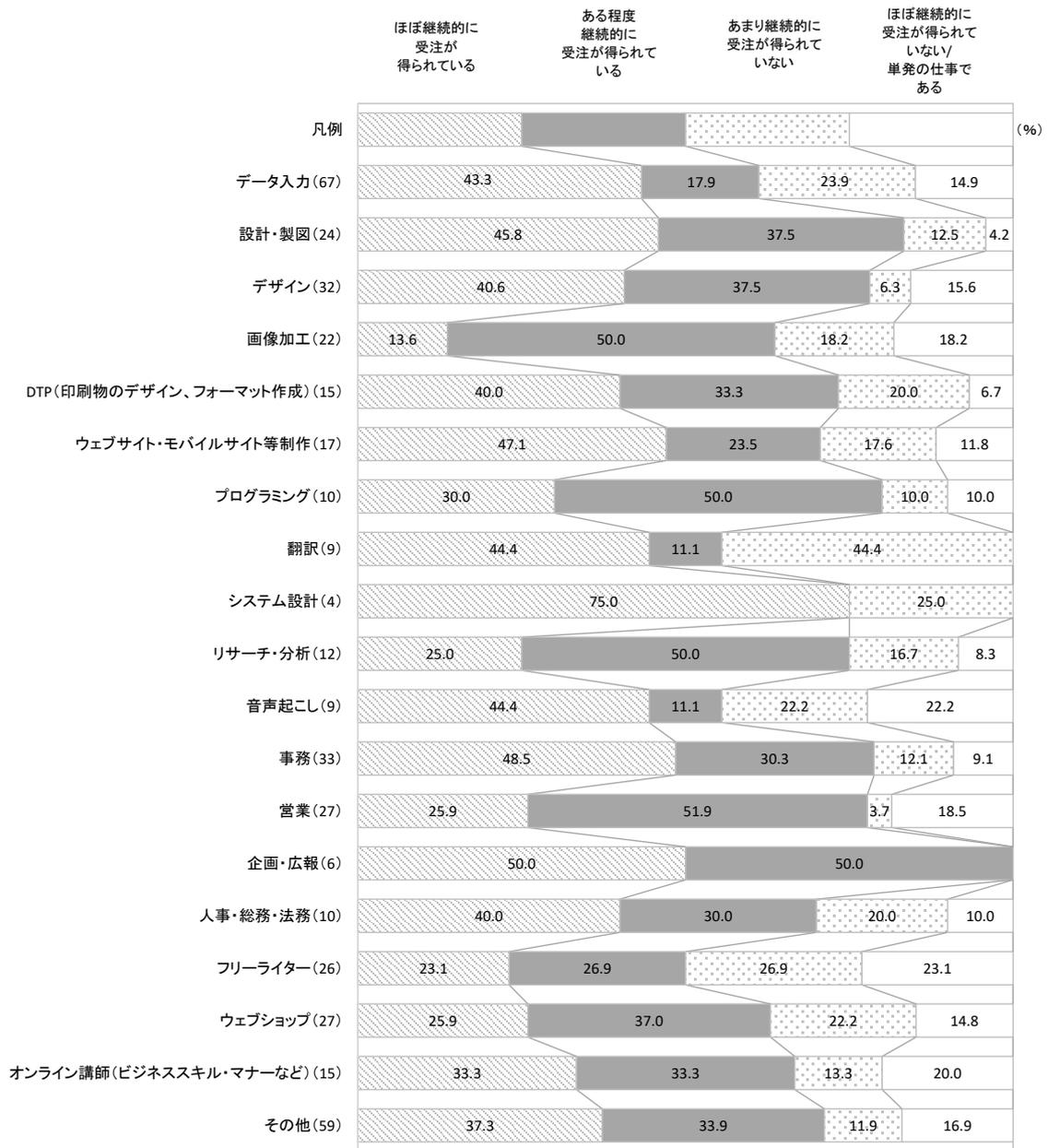
	データ入力	設計・製図	デザイン	画像加工	DTP(印刷物のデザイン、フォーマット作成)	ウェブサイト・モバイルサイト等制作	プログラミング	翻訳	システム設計	リサーチ・分析	音声起こし	事務	営業	企画・広報	人事・総務・法務	フリーライター	ウェブショップ	オンライン講師(ビジネススキル・マナーなど)	その他	
全体(258)	31.0	8.1	14.3	9.7	6.2	8.5	5.8	6.2	1.9	5.8	6.6	15.9	7.4	3.9	5.4	12.8	15.9	10.1	13.2	
子どもの人数																				
1人(161)	31.7	8.7	15.5	9.3	3.7	5.6	6.2	5.6	1.2	5.0	5.0	14.3	6.8	3.1	3.1	14.3	18.0	9.3	10.6	
2人(77)	33.8	6.5	11.7	10.4	9.1	13.0	3.9	6.5	2.6	6.5	10.4	20.8	7.8	3.9	9.1	9.1	14.3	10.4	15.6	
3人(14)	14.3	-	7.1	7.1	14.3	-	7.1	-	-	7.1	-	7.1	7.1	-	7.1	7.1	-	7.1	14.3	
4人以上(6)	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	50.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	16.7	33.3	50.0	
末子の年齢																				
0~2歳(33)	48.5	18.2	24.2	18.2	18.2	15.2	9.1	15.2	9.1	18.2	18.2	30.3	12.1	12.1	-	-	20.0	10.0	6.7	10.0
3~5歳(30)	43.3	3.3	13.3	10.0	10.0	10.0	6.7	10.0	-	3.3	10.0	13.3	-	-	-	20.0	10.0	6.7	10.0	
6~11歳(72)	30.6	4.2	11.1	8.3	4.2	5.6	4.2	5.6	1.4	2.8	2.8	16.7	5.6	2.8	8.3	5.6	13.9	12.5	15.3	
12~14歳(47)	25.5	6.4	14.9	6.4	4.3	10.6	6.4	2.1	-	4.3	6.4	8.5	6.4	-	-	4.3	12.8	8.5	23.4	
15~17歳(45)	24.4	8.9	11.1	8.9	-	6.7	4.4	4.4	2.2	8.9	4.4	15.6	13.3	8.9	2.2	15.6	17.8	8.9	8.9	
18~19歳(31)	19.4	12.9	16.1	9.7	6.5	6.5	6.5	3.2	-	-	3.2	12.9	6.5	-	3.2	16.1	19.4	12.9	9.7	
世帯類型																				
母子世帯(188)	33.5	3.2	11.7	6.9	3.7	7.4	4.3	6.4	0.5	6.4	7.4	17.0	5.9	4.8	4.3	12.8	16.5	10.6	17.0	
父子世帯(70)	24.3	21.4	21.4	17.1	12.9	11.4	10.0	5.7	5.7	4.3	4.3	12.9	11.4	1.4	8.6	12.9	14.3	8.6	2.9	
就労収入																				
100万円未満(76)	34.2	-	11.8	7.9	3.9	6.6	2.6	5.3	-	6.6	5.3	14.5	6.6	5.3	1.3	11.8	15.8	10.5	19.7	
100万円以上200万円未満(45)	35.6	4.4	6.7	4.4	-	8.9	4.4	2.2	-	6.7	6.7	22.2	13.3	2.2	4.4	11.1	17.8	11.1	13.3	
200万円以上300万円未満(36)	27.8	8.3	11.1	13.9	8.3	-	8.3	8.3	2.8	2.8	13.9	8.3	5.6	-	8.3	13.9	11.1	8.3	5.6	
300万円以上400万円未満(29)	37.9	17.2	24.1	17.2	13.8	20.7	10.3	6.9	6.9	10.3	6.9	20.7	6.9	10.3	6.9	13.8	20.7	13.8	13.8	
400万円以上(39)	23.1	17.9	23.1	7.7	12.8	17.9	7.7	12.8	5.1	2.6	7.7	17.9	2.6	5.1	15.4	17.9	10.3	12.8	2.6	
わからない・答えたくない(33)	24.2	12.1	15.2	12.1	3.0	-	6.1	3.0	-	6.1	-	12.1	9.1	-	-	9.1	21.2	3.0	18.2	
学歴																				
中学校卒業(18)	33.3	-	11.1	5.6	-	5.6	-	-	-	11.1	5.6	11.1	-	5.6	5.6	16.7	16.7	-	11.1	
高等学校卒業(68)	32.4	10.3	8.8	8.8	7.4	5.9	5.9	1.5	2.9	5.9	7.4	19.1	11.8	4.4	4.4	10.3	13.2	7.4	19.1	
専修学校・各種学校卒業(30)	23.3	3.3	10.0	13.3	-	3.3	3.3	6.7	-	10.0	6.7	13.3	3.3	-	3.3	6.7	33.3	10.0	13.3	
専修学校・各種学校中退(4)	-	-	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
短大・高等専門学校卒業(42)	23.8	4.8	16.7	4.8	4.8	4.8	7.1	2.4	-	2.4	4.8	19.0	7.1	2.4	2.4	4.8	7.1	4.8	21.4	
短大・高等専門学校中退(2)	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	
大学卒業・大学院修了(93)	35.5	10.8	18.3	9.7	7.5	15.1	7.5	12.9	3.2	4.3	7.5	14.0	7.5	5.4	8.6	19.4	16.1	17.2	6.5	
その他(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
就労経験の有無																				
ある(170)	33.5	11.8	17.1	12.4	8.2	11.8	7.1	8.2	2.9	7.1	8.8	14.1	7.1	4.1	5.3	13.5	18.2	11.8	9.4	
ない(82)	25.6	-	8.5	4.9	2.4	2.4	2.4	2.4	-	3.7	2.4	18.3	6.1	3.7	4.9	12.2	12.2	7.3	22.0	
覚えていない(6)	33.3	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	-	33.3	33.3	-	16.7	-	-	-	-	

「その他」の主な意見

- 添削
- 部品組み立て、検品
- 縫製等
- 電話オペレーター
- 動画制作
- オンラインコーチング

Q 5 在宅ワークの受注に関する継続性

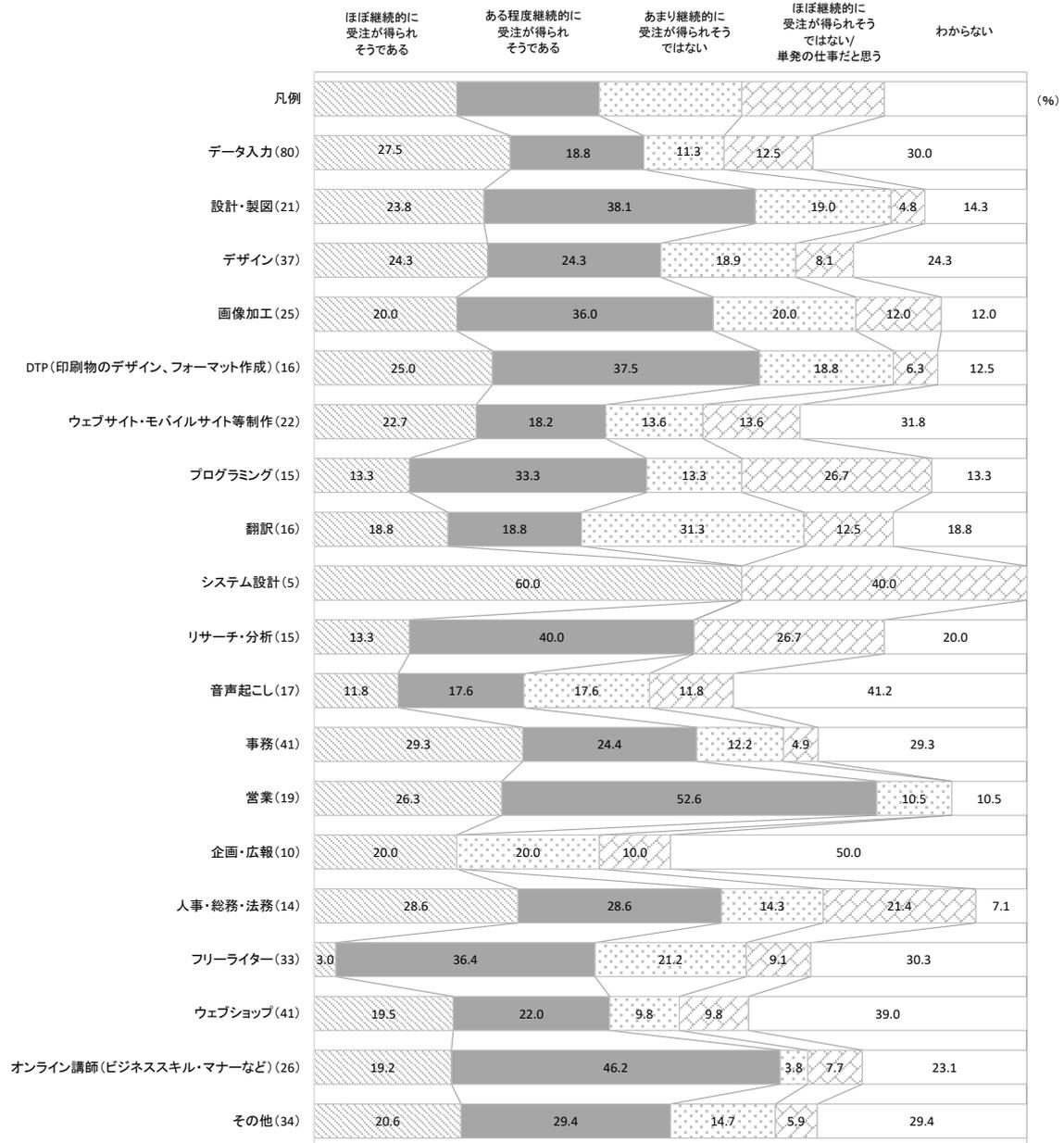
現在、受注している在宅ワークの業務について、継続的に受注を得られているかをたずねたところ、「ほぼ継続的に受注が得られている」をみると「システム設計」が75.0%と最も多く、「ほぼ継続的に受注が得られていない/単発の仕事である」をみると「翻訳」が最も多く44.0%であった。



()内は回答者数

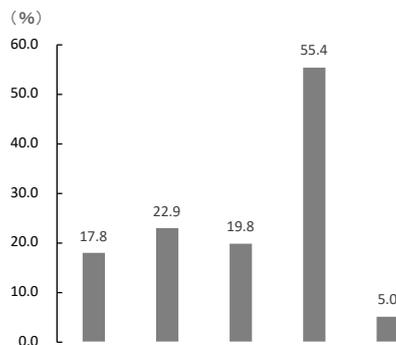
Q 6 将来、積極的に受注していきたい在宅ワークの受注見込み

将来に受注していきたい在宅ワークの業務について受注見込みをたずねたところ、「ほぼ継続的に受注が得られている」をみると、前問と同様に「システム設計」が最も多く 60.0%であったが、同時に「ほぼ継続的に受注が得られていない／単発の仕事だと思う」でも「システム設計」が最も多い業務であり、40.0%であった。



Q7① 現在の在宅ワークの受注経路（複数回答）

在宅ワークの受注経路についてたずねたところ、全体で見ると「直接受注」が最も多く、55.4%であった。



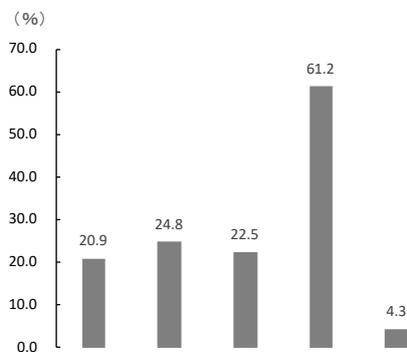
		仲介機関のマネージャーやコーディネーター経由	クラウドソーシング会社経由	同業者グループや他の在宅ワーカー経由	直接受注	その他
全体 (258)		17.8	22.9	19.8	55.4	5.0
子どもの人数	1人 (161)	19.9	19.9	19.9	56.5	5.0
	2人 (77)	13.0	29.9	18.2	55.8	5.2
	3人 (14)	21.4	14.3	28.6	28.6	7.1
	4人以上 (6)	16.7	33.3	16.7	83.3	-
末子の年齢	0～2歳 (33)	36.4	36.4	24.2	48.5	3.0
	3～5歳 (30)	23.3	26.7	16.7	43.3	3.3
	6～11歳 (72)	19.4	20.8	20.8	51.4	8.3
	12～14歳 (47)	10.6	17.0	21.3	63.8	2.1
	15～17歳 (45)	11.1	24.4	20.0	57.8	4.4
世帯類型	18・19歳 (31)	9.7	16.1	12.9	67.7	6.5
	母子世帯 (188)	13.8	21.8	16.0	56.9	5.9
	父子世帯 (70)	28.6	25.7	30.0	51.4	2.9
就労収入	100万円未満 (76)	15.8	18.4	14.5	56.6	6.6
	100万円以上200万円未満 (45)	8.9	26.7	13.3	62.2	4.4
	200万円以上300万円未満 (36)	19.4	25.0	27.8	44.4	5.6
	300万円以上400万円未満 (29)	34.5	24.1	34.5	51.7	-
	400万円以上 (39)	25.6	30.8	20.5	56.4	2.6
	わからない・答えたくない (33)	9.1	15.2	18.2	57.6	9.1
学歴	中学校卒業 (18)	22.2	27.8	22.2	38.9	5.6
	高等学校卒業 (68)	11.8	17.6	16.2	69.1	7.4
	専修学校・各種学校卒業 (30)	20.0	16.7	23.3	50.0	6.7
	専修学校・各種学校中退 (4)	50.0	-	25.0	25.0	-
	短大・高等専門学校卒業 (42)	2.4	11.9	23.8	64.3	7.1
	短大・高等専門学校中退 (2)	-	100.0	-	-	-
	大学卒業・大学院修了 (93)	26.9	31.2	19.4	49.5	2.2
その他 (1)	-	100.0	-	-	-	
就労経験の有無	ある (170)	25.3	25.3	22.9	52.9	2.9
	ない (82)	3.7	15.9	13.4	62.2	9.8
	覚えていない (6)	-	50.0	16.7	33.3	-

「その他」の主な意見

- 知人からの紹介

Q7② 本来希望する在宅ワークの受注経路（複数回答）

本来希望する受注経路をたずねたところ、「直接受注」が最も多く、前問と比べ6ポイントほど上昇している。



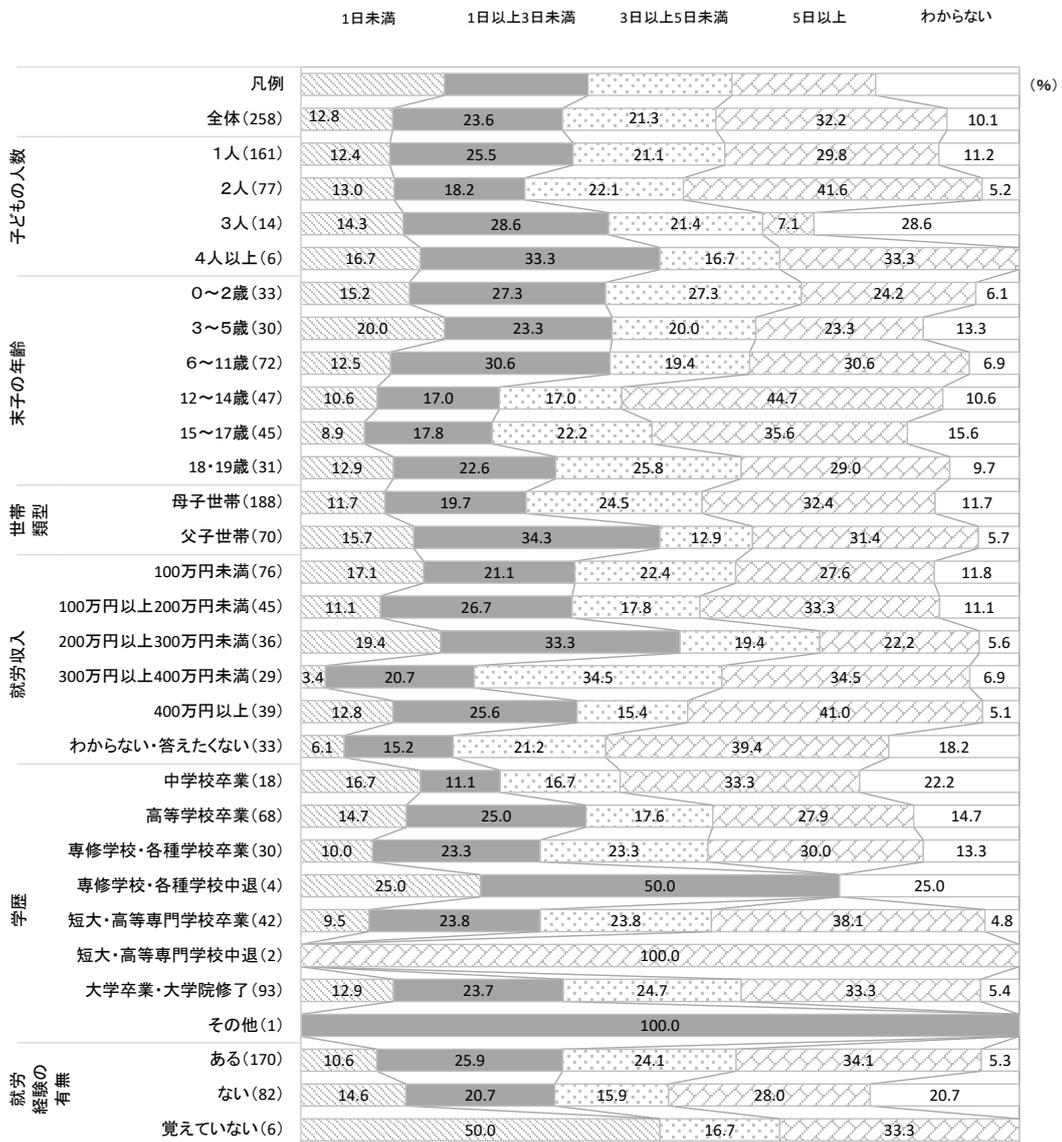
		仲介機関のマネージャーやコーディネーター経由	クラウドソーシング会社経由	同業者グループや他の在宅ワーカー経由	直接受注	その他
全体 (258)		20.9	24.8	22.5	61.2	4.3 (%)
子どもの人数	1人 (161)	23.0	23.0	20.5	61.5	4.3
	2人 (77)	18.2	32.5	22.1	62.3	5.2
	3人 (14)	14.3	7.1	42.9	42.9	-
	4人以上 (6)	16.7	16.7	33.3	83.3	-
末子の年齢	0～2歳 (33)	33.3	33.3	30.3	51.5	3.0
	3～5歳 (30)	20.0	30.0	23.3	46.7	3.3
	6～11歳 (72)	22.2	19.4	23.6	62.5	5.6
	12～14歳 (47)	14.9	21.3	23.4	63.8	4.3
	15～17歳 (45)	13.3	31.1	17.8	66.7	4.4
世帯類型	18・19歳 (31)	25.8	19.4	16.1	71.0	3.2
	母子世帯 (188)	17.6	21.3	18.6	64.4	5.9
	父子世帯 (70)	30.0	34.3	32.9	52.9	-
就労収入	100万円未満 (76)	18.4	19.7	10.5	64.5	7.9
	100万円以上200万円未満 (45)	15.6	20.0	17.8	71.1	4.4
	200万円以上300万円未満 (36)	19.4	27.8	41.7	38.9	2.8
	300万円以上400万円未満 (29)	41.4	37.9	37.9	55.2	-
	400万円以上 (39)	28.2	30.8	20.5	61.5	-
	わからない・答えたくない (33)	9.1	21.2	24.2	69.7	6.1
学歴	中学校卒業 (18)	22.2	11.1	22.2	55.6	5.6
	高等学校卒業 (68)	16.2	20.6	19.1	77.9	7.4
	専修学校・各種学校卒業 (30)	26.7	26.7	26.7	50.0	3.3
	専修学校・各種学校中退 (4)	25.0	-	50.0	25.0	-
	短大・高等専門学校卒業 (42)	7.1	11.9	28.6	64.3	7.1
	短大・高等専門学校中退 (2)	-	50.0	-	100.0	-
	大学卒業・大学院修了 (93)	29.0	35.5	20.4	53.8	1.1
その他 (1)	-	100.0	-	-	-	
就労経験の有無	ある (170)	28.2	29.4	25.3	57.1	2.9
	ない (82)	7.3	13.4	15.9	72.0	7.3
	覚えていない (6)	-	50.0	33.3	33.3	-

「その他」の主な意見

- 知人からの紹介
- SNS 経由

Q8 在宅ワークの週平均日数

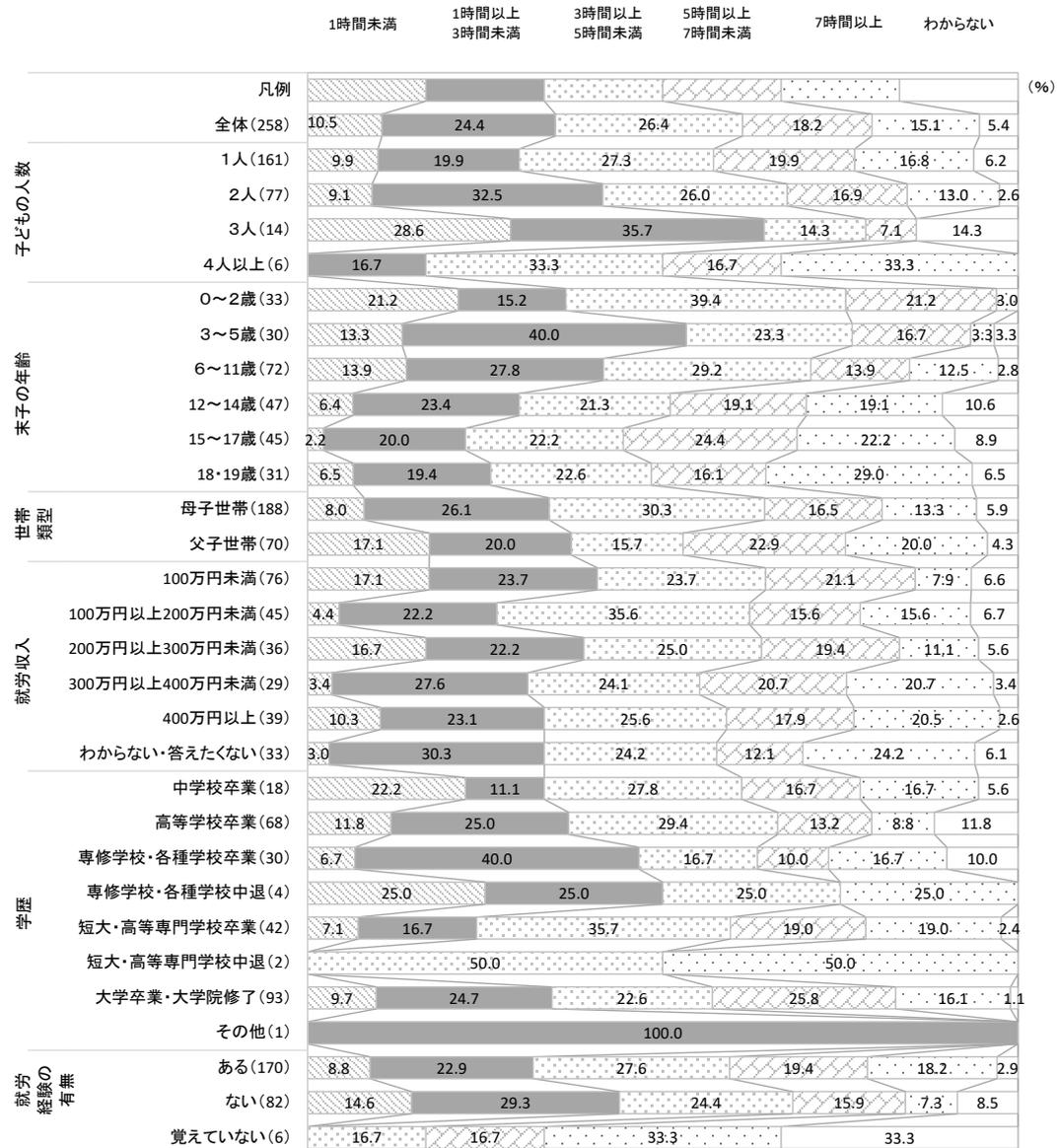
週に何日くらい在宅ワークの仕事をしているかをたずねたところ、全体で見ると「5日以上」が最も多く、32.2%であった。次いで、「1日以上3日未満」が23.6%、「3日以上5日未満」が21.3%の順となっている。



()内は回答者数

Q9① 在宅ワークの1日あたりの平均的な仕事時間

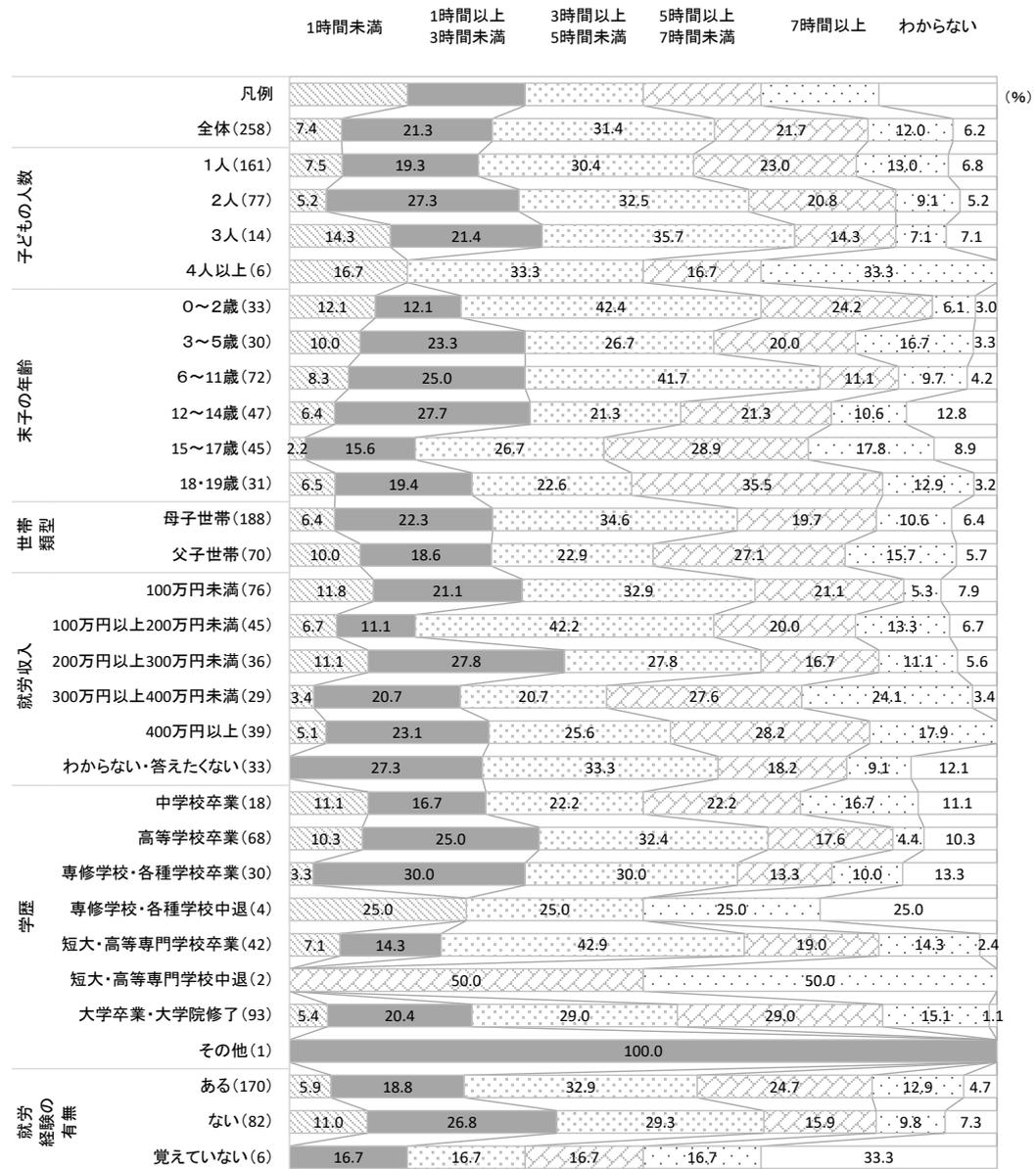
在宅ワークの仕事時間をたずねたところ、全体で見ると「3時間以上5時間未満」が26.4%と最も多く、次いで「1時間以上3時間未満」の24.4%となっている。



()内は回答者数

Q9② 本来希望する、在宅ワークの1日あたりの仕事時間

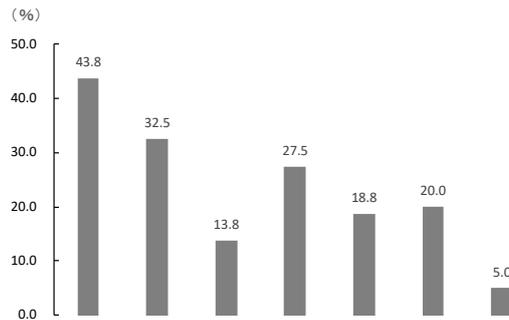
希望する1日あたりの仕事時間をたずねたところ、「3時間以上5時間未満」が最も多く、31.4%であった。



()内は回答者数

Q10 在宅ワークの仕事時間における現実と希望の差

実際に仕事をしている時間と本来希望する時間に差がある方を対象に、その理由についてたずねたところ、「受注量が少ない」が最も多く、43.8%であった。次いで、「子どもや要介護者の世話で十分な時間がとれない」が32.5%、「単価が安く、十分な金額を得るためには多くの時間を費やさないといけないため」が27.5%となっている。



		受注量が少ない	子どもや要介護者の世話で十分な時間がとれないため	自身の体調が優れないため	単価が安く、十分な金額を得るためには多くの時間を費やさないといけないため	自分のスキルが十分でなく、予定よりも時間が掛かってしまうため	継続的に仕事を得るために、きた仕事は断らないようにしているため	その他
全体 (80)		43.8	32.5	13.8	27.5	18.8	20.0	5.0
子どもの人数	1人 (48)	43.8	22.9	18.8	29.2	16.7	20.8	2.1
	2人 (26)	46.2	42.3	7.7	26.9	23.1	23.1	7.7
	3人 (5)	40.0	60.0	-	20.0	20.0	-	20.0
	4人以上 (1)	-	100.0	-	-	-	-	-
末子の年齢	0~2歳 (10)	40.0	70.0	30.0	20.0	10.0	20.0	-
	3~5歳 (15)	33.3	46.7	6.7	26.7	20.0	6.7	-
	6~11歳 (18)	44.4	33.3	11.1	16.7	27.8	16.7	11.1
	12~14歳 (16)	43.8	25.0	6.3	25.0	25.0	25.0	6.3
	15~17歳 (12)	66.7	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	8.3
18~19歳 (9)	33.3	-	-	55.6	-	22.2	-	
世帯類型	母子世帯 (57)	42.1	31.6	14.0	28.1	14.0	21.1	3.5
	父子世帯 (23)	47.8	34.8	13.0	26.1	30.4	17.4	8.7
就労収入	100万円未満 (26)	38.5	34.6	19.2	38.5	26.9	15.4	3.8
	100万円以上200万円未満 (14)	57.1	28.6	7.1	14.3	7.1	21.4	7.1
	200万円以上300万円未満 (7)	57.1	42.9	14.3	14.3	57.1	14.3	14.3
	300万円以上400万円未満 (8)	25.0	25.0	12.5	25.0	-	50.0	12.5
	400万円以上 (14)	35.7	35.7	14.3	21.4	14.3	21.4	-
わからない・答えたくない (11)	54.5	27.3	9.1	36.4	9.1	9.1	-	
学歴	中学校卒業 (5)	40.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-
	高等学校卒業 (16)	62.5	12.5	31.3	31.3	31.3	31.3	-
	専修学校・各種学校卒業 (7)	28.6	28.6	-	28.6	14.3	28.6	-
	専修学校・各種学校中退 (1)	100.0	-	-	-	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業 (11)	45.5	18.2	9.1	36.4	9.1	27.3	9.1
	短大・高等専門学校中退 (2)	-	50.0	-	100.0	-	-	-
	大学卒業・大学院修了 (38)	39.5	44.7	10.5	23.7	18.4	15.8	7.9
その他 (0)	-	-	-	-	-	-	-	
就労経験の有無	ある (51)	41.2	37.3	11.8	25.5	21.6	19.6	2.0
	ない (27)	48.1	22.2	18.5	29.6	11.1	22.2	11.1
	覚えていない (2)	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-

「その他」の主な意見

- 1つの仕事をするのに時間がかかっているため、将来は効率よく、時間をかけずに仕事をしていきたい。

Q11① 在宅ワークによる、最近の平均的な月収（手取り）

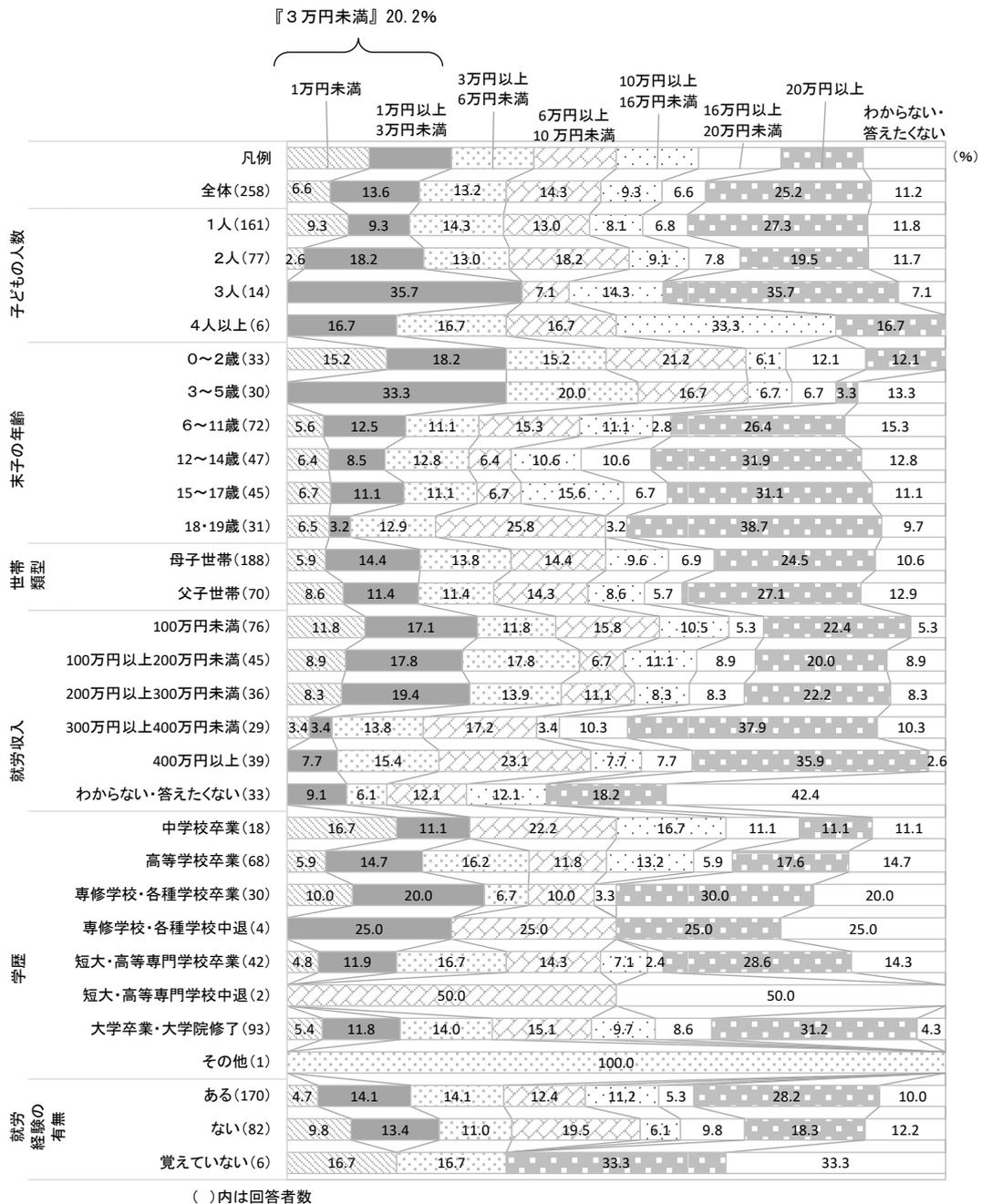
在宅ワークによる収入についてたずねたところ、全体で見ると多い順に「1万円以上3万円未満」が19.8%、「1万円未満」及び「3万円以上6万円未満」が15.5%、「20万円以上」が12.0%であった。



()内は回答者数

Q11② 本来希望する在宅ワークによる月収（手取り）

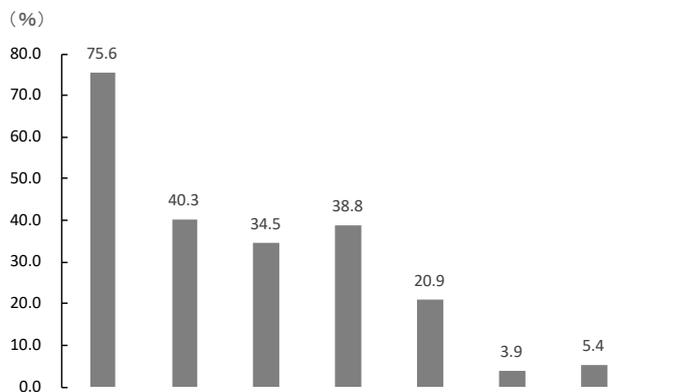
在宅ワークで本来希望する月収（手取り）をたずねたところ、全体で見ると「20万円以上」が25.2%となっている一方で、「1万円未満」と「1万円以上3万円未満」を合わせた『3万円未満』が20.2%となっている。



※『3万円未満』 = 「1万円未満」 + 「1万円以上3万円未満」

Q12 在宅ワークを続けるために必要な知識や技術（複数回答）

在宅ワークを続けるために必要な知識や技術をたずねたところ、全体で見ると「インターネットやパソコンを使いこなせること」が最も多く、75.6%であった。



		インターネットやパソコンを使いこなせること	エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせること	制作などの専門的な技術	個人事業主としての契約や経理、社会保障制度に関する知識	資格取得や検定試験の合格実績	自分の受注分野に関する最新の知識・技術	その他
全体 (258)		75.6	40.3	34.5	38.8	20.9	3.9	5.4
子どもの人数	1人(161)	77.0	35.4	32.9	36.6	22.4	4.3	4.3
	2人(77)	79.2	53.2	41.6	45.5	20.8	2.6	2.6
	3人(14)	57.1	21.4	21.4	35.7	7.1	-	14.3
	4人以上(6)	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0
末子の年齢	0～2歳(33)	84.8	36.4	30.3	36.4	33.3	3.0	3.0
	3～5歳(30)	83.3	40.0	33.3	16.7	6.7	-	-
	6～11歳(72)	69.4	43.1	30.6	38.9	19.4	4.2	6.9
	12～14歳(47)	70.2	34.0	36.2	44.7	12.8	8.5	6.4
	15～17歳(45)	80.0	42.2	33.3	37.8	31.1	4.4	8.9
18・19歳(31)	74.2	45.2	48.4	54.8	22.6	-	3.2	
世帯類型	母子世帯(188)	74.5	42.0	34.6	36.7	21.3	4.3	6.9
	父子世帯(70)	78.6	35.7	34.3	44.3	20.0	2.9	1.4
就労収入	100万円未満(76)	73.7	34.2	31.6	35.5	15.8	5.3	7.9
	100万円以上200万円未満(45)	71.1	42.2	31.1	33.3	20.0	4.4	4.4
	200万円以上300万円未満(36)	77.8	22.2	27.8	30.6	16.7	2.8	2.8
	300万円以上400万円未満(29)	82.8	48.3	48.3	51.7	34.5	-	6.9
	400万円以上(39)	82.1	61.5	33.3	48.7	28.2	5.1	-
	わからない・答えたくない(33)	69.7	39.4	42.4	39.4	18.2	3.0	9.1
学歴	中学校卒業(18)	77.8	33.3	33.3	16.7	5.6	-	11.1
	高等学校卒業(68)	69.1	30.9	33.8	47.1	22.1	5.9	4.4
	専修学校・各種学校卒業(30)	83.3	43.3	26.7	40.0	20.0	3.3	6.7
	専修学校・各種学校中退(4)	75.0	-	25.0	50.0	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(42)	71.4	42.9	40.5	35.7	14.3	2.4	11.9
	短大・高等専門学校中退(2)	100.0	100.0	50.0	-	-	-	-
	大学卒業・大学院修了(93)	78.5	47.3	35.5	38.7	28.0	4.3	2.2
その他(1)	100.0	-	-	-	-	-	-	
就労経験の有無	ある(170)	75.3	41.8	40.0	42.4	22.4	3.5	4.7
	ない(82)	76.8	36.6	23.2	32.9	15.9	4.9	7.3
	覚えていない(6)	66.7	50.0	33.3	16.7	50.0	-	-

自由記述の主な意見

<「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」>

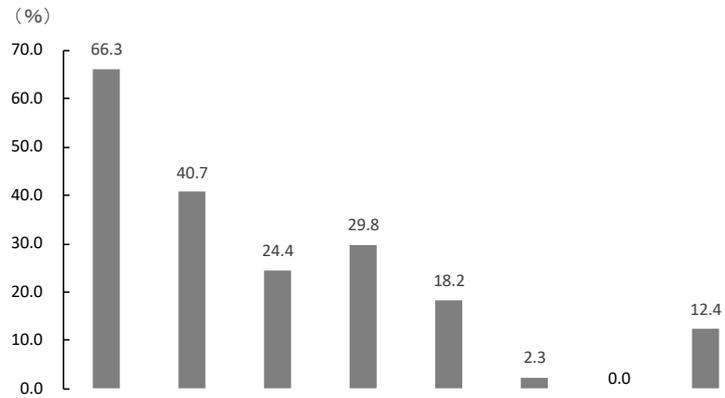
- 関連法規に沿った助言
- プログラミングの知識

<「その他」>

- 正確、丁寧にできるかどうか
- 納期を守る
- 自身の健康管理

Q13 保有している知識や技術（複数回答）

現在、保有している知識や技術をたずねたところ、前問と同様に「インターネットやパソコンを使いこなせる」が66.3%と、最も多い結果であった。



		インターネットやパソコンを使いこなせる	エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる	制作などの専門的な技術	個人事業主としての契約や経理、社会保障制度に関する知識	資格取得や検定試験の合格実績	自分の受注分野に関する最新の知識・技術	その他	あてはまるものはない
全体(258)		66.3	40.7	24.4	29.8	18.2	2.3	-	12.4
子どもの人数	1人(161)	66.5	39.1	24.2	29.8	16.8	2.5	-	12.4
	2人(77)	74.0	48.1	26.0	31.2	22.1	1.3	-	6.5
	3人(14)	28.6	21.4	21.4	28.6	14.3	-	-	28.6
	4人以上(6)	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-	50.0
	末子の年齢	0~2歳(33)	72.7	51.5	24.2	27.3	24.2	3.0	-
	3~5歳(30)	80.0	36.7	13.3	20.0	20.0	-	-	3.3
	6~11歳(72)	61.1	36.1	16.7	34.7	15.3	1.4	-	12.5
	12~14歳(47)	66.0	48.9	31.9	31.9	14.9	6.4	-	14.9
	15~17歳(45)	62.2	35.6	20.0	28.9	24.4	2.2	-	13.3
	18・19歳(31)	64.5	38.7	48.4	29.0	12.9	-	-	19.4
世帯類型	母子世帯(188)	61.7	42.0	21.3	28.2	18.6	2.7	-	16.0
	父子世帯(70)	78.6	37.1	32.9	34.3	17.1	1.4	-	2.9
就労収入	100万円未満(76)	51.3	26.3	15.8	28.9	17.1	2.6	-	15.8
	100万円以上200万円未満(45)	71.1	46.7	13.3	24.4	13.3	2.2	-	17.8
	200万円以上300万円未満(36)	69.4	38.9	19.4	19.4	13.9	2.8	-	-
	300万円以上400万円未満(29)	72.4	51.7	44.8	37.9	34.5	-	-	10.3
	400万円以上(39)	79.5	61.5	35.9	51.3	23.1	5.1	-	5.1
	わからない・答えたくない(33)	69.7	33.3	33.3	18.2	12.1	-	-	21.2
学歴	中学校卒業(18)	50.0	27.8	5.6	22.2	-	-	-	22.2
	高等学校卒業(68)	61.8	32.4	20.6	36.8	14.7	2.9	-	19.1
	専修学校・各種学校卒業(30)	66.7	30.0	33.3	26.7	16.7	3.3	-	10.0
	専修学校・各種学校中退(4)	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(42)	66.7	40.5	35.7	21.4	16.7	2.4	-	11.9
	短大・高等専門学校中退(2)	100.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-
	大学卒業・大学院修了(93)	71.0	53.8	23.7	32.3	26.9	2.2	-	6.5
	その他(1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0
就労経験の有無	ある(170)	67.6	43.5	30.0	34.1	19.4	2.4	-	9.4
	ない(82)	63.4	35.4	12.2	20.7	15.9	2.4	-	18.3
	覚えていない(6)	66.7	33.3	33.3	33.3	16.7	-	-	16.7

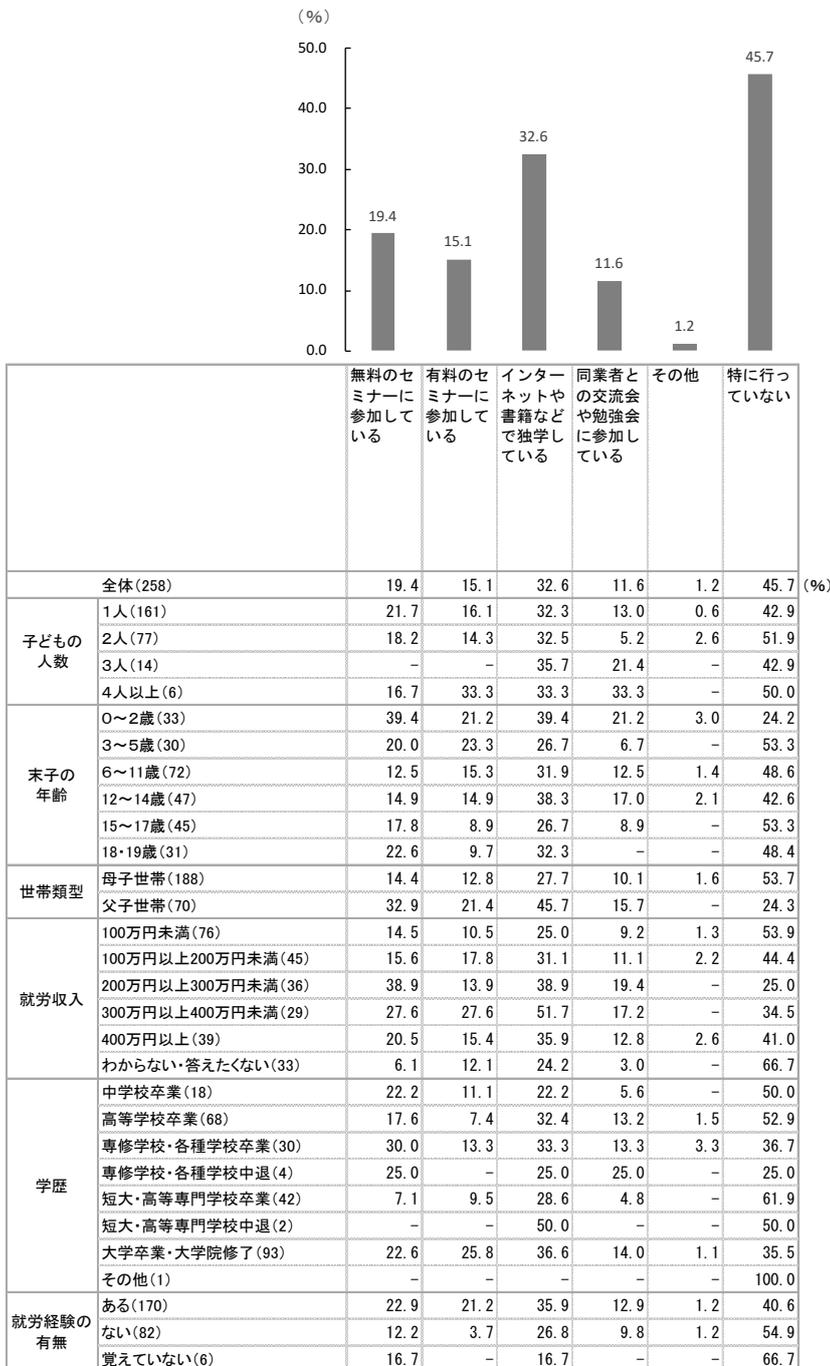
自由記述の主な意見

<「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」>

- 関連法規に沿った助言
- CAD
- プログラミング

Q14 取り組んでいるスキルアップ（複数回答）

スキルアップのために取り組んでいることをたずねたところ、「インターネットや書籍などで独学している」が32.6%であった一方で、「特に行っていない」が45.7%であった。

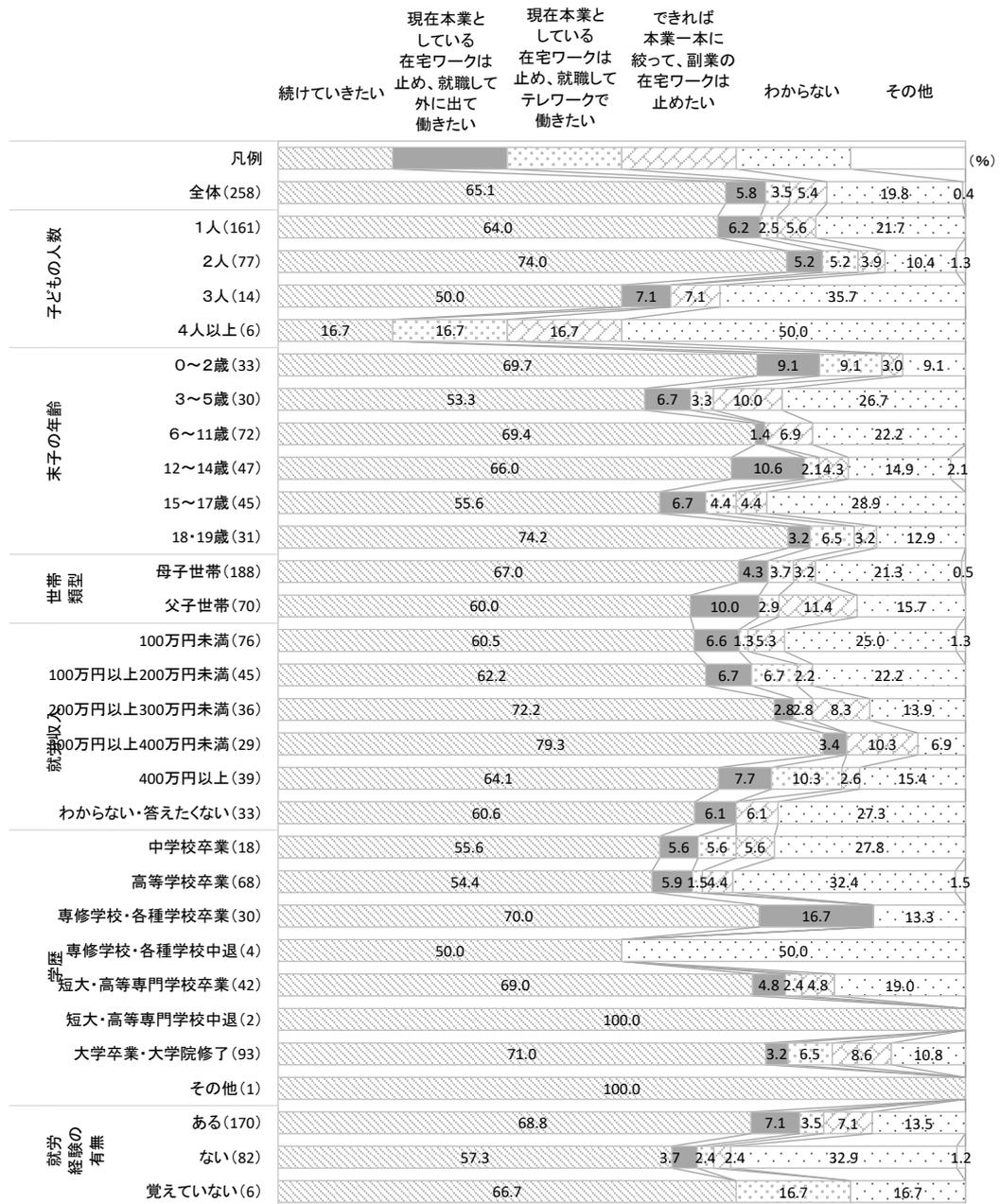


「その他」の主な意見

- パソコン教室に通った

Q15 在宅ワークに対する今後の希望

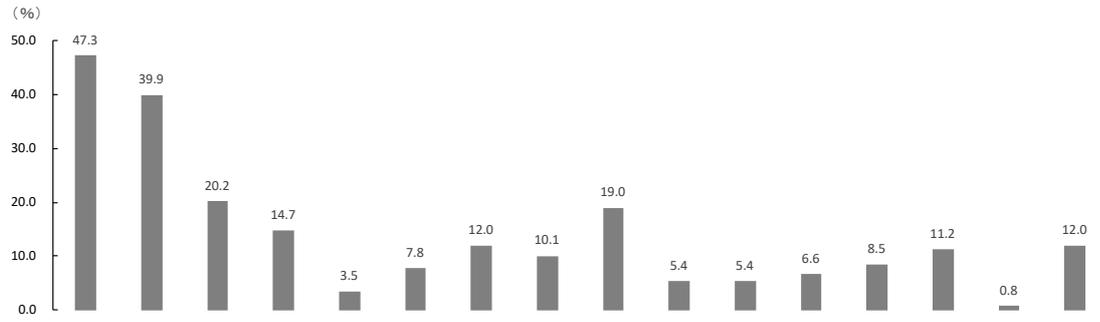
今後も在宅ワークを続けていきたいかをたずねたところ、全体で見ると「続けていきたい」が最も多く、65.1%であった。



()内は回答者数

Q16 在宅ワークで困っていること

現在、在宅ワークをするうえで困っていることをたずねたところ、全体でみると多い順に「収入や仕事量が安定しない、伸びない」が47.3%、「期待する収入が得られない」が39.9%、「仕事の探し方や増やし方がわからない」が20.2%となっている。



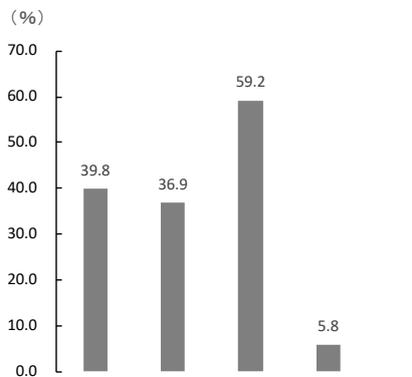
	収入や仕事量が安定しない、伸びない	期待する収入が得られない	仕事の探し方や増やし方がわからない	育児での中断が多い	介護での中断が多い	仕事中の子ども(児童)の居場所がない	仕事をすすめるスペースが手狭である	長期間働きたすぎしてしまう	オンオフの切り替えが難しい	報酬の支払いが遅い	報酬や納期、品質などに関するトラブルが起きたことがある	必要な機材等にかかる	スキルアップの方法がわからない	スキルアップのための時間・お金がない	その他	特になし	
全体(258)	47.3	39.9	20.2	14.7	3.5	7.8	12.0	10.1	19.0	5.4	5.4	6.6	8.5	11.2	0.8	12.0	
子どもの人数	1人(161)	49.1	37.3	17.4	12.4	1.2	6.2	9.9	9.3	17.4	5.6	2.5	5.6	8.1	9.9	-	13.0
	2人(77)	45.5	50.6	22.1	20.8	9.1	13.0	18.2	14.3	24.7	6.5	11.7	10.4	9.1	15.6	1.3	7.8
	3人(14)	28.6	14.3	35.7	-	-	-	7.1	-	14.3	-	-	-	7.1	7.1	-	28.6
	4人以上(6)	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-
末子の年齢	0~2歳(33)	54.5	24.2	30.3	45.5	6.1	18.2	18.2	3.0	15.2	3.0	6.1	6.1	9.1	12.1	3.0	3.0
	3~5歳(30)	36.7	33.3	16.7	26.7	13.3	16.7	6.7	16.7	20.0	3.3	-	-	6.7	6.7	-	6.7
	6~11歳(72)	40.3	43.1	23.6	12.5	1.4	8.3	12.5	8.3	15.3	1.4	5.6	5.6	2.8	11.1	-	19.4
	12~14歳(47)	42.6	40.4	12.8	6.4	2.1	2.1	14.9	10.6	25.5	4.3	8.5	8.5	12.8	14.9	-	14.9
	15~17歳(45)	51.1	42.2	15.6	-	2.2	2.2	6.7	13.3	17.8	8.9	8.9	11.1	11.1	11.1	2.2	13.3
世帯類型	18~19歳(31)	67.7	51.6	22.6	9.7	-	3.2	12.9	9.7	22.6	16.1	-	6.5	12.9	9.7	-	3.2
	母子世帯(188)	46.8	39.9	16.5	16.0	1.1	6.4	12.8	11.2	20.2	3.7	5.3	5.3	8.0	12.8	1.1	14.4
就労収入	父子世帯(70)	48.6	40.0	30.0	11.4	10.0	11.4	10.0	7.1	15.7	10.0	5.7	10.0	10.0	7.1	-	5.7
	100万円未満(76)	52.6	38.2	13.2	14.5	1.3	2.6	13.2	13.2	23.7	3.9	6.6	3.9	5.3	13.2	1.3	13.2
	100万円以上200万円未満(45)	40.0	48.9	31.1	11.1	2.2	11.1	11.1	8.9	13.3	2.2	2.2	4.4	4.4	6.7	-	15.6
	200万円以上300万円未満(36)	55.6	36.1	16.7	16.7	-	11.1	2.8	8.3	13.9	5.6	8.3	2.8	2.8	5.6	-	5.6
	300万円以上400万円未満(29)	51.7	37.9	31.0	20.7	10.3	13.8	31.0	17.2	31.0	3.4	10.3	17.2	27.6	17.2	-	10.3
	400万円以上(39)	25.6	30.8	15.4	12.8	10.3	10.3	7.7	10.3	17.9	12.8	2.6	5.1	10.3	5.1	2.6	7.7
学歴	わからない・答えたくない(33)	57.6	48.5	21.2	15.2	-	3.0	9.1	-	12.1	6.1	3.0	12.1	9.1	21.2	-	18.2
	中学校卒業(18)	55.6	22.2	16.7	11.1	-	-	5.6	-	11.1	-	5.6	5.6	5.6	22.2	-	16.7
	高等学校卒業(68)	50.0	44.1	19.1	14.7	2.9	5.9	13.2	1.5	13.2	4.4	4.4	5.9	10.3	11.8	-	17.6
	専修学校・各種学校卒業(30)	53.3	46.7	16.7	3.3	6.7	6.7	10.0	16.7	23.3	10.0	3.3	6.7	10.0	10.0	-	10.0
	専修学校・各種学校中退(4)	75.0	75.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(42)	26.2	26.2	11.9	21.4	-	4.8	4.8	16.7	28.6	7.1	9.5	7.1	9.5	11.9	2.4	23.8
	短大・高等専門学校中退(2)	100.0	100.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	大学卒業・大学院修了(93)	48.4	40.9	24.7	17.2	5.4	12.9	16.1	12.9	19.4	4.3	4.3	6.5	7.5	8.6	1.1	3.2
就労経験の有無	その他(1)	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ある(170)	50.6	38.8	21.8	16.5	5.3	10.6	12.4	10.6	22.4	4.7	4.7	7.1	9.4	11.2	0.6	8.2
	ない(82)	40.2	42.7	18.3	9.8	-	2.4	12.2	9.8	12.2	7.3	7.3	4.9	7.3	11.0	1.2	19.5
覚えていない(6)	50.0	33.3	-	33.3	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	

「その他」の主な意見

- 何でも屋になりがち
- コロナの影響で会社の経営が厳しく、いつまで仕事がもらえるかわからない

Q17 期待する収入が得られない理由（複数回答）

前問で、「期待する収入が得られない」と答えた方を対象に、その理由をたずねたところ、「仕事の単価が安い」が最も多く、59.2%であった。



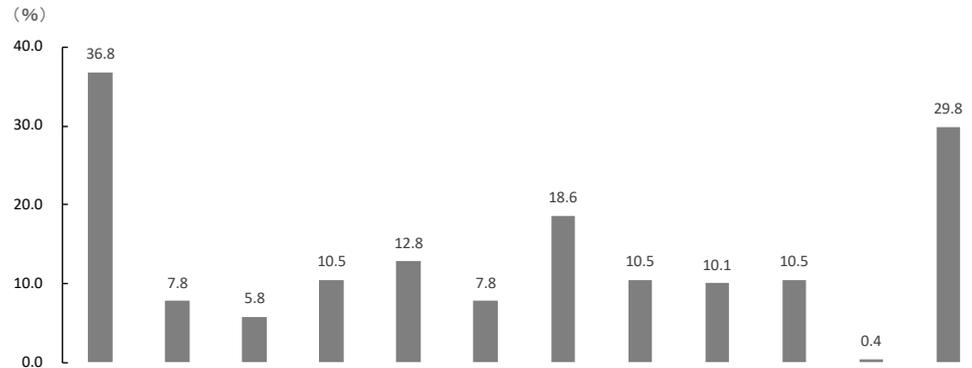
		仕事が見つからない	自分のスキルが足りない	仕事の単価が安い	その他
全体 (103)		39.8	36.9	59.2	5.8 (%)
子どもの人数	1人 (60)	35.0	36.7	65.0	5.0
	2人 (39)	51.3	38.5	48.7	7.7
	3人 (2)	-	50.0	50.0	-
	4人以上 (2)	-	-	100.0	-
末子の年齢	0~2歳 (8)	37.5	50.0	62.5	-
	3~5歳 (10)	50.0	30.0	50.0	-
	6~11歳 (31)	38.7	29.0	54.8	-
	12~14歳 (19)	36.8	36.8	63.2	15.8
	15~17歳 (19)	36.8	63.2	57.9	10.5
世帯類型	母子世帯 (75)	36.0	32.0	62.7	8.0
	父子世帯 (28)	50.0	50.0	50.0	-
就労収入	100万円未満 (29)	31.0	27.6	69.0	10.3
	100万円以上200万円未満 (22)	45.5	27.3	40.9	9.1
	200万円以上300万円未満 (13)	23.1	30.8	61.5	7.7
	300万円以上400万円未満 (11)	54.5	54.5	72.7	-
	400万円以上 (12)	58.3	58.3	41.7	-
	わからない・答えたくない (16)	37.5	43.8	68.8	-
学歴	中学校卒業 (4)	50.0	25.0	75.0	-
	高等学校卒業 (30)	36.7	26.7	63.3	10.0
	専修学校・各種学校卒業 (14)	21.4	64.3	57.1	-
	専修学校・各種学校中退 (3)	66.7	33.3	-	-
	短大・高等専門学校卒業 (11)	36.4	36.4	45.5	27.3
	短大・高等専門学校中退 (2)	50.0	-	100.0	-
	大学卒業・大学院修了 (38)	47.4	39.5	60.5	-
その他 (1)	-	-	100.0	-	
就労経験の有無	ある (66)	42.4	37.9	59.1	1.5
	ない (35)	37.1	34.3	60.0	14.3
	覚えていない (2)	-	50.0	50.0	-

「その他」の主な意見

- コロナの影響で仕事が減っている

Q18 在宅ワークに必要な支援（複数回答）

在宅ワークをするうえで必要としている支援をたずねたところ、全体でみると「仕事の紹介」が36.8%と最も多いものの、「特にない」という回答も29.8%あった。



	仕事の紹介	仕事中の乳幼児の託児支援	託児付きの貸しオフィスの提供	仕事中的子ども(児童)の居場所づくり	自宅以外で仕事ができる場所の提供	子ども連れで参加できるスキルアップ研修	ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がれる場やネットワーク	パソコンや通信環境のトラブル時の相談窓口	使用するパソコンのソフトに関する指導	報酬や納期、品質などに関するトラブル発生時の相談窓口	その他	特にない	
全体(258)	36.8	7.8	5.8	10.5	12.8	7.8	18.6	10.5	10.1	10.5	0.4	29.8	
子どもの人数	1人(161)	42.2	3.7	4.3	9.3	9.9	5.0	19.3	9.3	11.8	11.2	0.6	27.3
	2人(77)	29.9	11.7	9.1	14.3	20.8	13.0	19.5	13.0	7.8	10.4	-	31.2
	3人(14)	21.4	21.4	-	-	-	-	7.1	7.1	-	-	-	42.9
	4人以上(6)	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-	50.0
末子の年齢	0~2歳(33)	51.5	24.2	12.1	15.2	21.2	24.2	33.3	9.1	12.1	12.1	-	12.1
	3~5歳(30)	33.3	13.3	13.3	16.7	20.0	16.7	23.3	10.0	6.7	10.0	-	13.3
	6~11歳(72)	30.6	5.6	6.9	18.1	11.1	4.2	19.4	6.9	6.9	5.6	-	34.7
	12~14歳(47)	27.7	2.1	2.1	4.3	10.6	6.4	17.0	10.6	14.9	17.0	-	36.2
	15~17歳(45)	37.8	4.4	-	-	11.1	2.2	13.3	17.8	6.7	11.1	2.2	42.2
世帯類型	18~19歳(31)	51.6	3.2	3.2	6.5	6.5	-	6.5	9.7	16.1	9.7	-	25.8
	母子世帯(188)	35.1	6.4	3.2	8.0	11.7	5.9	21.3	10.6	9.6	9.6	-	34.6
	父子世帯(70)	41.4	11.4	12.9	17.1	15.7	12.9	11.4	10.0	11.4	12.9	1.4	17.1
就労収入	100万円未満(76)	34.2	9.2	1.3	7.9	14.5	3.9	19.7	9.2	6.6	10.5	-	31.6
	100万円以上200万円未満(45)	33.3	8.9	11.1	4.4	11.1	11.1	17.8	11.1	6.7	2.2	-	33.3
	200万円以上300万円未満(36)	44.4	5.6	5.6	13.9	8.3	2.8	13.9	5.6	8.3	11.1	-	25.0
	300万円以上400万円未満(29)	34.5	13.8	10.3	17.2	24.1	20.7	27.6	17.2	20.7	13.8	-	31.0
	400万円以上(39)	38.5	5.1	7.7	17.9	17.9	7.7	15.4	7.7	10.3	15.4	2.6	23.1
	わからない・答えたくない(33)	39.4	3.0	3.0	6.1	-	6.1	18.2	15.2	15.2	12.1	-	33.3
学歴	中学校卒業(18)	55.6	11.1	-	5.6	16.7	5.6	16.7	5.6	-	11.1	-	22.2
	高等学校卒業(68)	30.9	2.9	5.9	8.8	14.7	5.9	16.2	11.8	8.8	8.8	-	44.1
	専修学校・各種学校卒業(30)	26.7	13.3	10.0	6.7	6.7	10.0	23.3	10.0	16.7	10.0	-	30.0
	専修学校・各種学校中退(4)	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(42)	19.0	4.8	-	9.5	2.4	4.8	19.0	9.5	9.5	11.9	-	50.0
	短大・高等専門学校中退(2)	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
	大学卒業・大学院修了(93)	47.3	9.7	8.6	15.1	18.3	10.8	20.4	10.8	11.8	10.8	1.1	12.9
その他(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
就労経験の有無	ある(170)	41.8	10.0	7.6	14.1	12.9	9.4	20.6	12.4	12.9	11.8	0.6	22.9
	ない(82)	29.3	3.7	2.4	2.4	13.4	4.9	15.9	7.3	4.9	7.3	-	40.2
	覚えていない(6)	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	83.3

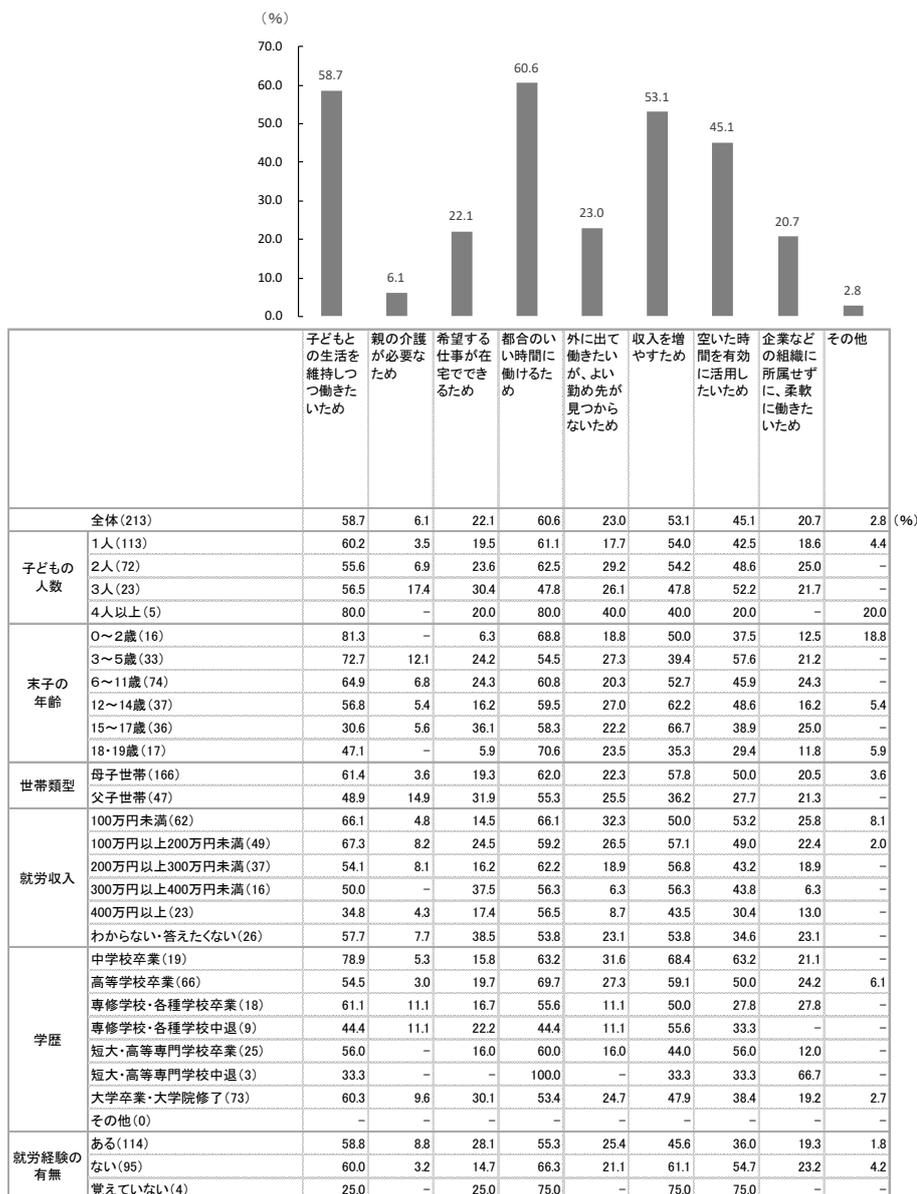
「その他」の主な意見

- 融資

イ 「いまはしていないが、今後在宅ワークを希望している方」に対する設問

Q19 在宅ワークを希望する理由（複数回答）

在宅ワークを始めたいと希望している理由をたずねたところ、多い順に「都合のいい時間に働けるため」が60.6%、「子どもとの生活を維持しつつ働きたいため」が58.7%、「収入を増やすため」が53.1%となっている。

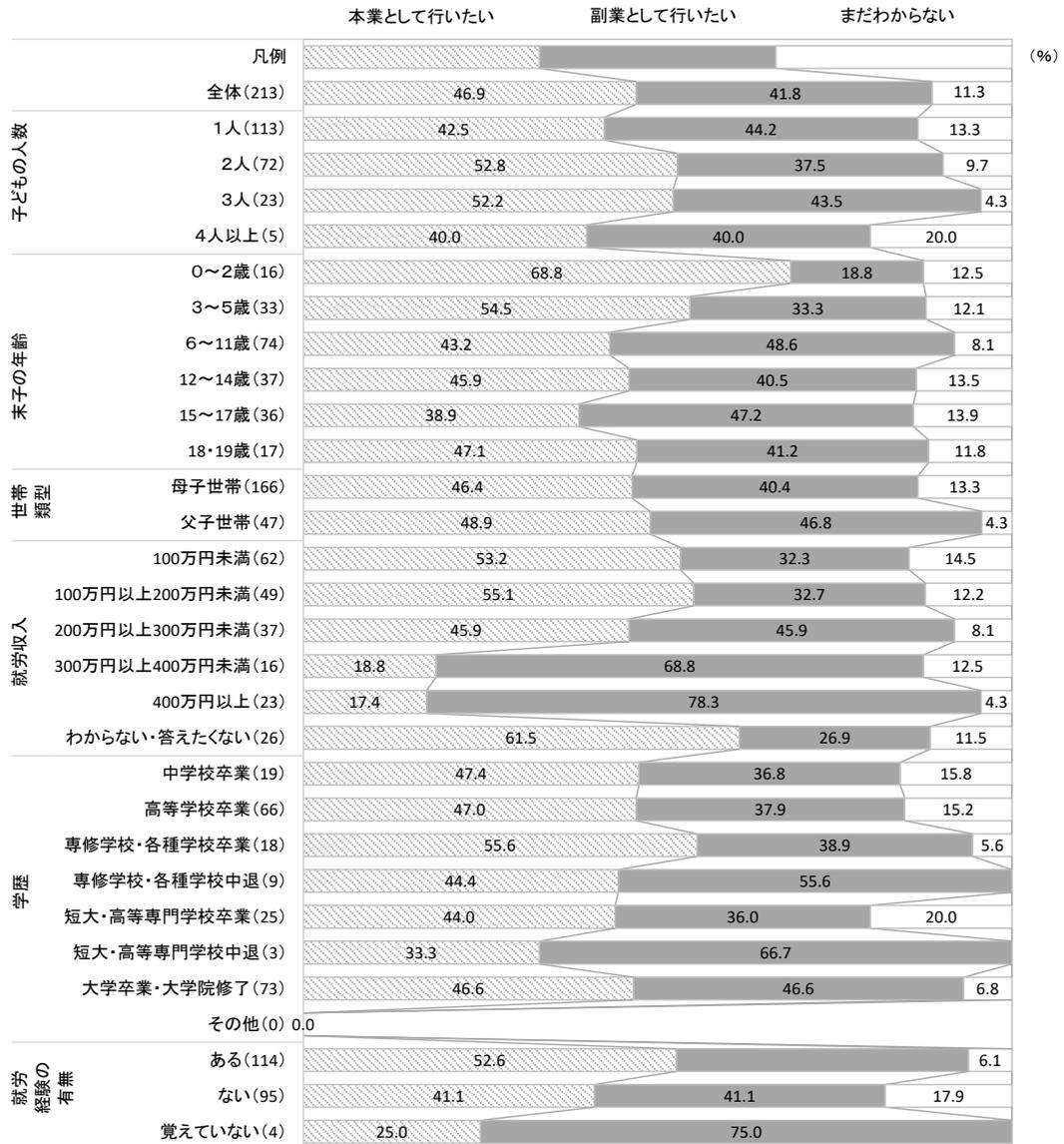


「その他」の主な意見

- 自身の体調が優れないため
- 子どもの看病のため
- コロナ禍により、人が集まる場所へ行きにくい

Q20 在宅ワークに対する位置づけ

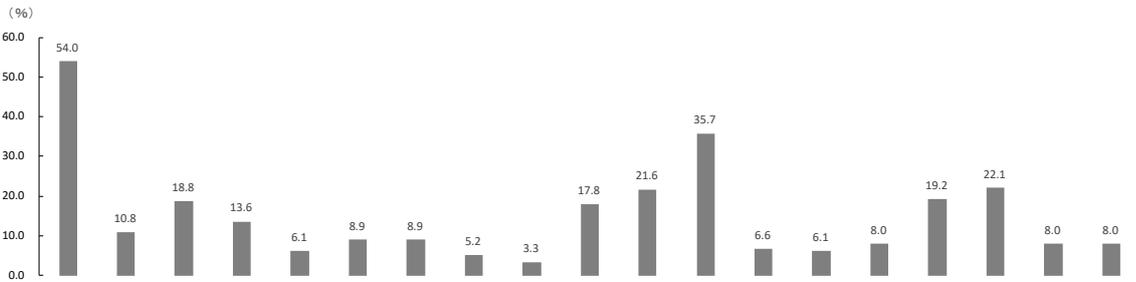
在宅ワークを本業として行いたい、副業として行いたいかをたずねたところ、全体でみると、「本業として行いたい」が46.9%である一方、「副業として行いたい」も41.8%と同程度の結果であった。



()内は回答者数

Q21 将来、受注していきたい在宅ワークの業務内容（複数回答）

将来にわたり受注していきたい在宅ワークの業務内容をたずねたところ、多い順に「データ入力」が54.0%、「事務」が35.7%、「ウェブショップ」が22.1%であった。



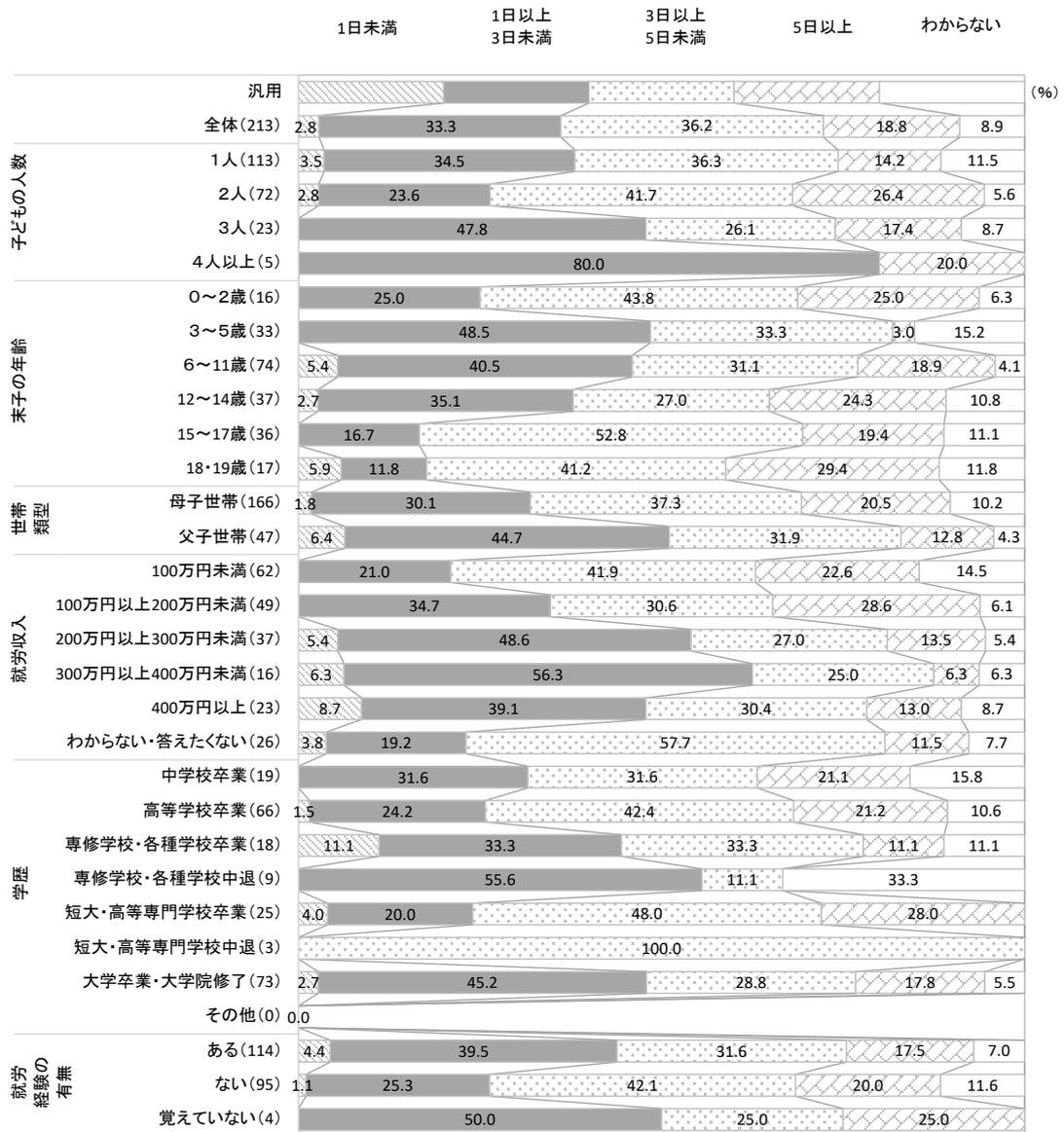
	データ入力	設計・製図	デザイン	画像加工	DTP(印刷物のデザイン、フォーマット作成)	ウェブсай・モバイルサイト等制作	プログラミング	翻訳	システム設計	リサーチ・分析	音声起こし	事務	営業	企画・広報	人事・総務・法務	フリーライター	ウェブショップ	オンライン講師(ビジネススキル・マナーなど)	その他	
全体(213)	54.0	10.8	18.8	13.6	6.1	8.9	8.9	5.2	3.3	17.8	21.6	35.7	6.6	6.1	8.0	19.2	22.1	8.0	8.0	
子どもの人数																				
1人(113)	54.9	8.0	16.8	10.6	5.3	10.6	8.0	3.5	0.9	15.9	22.1	34.5	4.4	3.5	10.6	21.2	26.5	10.6	9.7	
2人(72)	55.6	11.1	19.4	15.3	6.9	6.9	8.3	5.6	2.8	18.1	18.1	37.5	5.6	5.6	2.8	18.1	18.1	6.9	8.3	
3人(23)	52.2	21.7	21.7	13.0	8.7	8.7	17.4	13.0	13.0	21.7	30.4	39.1	17.4	21.7	13.0	8.7	13.0	-	-	
4人以上(5)	20.0	20.0	40.0	60.0	-	-	-	-	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	-	-	40.0	20.0	-	-	
末子の年齢																				
0~2歳(16)	68.8	6.3	18.8	18.8	12.5	18.8	6.3	-	-	12.5	25.0	50.0	6.3	6.3	12.5	25.0	43.8	12.5	12.5	
3~5歳(33)	60.6	21.2	30.3	27.3	12.1	15.2	15.2	12.1	9.1	21.2	21.2	36.4	12.1	12.1	12.1	6.1	12.1	6.1	3.0	
6~11歳(74)	51.4	9.5	16.2	10.8	4.1	8.1	8.1	2.7	2.7	17.6	20.3	31.1	5.4	5.4	6.8	23.0	21.6	10.8	10.8	
12~14歳(37)	56.8	8.1	13.5	8.1	2.7	8.1	8.1	8.1	-	18.9	18.9	37.8	2.7	5.4	8.1	16.2	13.5	10.8	13.5	
15~17歳(36)	50.0	8.3	19.4	13.9	5.6	5.6	11.1	5.6	2.8	13.9	27.8	33.3	8.3	2.8	5.6	13.9	16.7	2.8	2.8	
18~19歳(17)	41.2	11.8	17.6	5.9	5.9	-	-	-	5.9	23.5	17.6	41.2	5.9	5.9	5.9	41.2	52.9	-	-	
世帯類型																				
母子世帯(166)	56.6	5.4	14.5	9.6	3.6	6.6	4.8	4.2	1.2	19.3	24.7	40.4	3.6	5.4	6.6	18.1	25.3	6.0	10.2	
父子世帯(47)	44.7	29.8	34.0	27.7	14.9	17.0	23.4	8.5	10.6	12.8	10.6	19.1	17.0	8.5	12.8	23.4	10.6	14.9	-	
就労収入																				
100万円未満(62)	59.7	3.2	12.9	12.9	4.8	8.1	8.1	1.6	1.6	17.7	25.8	37.1	8.1	8.1	6.5	22.6	24.2	4.8	11.3	
100万円以上200万円未満(49)	65.3	10.2	12.2	10.2	4.1	10.2	8.2	6.1	2.0	16.3	18.4	42.9	2.0	8.2	10.2	18.4	26.5	6.1	6.1	
200万円以上300万円未満(37)	35.1	13.5	27.0	16.2	5.4	8.1	10.8	8.1	5.4	8.1	10.8	21.6	10.8	2.7	8.1	13.5	13.5	13.5	16.2	
300万円以上400万円未満(16)	68.8	25.0	18.8	25.0	12.5	12.5	18.8	6.3	12.5	12.5	18.8	43.8	-	-	-	18.8	25.0	6.3	-	
400万円以上(23)	34.8	17.4	30.4	13.0	13.0	17.4	13.0	4.3	4.3	39.1	17.4	34.8	17.4	13.0	17.4	17.4	17.4	17.4	-	
わからない・答えたくない(26)	53.8	11.5	23.1	11.5	3.8	-	-	7.7	-	19.2	38.5	34.6	-	-	3.8	23.1	23.1	3.8	3.8	
学歴																				
中学校卒業(19)	42.1	5.3	5.3	5.3	10.5	-	5.3	5.3	-	26.3	31.6	5.3	15.8	5.3	-	10.5	10.5	-	5.3	
高等学校卒業(66)	62.1	6.1	15.2	13.6	4.5	4.5	3.0	-	-	15.2	25.8	39.4	1.5	6.1	3.0	15.2	31.8	7.6	12.1	
専修学校・各種学校卒業(18)	33.3	16.7	11.1	5.6	-	-	-	-	-	5.6	11.1	44.4	-	-	5.6	22.2	16.7	5.6	11.1	
専修学校・各種学校中退(9)	33.3	33.3	33.3	11.1	-	11.1	-	11.1	11.1	11.1	-	22.2	-	11.1	22.2	33.3	22.2	-	11.1	
短大・高等専門学校卒業(25)	56.0	-	8.0	4.0	8.0	16.0	12.0	-	-	28.0	20.0	52.0	4.0	4.0	4.0	24.0	44.0	-	4.0	
短大・高等専門学校中退(3)	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-	
大学卒業・大学院修了(73)	57.5	16.4	28.8	20.5	8.2	15.1	17.8	12.3	8.2	19.2	21.9	32.9	12.3	8.2	13.7	21.9	11.0	15.1	5.5	
その他(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
就労経験の有無																				
ある(114)	50.9	15.8	27.2	17.5	7.9	10.5	13.2	7.0	4.4	14.0	19.3	31.6	9.6	8.8	10.5	23.7	20.2	10.5	5.3	
ない(95)	57.9	4.2	9.5	8.4	4.2	7.4	3.2	3.2	2.1	22.1	25.3	41.1	3.2	3.2	4.2	14.7	24.2	3.2	11.6	
覚えていない(4)	50.0	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	50.0	-	

「その他」の主な意見

- イラスト、漫画の制作
- 手芸品の制作、販売
- ネットのライブ配信

Q22 希望する在宅ワークの1週間当たりの日数

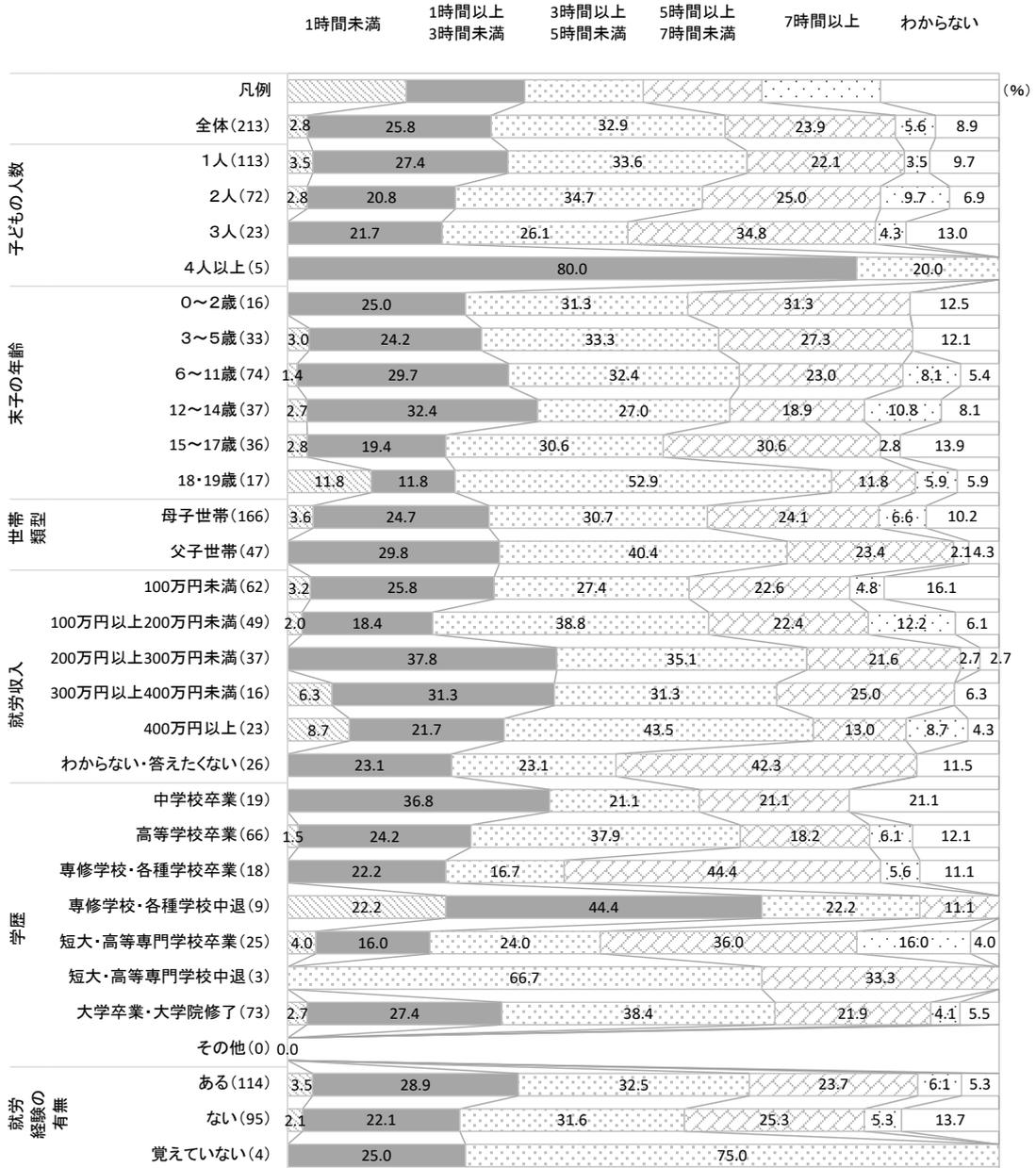
週に希望する在宅ワークの日数をたずねたところ、全体でみると「3日以上5日未満」が最も多く、36.2%であった。また、「1日以上3日未満」も33.3%とほぼ同程度の回答があった。



()内は回答者数

Q23 希望する在宅ワークの1日当たりの時間

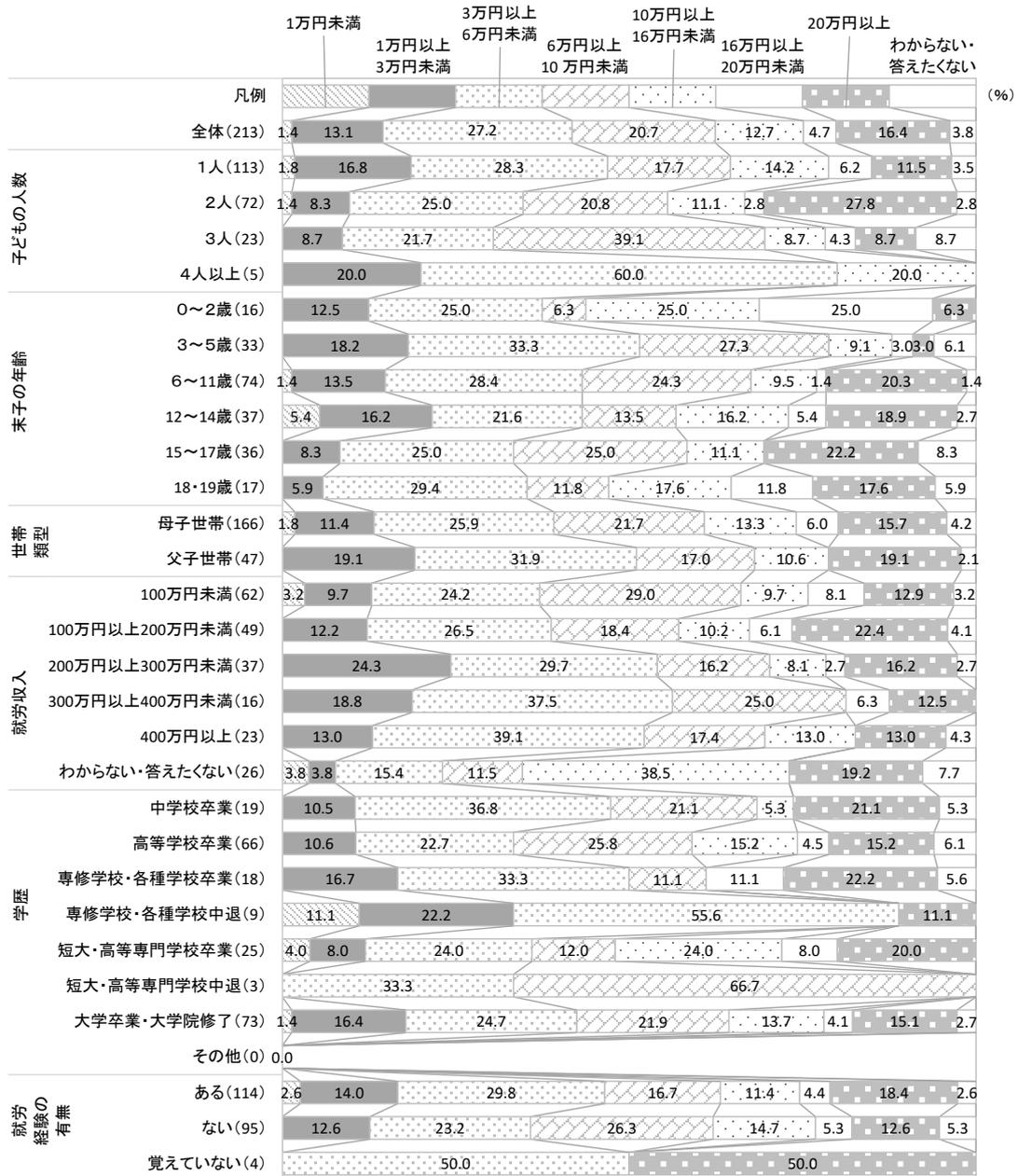
1日に平均して何時間ぐらいの在宅ワークを希望するかをたずねたところ、全体でみると、「3時間以上5時間未満」が最も多く、32.9%であった。その一方で、「1時間未満」と回答した割合は2.8%にとどまっている。



()内は回答者数

Q24 在宅ワークで希望する平均月収（手取り）

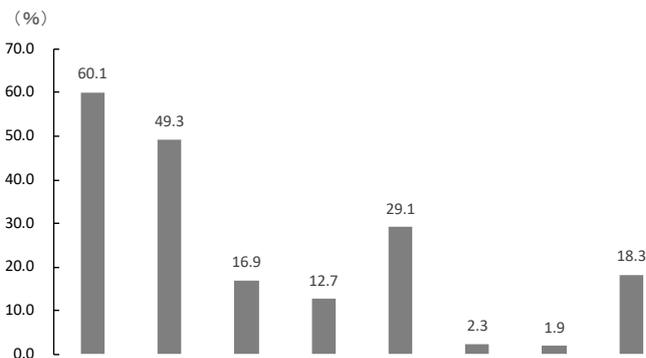
在宅ワークによって、どのくらいの平均月収（手取り）を希望しているかをたずねたところ、全体で見ると「3万円以上6万円未満」が最も多く27.2%であり、次いで「6万円以上10万円未満」が20.7%となっている。



()内は回答者数

Q25 保有している知識や技術（複数回答）

現在、保有している知識や技術をたずねたところ、全体で見ると「インターネットやパソコンを使いこなせる」が60.1%と最も多く、続いて「エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる」が49.3%、「資格取得や検定試験の合格実績」が29.1%となっている。



		インターネットやパソコンを使いこなせる	エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる	制作などの専門的な技術	個人事業主としての契約や経理、社会保障制度に関する知識	資格取得や検定試験の合格実績	自分の受注分野に関する最新の知識・技術	その他	あてはまるものはない	(%)
全体(213)		60.1	49.3	16.9	12.7	29.1	2.3	1.9	18.3	(%)
子どもの人数	1人(113)	68.1	53.1	15.0	8.8	30.1	2.7	2.7	13.3	
	2人(72)	56.9	45.8	16.7	19.4	26.4	1.4	-	23.6	
	3人(23)	39.1	43.5	26.1	8.7	39.1	4.3	4.3	17.4	
	4人以上(5)	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	60.0	
末子の年齢	0~2歳(16)	56.3	50.0	18.8	12.5	25.0	6.3	6.3	25.0	
	3~5歳(33)	51.5	51.5	24.2	27.3	42.4	3.0	3.0	12.1	
	6~11歳(74)	59.5	41.9	17.6	9.5	31.1	-	-	17.6	
	12~14歳(37)	70.3	59.5	8.1	2.7	29.7	5.4	2.7	16.2	
	15~17歳(36)	55.6	47.2	19.4	13.9	22.2	-	2.8	25.0	
18・19歳(17)	70.6	58.8	11.8	17.6	11.8	5.9	-	17.6		
世帯類型	母子世帯(166)	59.6	48.2	10.8	7.2	28.9	3.0	2.4	23.5	
	父子世帯(47)	61.7	53.2	38.3	31.9	29.8	-	-	-	
就労収入	100万円未満(62)	59.7	37.1	12.9	8.1	25.8	4.8	-	24.2	
	100万円以上200万円未満(49)	51.0	44.9	10.2	16.3	34.7	-	4.1	22.4	
	200万円以上300万円未満(37)	51.4	43.2	27.0	16.2	32.4	-	5.4	13.5	
	300万円以上400万円未満(16)	87.5	81.3	18.8	31.3	31.3	6.3	-	-	
	400万円以上(23)	73.9	82.6	21.7	8.7	26.1	-	-	4.3	
	わからない・答えたくない(26)	61.5	46.2	19.2	3.8	23.1	3.8	-	26.9	
学歴	中学校卒業(19)	36.8	10.5	5.3	5.3	10.5	-	5.3	57.9	
	高等学校卒業(66)	62.1	42.4	6.1	9.1	21.2	3.0	1.5	22.7	
	専修学校・各種学校卒業(18)	50.0	55.6	16.7	11.1	16.7	-	-	11.1	
	専修学校・各種学校中退(9)	44.4	44.4	11.1	22.2	22.2	-	-	11.1	
	短大・高等専門学校卒業(25)	48.0	44.0	12.0	8.0	24.0	4.0	4.0	24.0	
	短大・高等専門学校中退(3)	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	
	大学卒業・大学院修了(73)	74.0	67.1	31.5	19.2	46.6	2.7	1.4	4.1	
その他(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
就労経験の有無	ある(114)	61.4	56.1	27.2	21.9	38.6	2.6	0.9	9.6	
	ない(95)	60.0	41.1	5.3	2.1	17.9	1.1	3.2	28.4	
	覚えていない(4)	25.0	50.0	-	-	25.0	25.0	-	25.0	

自由記述の主な意見

<「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」>

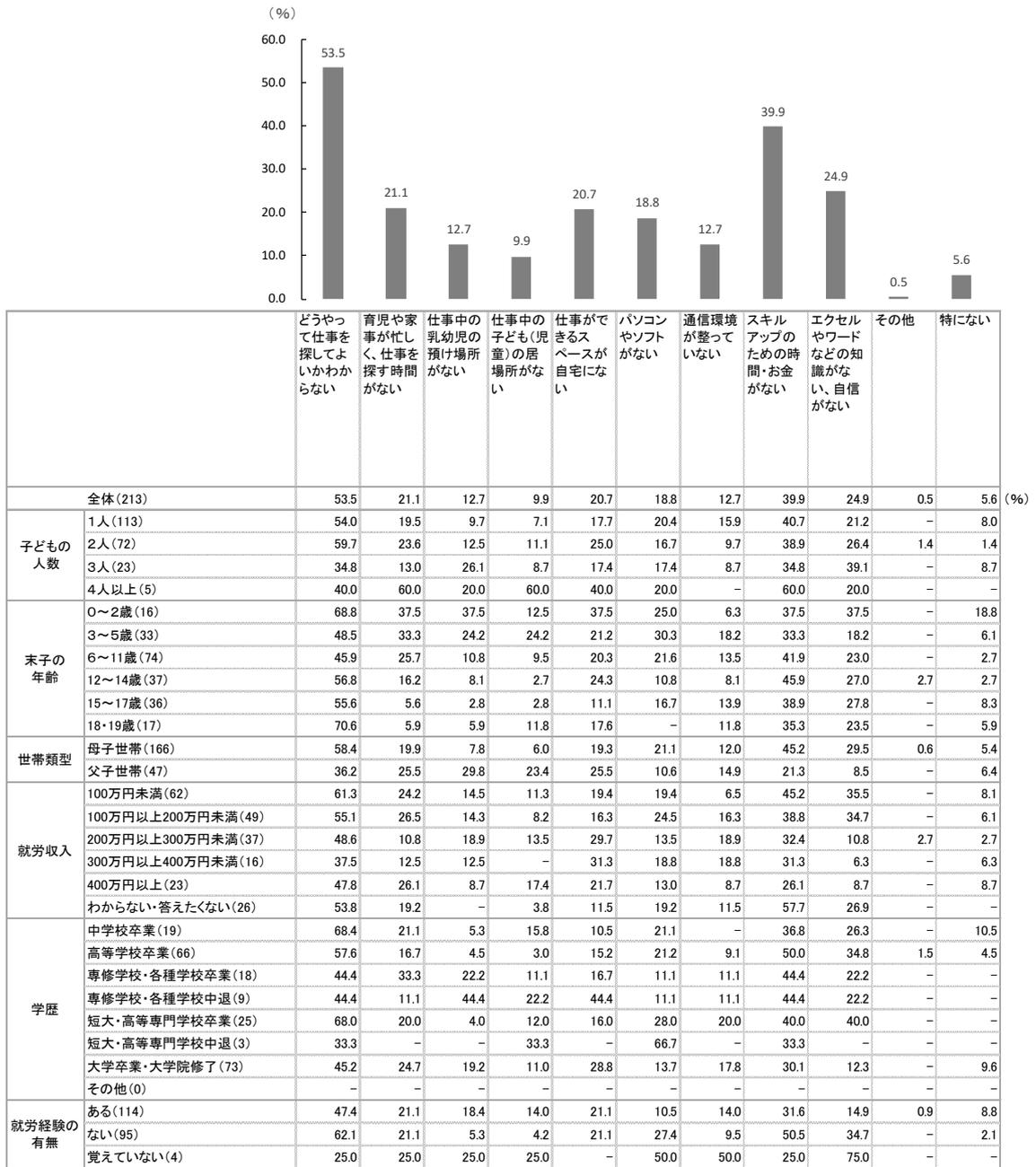
- 宅建士としての不動産売買に関する知識
- 施工管理者
- 保育、栄養、調理師
- 金属アクセサリーのアレルギー対策加工

<「その他」>

- ネイル関係の資格

Q26 在宅ワークを始めるにあたり困っていること

在宅ワークを希望（開始）するにあたって困っていることをたずねたところ、「どうやって仕事を探していいかわからない」が最も多く、53.5%であった。次いで「スキルアップのための時間・お金がない」が39.9%となっている。

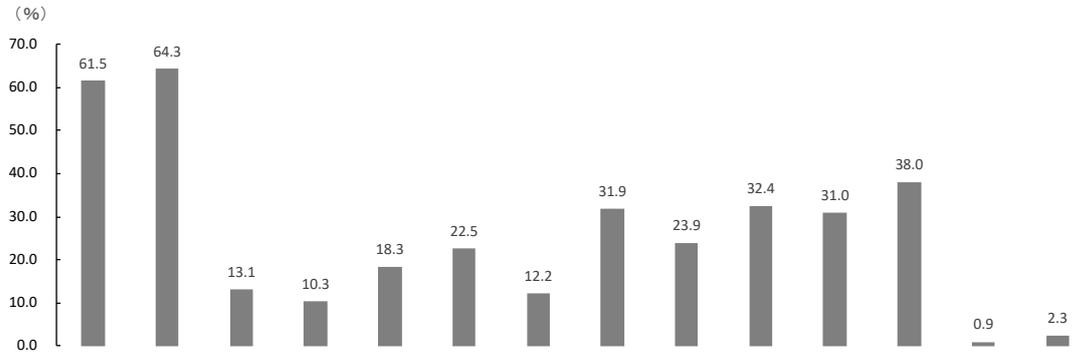


「その他」の主な意見

- 在宅の求人自体少なく、稼げるものがない。また自分で起業するにもリスクが怖く、踏み出せない

Q27 在宅ワークを始めるにあたり支援してほしいこと

在宅ワークを希望（開始）するにあたって、どのような支援があれば助かるかをたずねたところ、多い順に「仕事の紹介」が64.3%、「在宅ワークの始め方の支援」が61.5%、「報酬や納期、品質などに関するトラブル発生時の相談窓口」が38.0%であった。



	在宅ワークの始め方の支援	仕事の紹介	仕事中の乳幼児の託児支援	託児付きの貸しオフィスの提供	仕事中的子ども(児童)の居場所づくり	自宅以外で仕事ができる場所の提供	子ども連れで参加できるスキルアップ研修	ひとり親で在宅ワークを希望する者同士が繋がる場やネットワーク	パソコンや通信環境のトラブル時の相談窓口	パソコンやソフトの準備支援	使用するパソコンのソフトに関する指導	報酬や納期、品質などに関するトラブル発生時の相談窓口	その他	特になし	
全体(213)	61.5	64.3	13.1	10.3	18.3	22.5	12.2	31.9	23.9	32.4	31.0	38.0	0.9	2.3	
子どもの人数	1人(113)	61.9	70.8	11.5	9.7	17.7	23.9	10.6	32.7	21.2	34.5	29.2	37.2	0.9	1.8
	2人(72)	68.1	61.1	15.3	11.1	15.3	23.6	13.9	31.9	29.2	33.3	34.7	40.3	-	1.4
	3人(23)	39.1	52.2	13.0	8.7	21.7	17.4	13.0	26.1	17.4	26.1	26.1	34.8	4.3	4.3
	4人以上(5)	60.0	20.0	20.0	20.0	60.0	-	20.0	40.0	40.0	-	40.0	40.0	-	20.0
末子の年齢	0~2歳(16)	75.0	62.5	31.3	25.0	37.5	31.3	43.8	37.5	31.3	56.3	50.0	50.0	-	-
	3~5歳(33)	51.5	69.7	30.3	27.3	36.4	21.2	12.1	27.3	21.2	30.3	33.3	33.3	3.0	3.0
	6~11歳(74)	59.5	62.2	12.2	10.8	20.3	21.6	13.5	37.8	25.7	32.4	28.4	36.5	-	1.4
	12~14歳(37)	67.6	67.6	8.1	-	8.1	29.7	5.4	35.1	29.7	32.4	24.3	48.6	2.7	2.7
	15~17歳(36)	58.3	63.9	2.8	2.8	-	16.7	5.6	22.2	8.3	25.0	30.6	33.3	-	2.8
18・19歳(17)	70.6	58.8	-	-	17.6	17.6	5.9	23.5	35.3	29.4	35.3	29.4	-	5.9	
世帯類型	母子世帯(166)	69.9	71.1	10.2	7.2	17.5	21.7	10.8	35.5	28.3	38.0	36.1	44.6	0.6	2.4
	父子世帯(47)	31.9	40.4	23.4	21.3	21.3	25.5	17.0	19.1	8.5	12.8	12.8	14.9	2.1	2.1
就労収入	100万円未満(62)	72.6	66.1	14.5	9.7	21.0	29.0	16.1	35.5	37.1	40.3	43.5	54.8	-	1.6
	100万円以上200万円未満(49)	67.3	73.5	20.4	8.2	20.4	24.5	16.3	40.8	24.5	30.6	30.6	38.8	-	2.0
	200万円以上300万円未満(37)	51.4	51.4	13.5	13.5	13.5	21.6	10.8	21.6	8.1	27.0	24.3	21.6	-	2.7
	300万円以上400万円未満(16)	43.8	75.0	6.3	25.0	18.8	12.5	6.3	25.0	25.0	18.8	12.5	31.3	6.3	-
	400万円以上(23)	39.1	47.8	13.0	4.3	21.7	26.1	8.7	17.4	13.0	21.7	13.0	26.1	4.3	8.7
	わからない・答えたくない(26)	69.2	69.2	-	7.7	11.5	7.7	3.8	38.5	23.1	42.3	38.5	34.6	-	-
学歴	中学校卒業(19)	68.4	57.9	10.5	5.3	15.8	5.3	10.5	36.8	21.1	21.1	26.3	42.1	-	10.5
	高等学校卒業(66)	66.7	74.2	9.1	6.1	10.6	22.7	6.1	34.8	27.3	33.3	30.3	40.9	-	3.0
	専修学校・各種学校卒業(18)	66.7	55.6	16.7	16.7	11.1	11.1	16.7	44.4	16.7	33.3	50.0	38.9	-	-
	専修学校・各種学校中退(9)	44.4	55.6	33.3	11.1	33.3	11.1	11.1	22.2	33.3	11.1	22.2	33.3	-	-
	短大・高等専門学校卒業(25)	84.0	72.0	4.0	4.0	28.0	36.0	8.0	44.0	32.0	48.0	40.0	44.0	-	-
	短大・高等専門学校中退(3)	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	-	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	-	-
	大学卒業・大学院修了(73)	49.3	58.9	16.4	15.1	20.5	27.4	17.8	21.9	19.2	30.1	26.0	32.9	2.7	1.4
その他(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
就労経験の有無	ある(114)	54.4	58.8	16.7	14.0	21.1	21.9	12.3	23.7	18.4	23.7	28.1	31.6	0.9	0.9
	ない(95)	69.5	70.5	8.4	6.3	14.7	22.1	11.6	41.1	29.5	42.1	34.7	46.3	1.1	4.2
	覚えていない(4)	75.0	75.0	25.0	-	25.0	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-

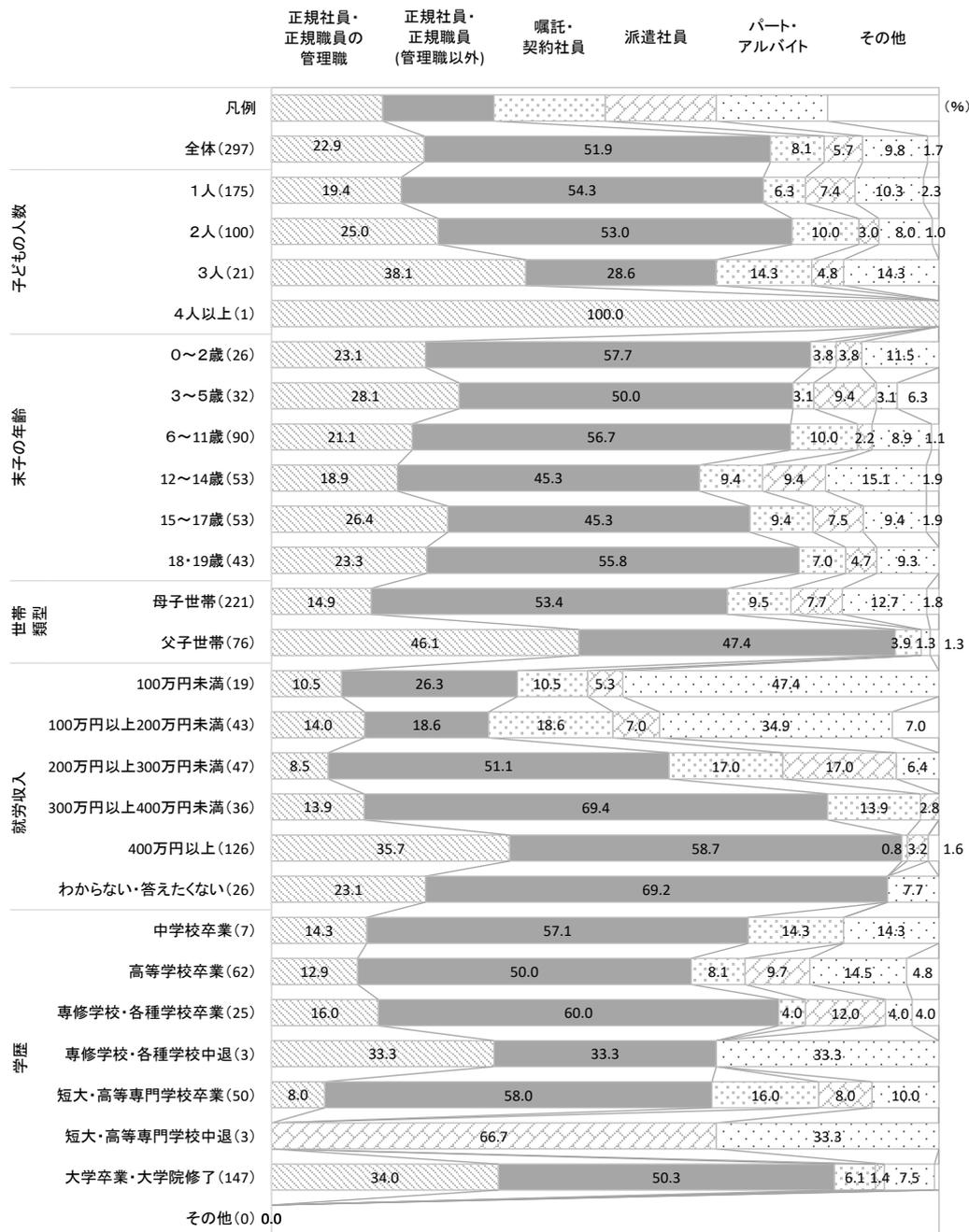
「その他」の主な意見

- 初期投資

ウ 「現にテレワークをしている方」に対する設問

Q28 現在の雇用形態

現在の仕事の雇用形態をたずねたところ、全体で見ると「正規社員・正規職員（管理職以外）」が最も多く、51.9%とおよそ半分を占めていた。



()内は回答者数

「その他」の主な意見

- 会社経営、自営業

Q29 勤務先の業種

前問で回答があった勤め先の業種をたずねたところ、全体でみると「製造業」が21.5%と最も多く、次いで「その他サービス業（協同組合、郵便局以外）」が15.2%となっている。

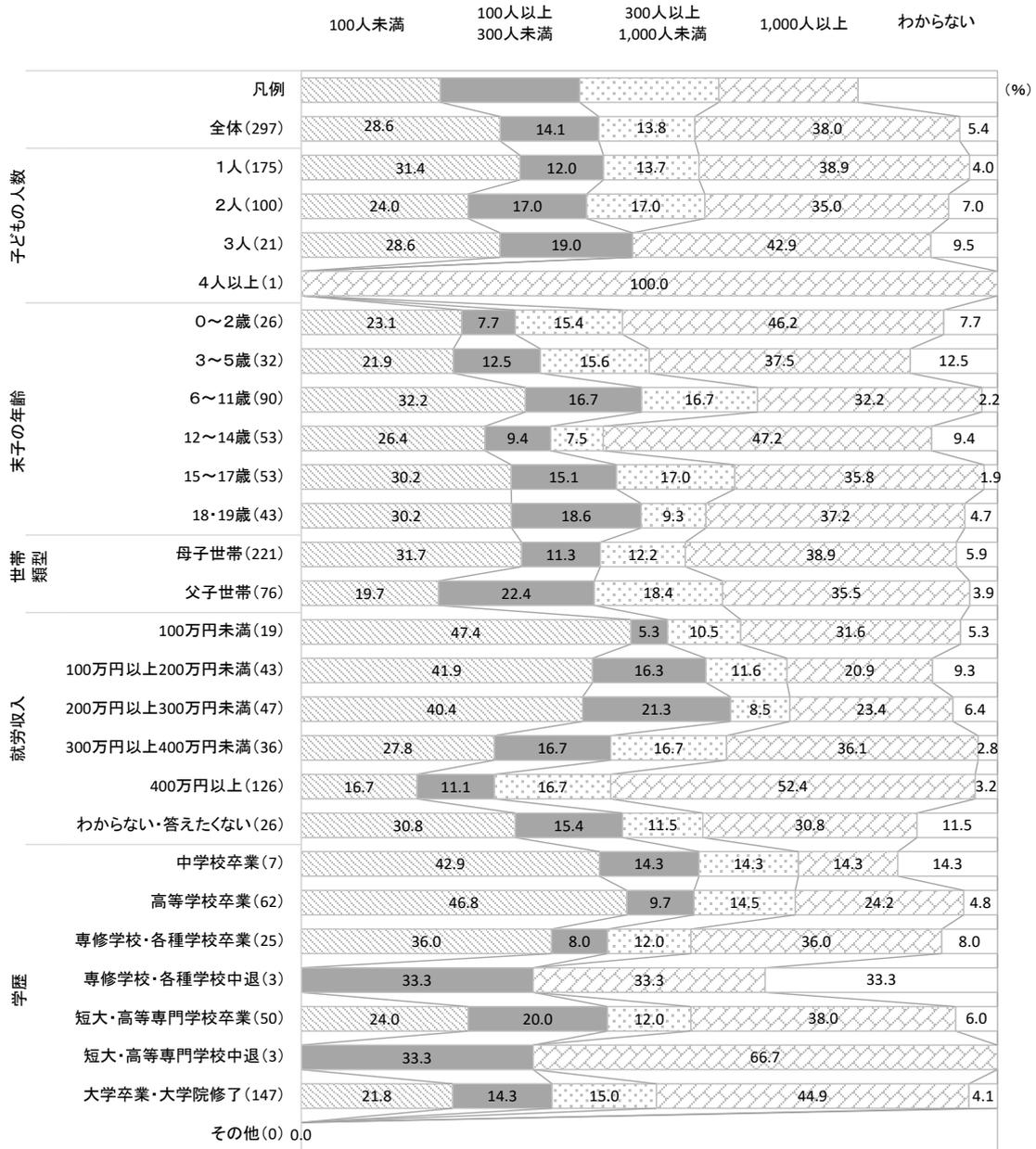


「その他」の主な意見

- IT関連
- 士業
- マスコミ
- コンサルタント

Q30 勤務先の従業員規模

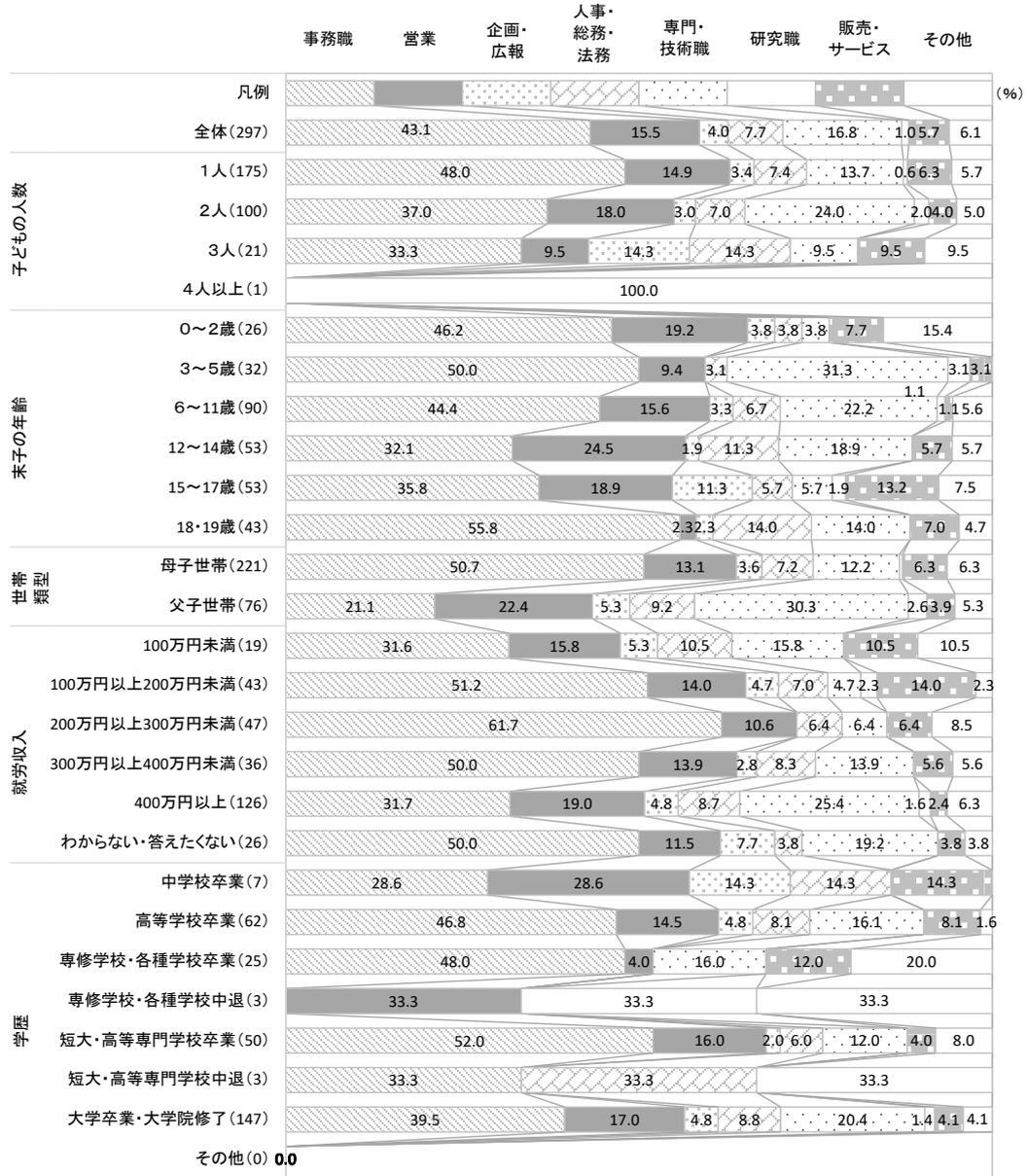
前問で回答のあった勤務先の従業員規模をたずねたところ、全体で見ると多い順に「1,000人以上」が38.0%、「100人未満」が28.6%、「100人以上300人未満」が14.1%、「100人以上300人未満」が14.1%となっている。



()内は回答者数

Q31 職種

前問で回答のあった勤務先での職種をたずねたところ、全体でみると「事務職」が最も多く、43.1%であった。



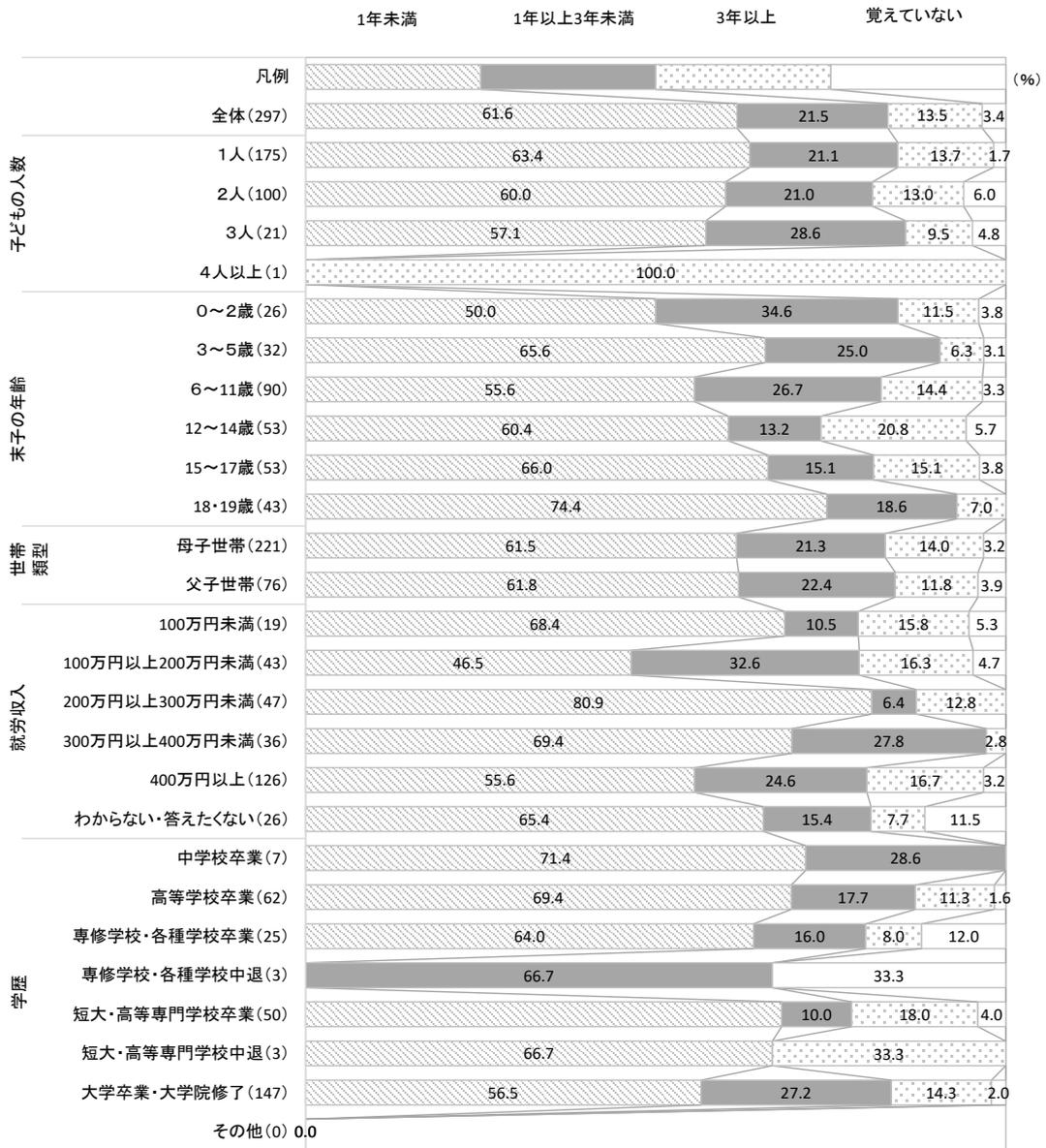
()内は回答者数

「その他」の主な意見

- 経営職
- マーケティング

Q32 テレワークを行っている期間

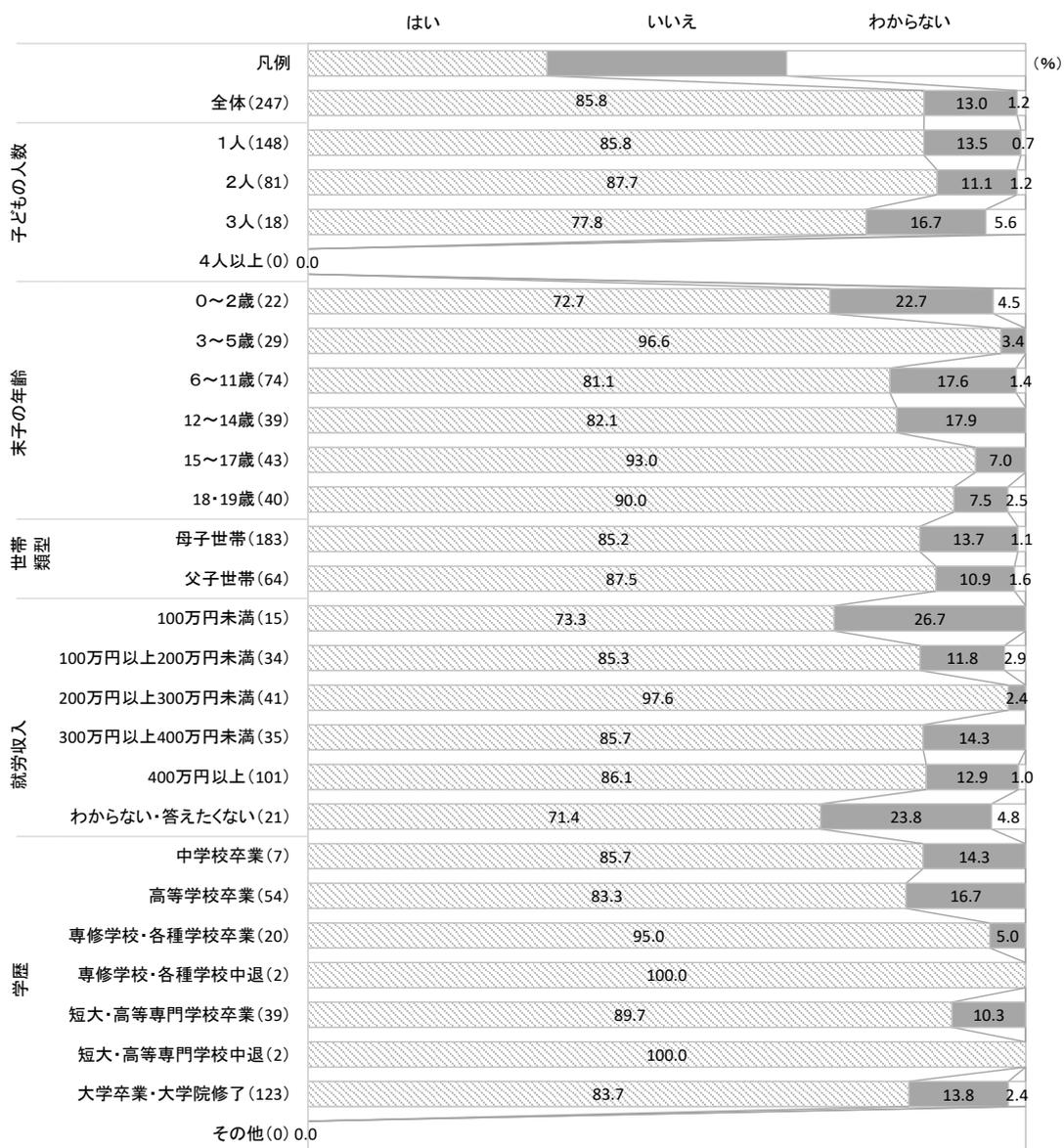
テレワークを初めて、どれくらい経っているかをたずねたところ、全体で見ると「1年未満」が最も多く、61.6%であった。



()内は回答者数

Q33 テレワークは新型コロナウイルス感染防止対策がきっかけか
 (Q32で「1年未満」、「1年以上3年未満」と回答した方のみ)

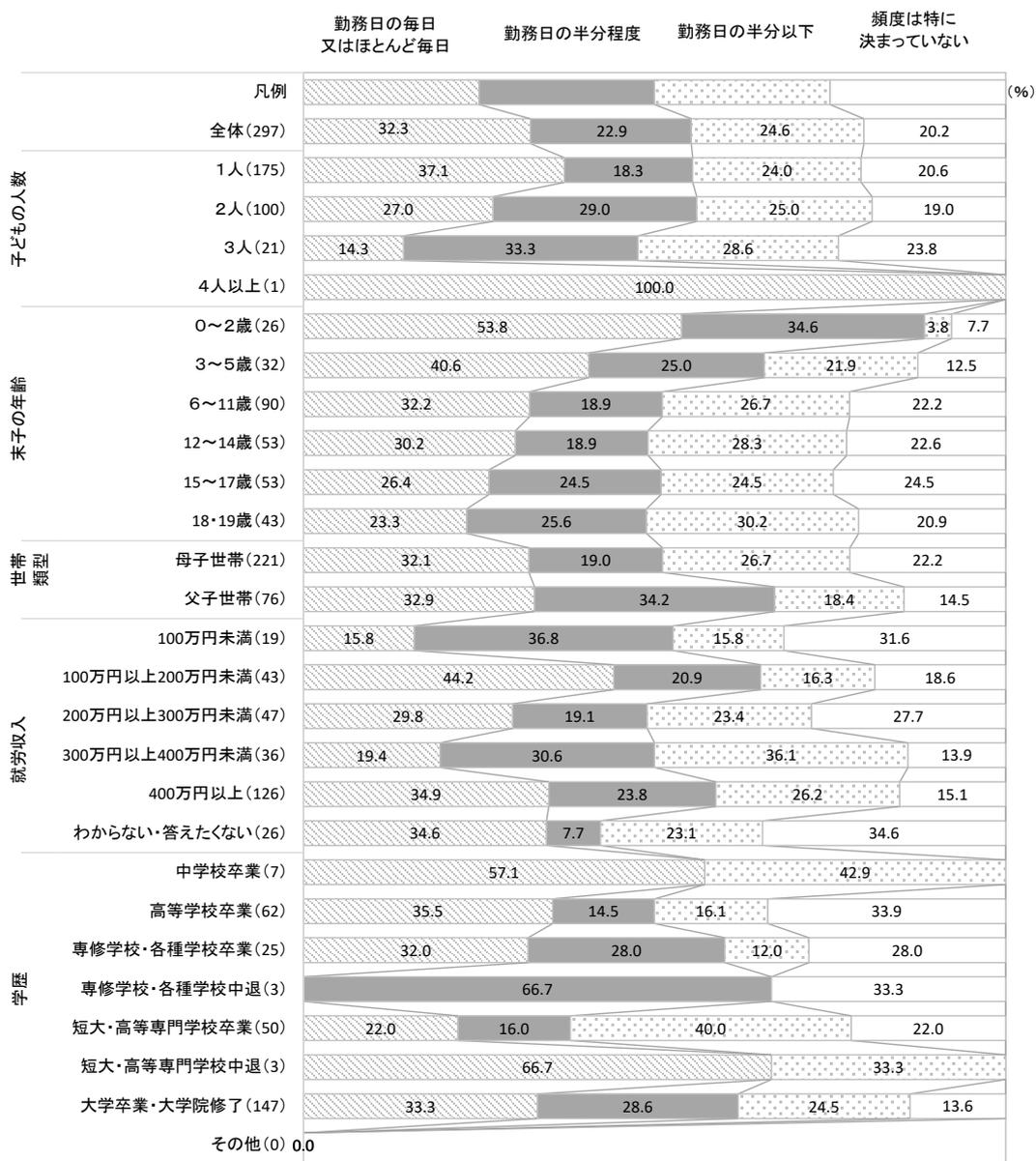
テレワークを始めたのは新型コロナウイルス感染防止対策がきっかけだったのかをたずねたところ、全体で見ると「はい」が85.8%を占めていた。



()内は回答者数

Q34 テレワークの頻度（緊急事態宣言の影響を除く。）

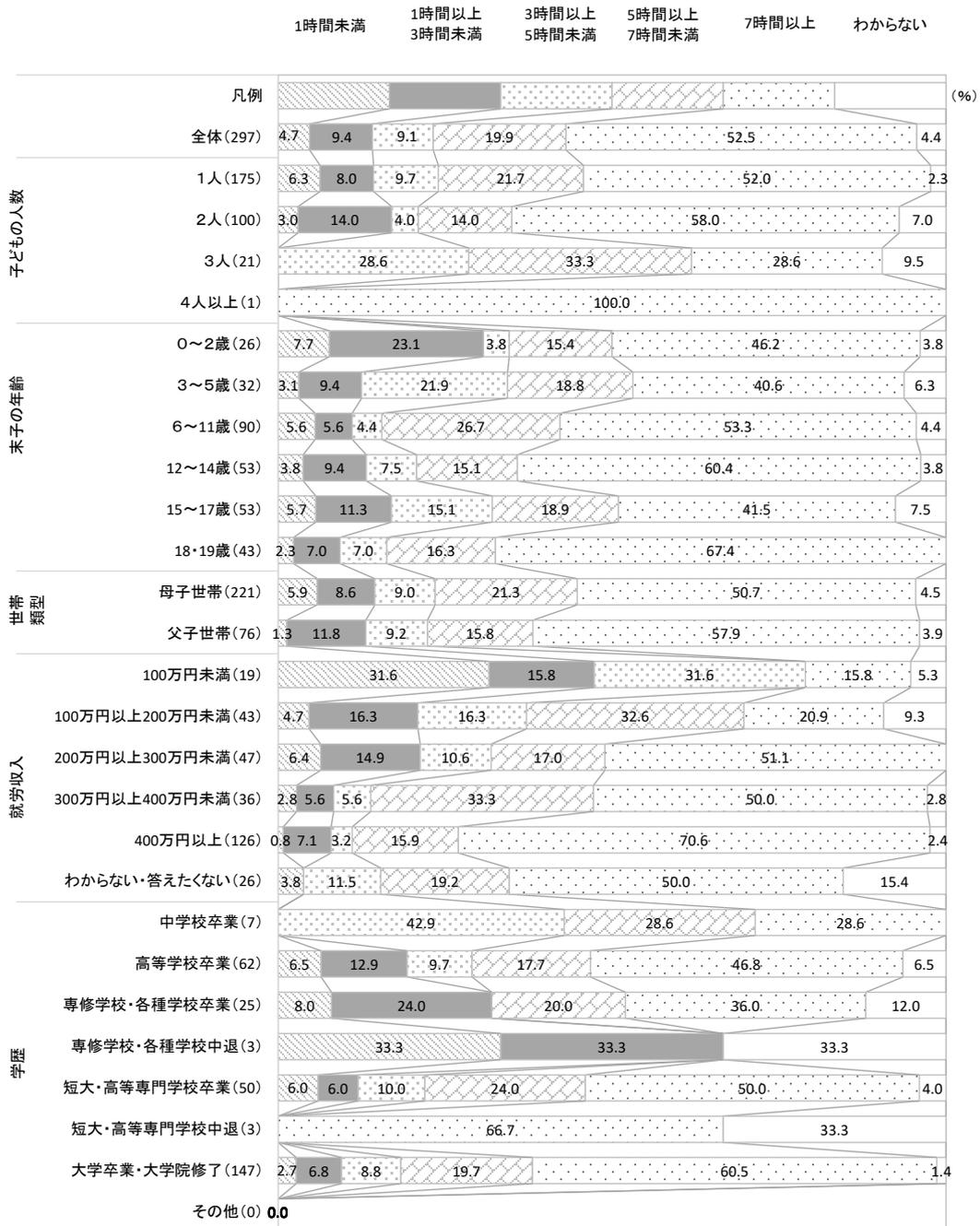
テレワークの頻度を緊急事態宣言が出ていない場合を想定してたずねたところ、全体で見ると多い順に「勤務日の毎日又はほとんど毎日」が32.3%、「勤務日の半分以下」が24.6%、「勤務日の半分程度」が22.9%であった。



()内は回答者数

Q35 テレワークの1日当たりの平均勤務時間

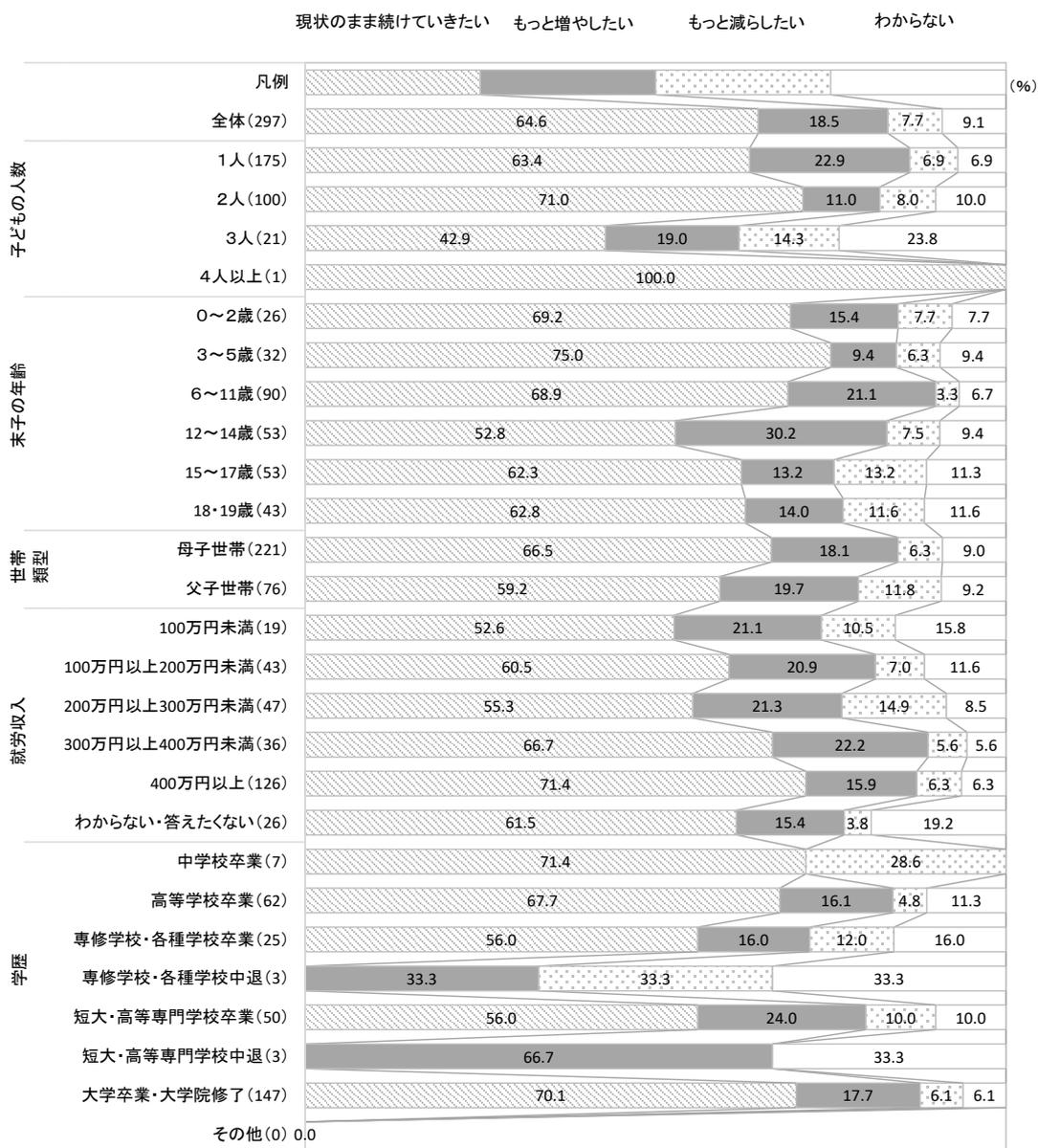
テレワークで勤務日1日あたりの平均勤務時間をたずねたところ、全体でみると「7時間以上」が最も多く、52.5%であった。



()内は回答者数

Q36 テレワークに対する今後の希望

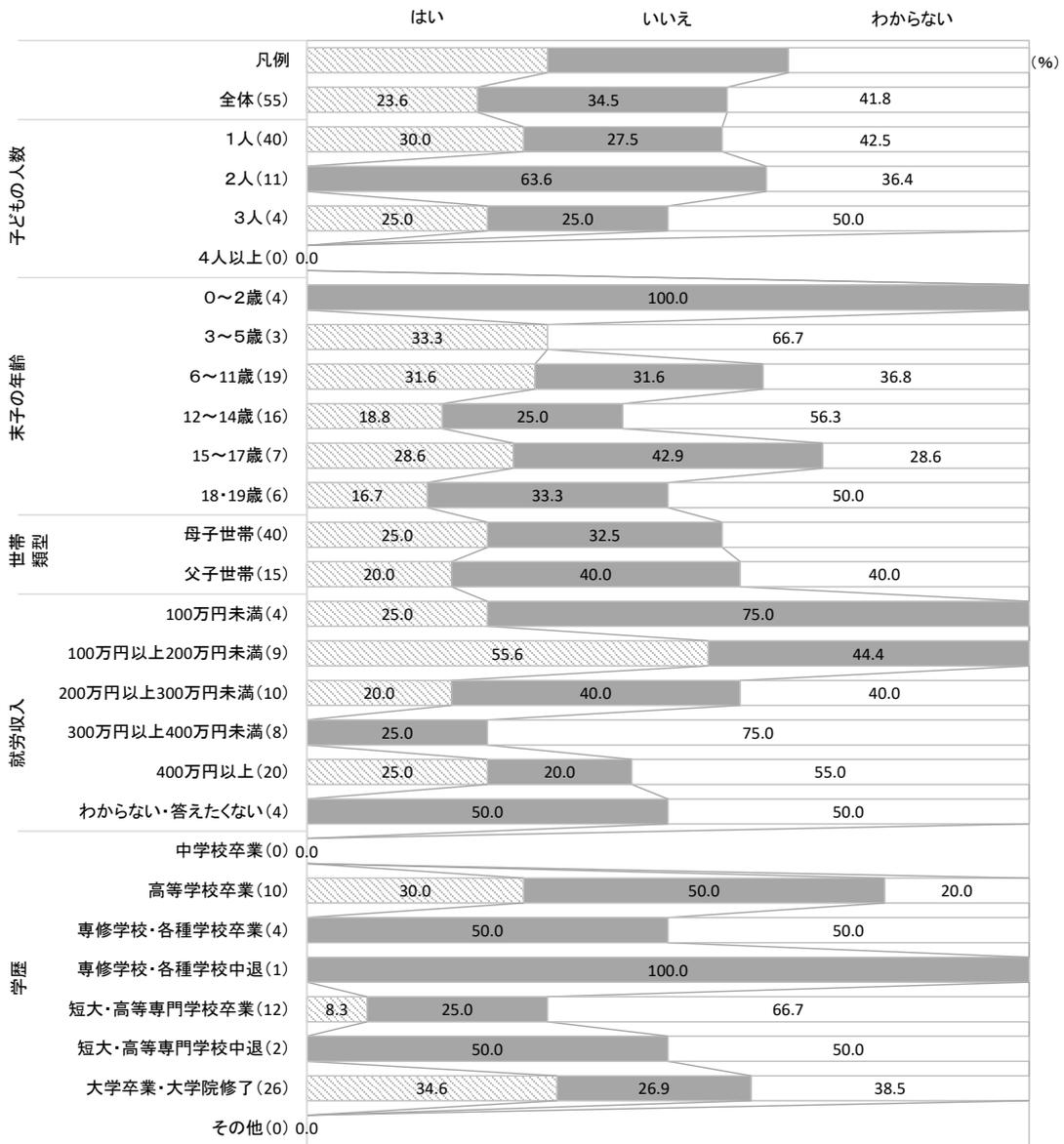
希望として今後もテレワークを続けていきたいかをたずねたところ、全体で見ると「現状のまま続けていきたい」が64.6%と、最も多くなっている。



()内は回答者数

Q37 テレワークの割合を増やせる見込み

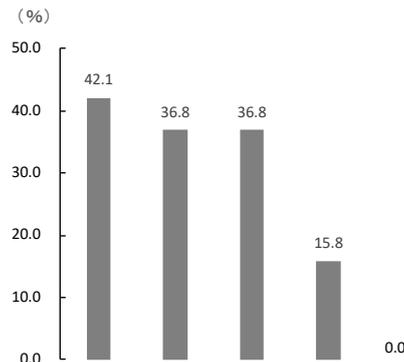
前問でテレワークの割合を「もっと増やしたい」と回答した方を対象に、その希望が叶えられそうかをたずねたところ、全体でみると「いいえ」が34.5%と、「はい」と比べて11ポイントほど高くなっている。



()内は回答者数

Q38 テレワークの割合を増やせない理由（複数回答）

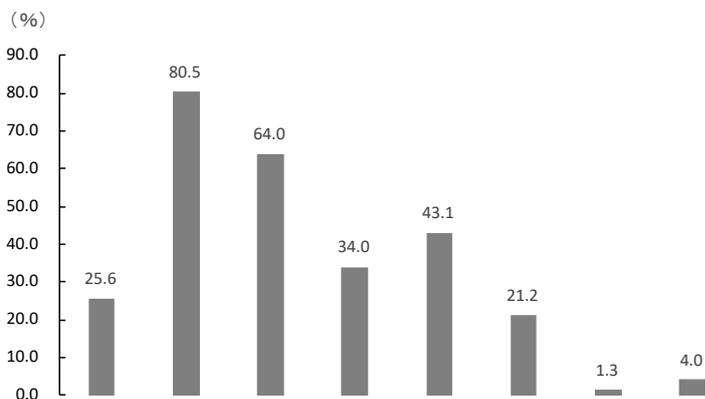
前問で「いいえ」と回答した方を対象に、その理由をたずねたところ、「勤務先の制度で上限日数が決まっているため／勤務先に認めてもらえないため」が42.1%、「勤務先がテレワークをしにくい雰囲気があるため」及び「テレワークに適した仕事ではなく、ある程度の出社が必要であるため」が同じく36.8%であった。



		勤務先の制度で上限日数が決まっているため／勤務先に認めてもらえないため	勤務先がテレワークをしにくい雰囲気があるため	テレワークに適した仕事ではなく、ある程度の出社が必要であるため	テレワークは可能だが、在宅では仕事の効率が下がるため、やむを得ず	その他
	全体(19)	42.1	36.8	36.8	15.8	-
子どもの人数	1人(11)	54.5	45.5	36.4	18.2	-
	2人(7)	14.3	28.6	42.9	14.3	-
	3人(1)	100.0	-	-	-	-
	4人以上(0)	-	-	-	-	-
末子の年齢	0～2歳(4)	75.0	50.0	50.0	-	-
	3～5歳(0)	-	-	-	-	-
	6～11歳(6)	33.3	16.7	33.3	33.3	-
	12～14歳(4)	25.0	50.0	50.0	25.0	-
	15～17歳(3)	33.3	66.7	-	-	-
	18～19歳(2)	50.0	-	50.0	-	-
世帯類型	母子世帯(13)	38.5	46.2	46.2	15.4	-
	父子世帯(6)	50.0	16.7	16.7	16.7	-
就労収入	100万円未満(3)	66.7	-	33.3	-	-
	100万円以上200万円未満(4)	100.0	75.0	50.0	-	-
	200万円以上300万円未満(4)	25.0	25.0	-	50.0	-
	300万円以上400万円未満(2)	-	50.0	50.0	-	-
	400万円以上(4)	25.0	25.0	50.0	25.0	-
	わからない・答えたくない(2)	-	50.0	50.0	-	-
学歴	中学校卒業(0)	-	-	-	-	-
	高等学校卒業(5)	20.0	40.0	60.0	20.0	-
	専修学校・各種学校卒業(2)	100.0	50.0	-	-	-
	専修学校・各種学校中退(1)	100.0	-	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(3)	33.3	33.3	33.3	-	-
	短大・高等専門学校中退(1)	100.0	-	-	-	-
	大学卒業・大学院修了(7)	28.6	42.9	42.9	28.6	-
	その他(0)	-	-	-	-	-

Q39 テレワークの利点（複数回答）

テレワークでよかったことをたずねたところ、「通勤による負担が少ない」が最も多く80.5%であった。続いて「自分のペースで仕事ができる」が64.0%、「家族とのコミュニケーションの時間が取れる」が43.1%となっている。



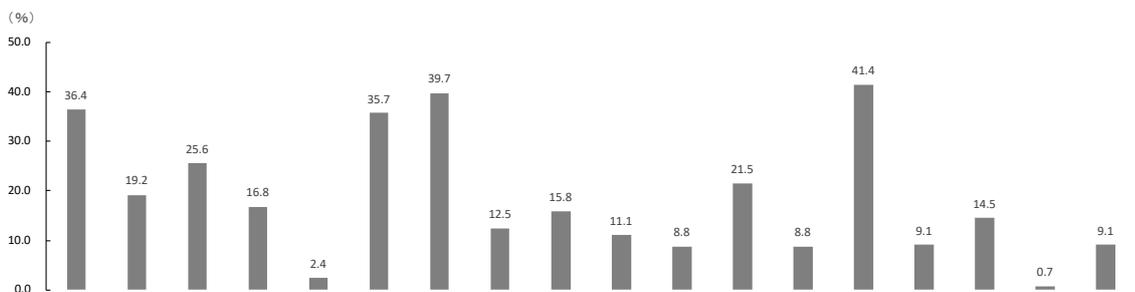
	仕事の生産性・効率性が向上する	通勤による負担が少ない	自分のペースで仕事ができる	育児・介護の時間が取れる	家族とのコミュニケーションの時間が取れる	趣味や自己啓発の時間が取れる	その他	特になし
全体(297)	25.6	80.5	64.0	34.0	43.1	21.2	1.3	4.0
子どもの人数	1人(175)	27.4	81.7	65.7	33.7	38.9	22.9	1.1
	2人(100)	24.0	81.0	59.0	33.0	49.0	17.0	1.0
	3人(21)	19.0	71.4	71.4	38.1	52.4	28.6	4.8
	4人以上(1)	-	-	100.0	100.0	-	-	-
末子の年齢	0~2歳(26)	30.8	92.3	73.1	73.1	42.3	23.1	-
	3~5歳(32)	40.6	78.1	62.5	46.9	37.5	28.1	3.1
	6~11歳(90)	24.4	80.0	71.1	50.0	52.2	18.9	-
	12~14歳(53)	28.3	75.5	67.9	24.5	41.5	15.1	3.8
	15~17歳(53)	17.0	83.0	47.2	11.3	43.4	28.3	-
	18・19歳(43)	20.9	79.1	60.5	7.0	30.2	18.6	2.3
世帯類型	母子世帯(221)	24.4	81.9	64.7	34.8	43.9	22.6	1.4
	父子世帯(76)	28.9	76.3	61.8	31.6	40.8	17.1	1.3
就労収入	100万円未満(19)	10.5	68.4	57.9	31.6	21.1	10.5	-
	100万円以上200万円未満(43)	37.2	69.8	67.4	32.6	34.9	23.3	-
	200万円以上300万円未満(47)	14.9	76.6	68.1	25.5	46.8	14.9	-
	300万円以上400万円未満(36)	22.2	91.7	69.4	47.2	52.8	25.0	5.6
	400万円以上(126)	28.6	84.9	61.9	38.1	50.0	22.2	1.6
	わからない・答えたくない(26)	26.9	76.9	57.7	15.4	19.2	26.9	-
学歴	中学校卒業(7)	14.3	71.4	71.4	28.6	14.3	-	-
	高等学校卒業(62)	27.4	80.6	67.7	29.0	45.2	24.2	1.6
	専修学校・各種学校卒業(25)	28.0	84.0	64.0	32.0	40.0	8.0	-
	専修学校・各種学校中退(3)	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-
	短大・高等専門学校卒業(50)	14.0	80.0	62.0	22.0	34.0	18.0	-
	短大・高等専門学校中退(3)	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	-
	大学卒業・大学院修了(147)	29.3	81.6	62.6	40.1	47.6	23.8	2.0
	その他(0)	-	-	-	-	-	-	-

「その他」の主な意見

- 煩わしい人間関係がない
- 食生活の改善
- コロナウイルスの感染防止

Q40 テレワークで困っていること（複数回答）

現在、テレワークをするうえで困っていることをたずねたところ、多い順に「通信光熱費が増えた」が41.4%、「プリンターやスキャナーがなく、紙の書類のやり取りができない」が39.7%、「上司・部下・同僚や仕事の相手先とのコミュニケーションがとりづらい」が35.7%であった。



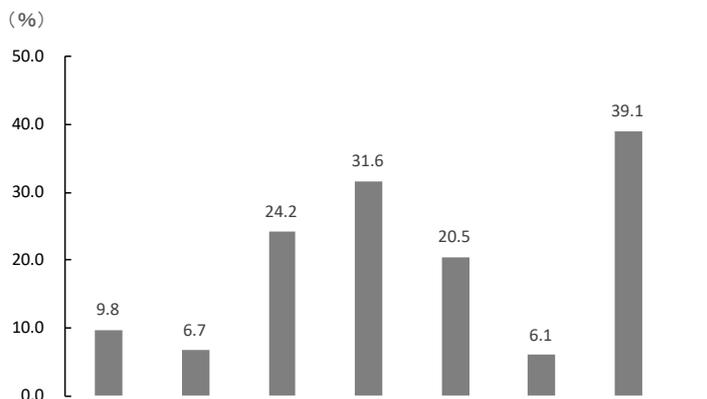
	仕事と仕事以外の切り分けが難しい	長時間労働になりやすい	業務効率が下がる	育児での中断が多い	介護での中断が多い	上司・部下・同僚や仕事の相手先とのコミュニケーションがとりづらい	プリンターやスキャナーがなく、紙の書類のやり取りができない	成果を出すプレッシャーを感じる	孤独感や疎外感を感じる	健康管理が難しい	スキルアップや能力開発が難しい	作業スペースがない	パソコンや通信環境が整っていない	通信光熱費が増えた	給与が下がる	上司への定期報告など動きについて常に気をつかう	その他	特にない		
全体(297)	36.4	19.2	25.6	16.8	2.4	35.7	39.7	12.5	15.8	11.1	8.8	21.5	8.8	41.4	9.1	14.5	0.7	9.1		
子どもの人数	1人(175)	37.1	18.3	26.9	16.6	2.3	34.9	43.4	9.1	12.6	10.9	7.4	25.1	7.4	45.1	7.4	15.4	-	8.0	
	2人(100)	38.0	21.0	24.0	15.0	1.0	40.0	35.0	15.0	22.0	10.0	9.0	16.0	11.0	39.0	11.0	13.0	2.0	9.0	
	3人(21)	23.8	19.0	23.8	28.6	9.5	23.8	33.3	28.6	14.3	19.0	19.0	19.0	9.5	23.8	14.3	14.3	-	14.3	
	4人以上(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
末子の年齢	0~2歳(26)	34.6	30.8	30.8	30.8	11.5	34.6	42.3	11.5	11.5	19.2	7.7	19.2	15.4	50.0	23.1	23.1	-	7.7	
	3~5歳(32)	25.0	21.9	25.0	25.0	-	40.6	31.3	15.6	25.0	9.4	12.5	6.3	34.4	3.1	12.5	-	-	18.8	
	6~11歳(90)	45.6	20.0	20.0	28.9	1.1	33.3	38.9	11.1	15.6	11.1	8.9	23.3	7.8	46.7	5.6	17.8	1.1	3.3	
	12~14歳(53)	35.8	13.2	18.9	11.3	3.8	30.2	47.2	11.3	20.8	3.8	15.1	18.9	3.8	32.1	11.3	15.1	-	11.3	
	15~17歳(53)	35.8	15.1	37.7	3.8	1.9	39.6	32.1	17.0	15.1	9.4	7.5	22.6	9.4	39.6	15.1	9.4	-	13.2	
18・19歳(43)	27.9	20.9	27.9	-	-	39.5	46.5	9.3	7.0	7.0	2.3	27.9	14.0	44.2	2.3	9.3	2.3	7.0		
世帯類型	母子世帯(221)	35.7	15.8	24.4	17.6	1.4	34.8	41.2	13.6	16.3	10.0	9.5	21.7	9.5	43.4	7.2	15.8	0.5	10.9	
	父子世帯(76)	38.2	28.9	28.9	14.5	5.3	38.2	35.5	9.2	14.5	14.5	6.6	21.1	6.6	35.5	14.5	10.5	1.3	3.9	
就労収入	100万円未満(19)	31.6	10.5	15.8	21.1	5.3	21.1	31.6	10.5	5.3	5.3	15.8	5.3	15.8	5.3	36.8	5.3	26.3	-	10.5
	100万円以上200万円未満(43)	27.9	11.6	20.9	16.3	2.3	23.3	25.6	4.7	4.7	16.3	4.7	7.0	4.7	27.9	11.6	4.7	-	27.9	
	200万円以上300万円未満(47)	34.0	14.9	31.9	25.5	4.3	34.0	51.1	8.5	6.4	4.3	10.6	25.5	12.8	31.9	10.6	6.4	-	2.1	
	300万円以上400万円未満(36)	41.7	25.0	33.3	22.2	2.8	36.1	61.1	13.9	22.2	11.1	8.3	22.2	11.1	50.0	11.1	19.4	-	-	
	400万円以上(126)	40.5	25.4	23.8	15.1	1.6	42.1	37.3	16.7	23.8	13.5	10.3	27.8	9.5	51.6	7.1	17.5	1.6	4.8	
わからない・答えたくない(26)	30.8	7.7	26.9	-	-	38.5	30.8	11.5	11.5	7.7	7.7	11.5	3.8	23.1	11.5	15.4	-	23.1		
学歴	中学校卒業(7)	42.9	-	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	-	-	14.3	-	14.3	-	14.3	28.6	14.3	14.3	-	14.3
	高等学校卒業(62)	38.7	12.9	25.8	17.7	3.2	32.3	41.9	16.1	11.3	8.1	6.5	21.0	6.5	41.9	8.1	17.7	1.6	12.9	
	専修学校・各種学校卒業(25)	32.0	8.0	16.0	12.0	4.0	32.0	48.0	4.0	8.0	-	12.0	24.0	4.0	28.0	8.0	20.0	-	12.0	
	専修学校・各種学校中退(3)	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	短大・高等専門学校卒業(50)	38.0	8.0	28.0	8.0	-	38.0	50.0	6.0	14.0	8.0	8.0	20.0	12.0	34.0	4.0	12.0	2.0	8.0	
	短大・高等専門学校中退(3)	-	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3
	大学卒業・大学院修了(147)	36.7	27.9	25.9	19.7	2.0	38.8	36.1	15.0	20.4	16.3	9.5	23.1	9.5	47.6	10.9	12.9	-	6.1	
その他(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

「その他」の主な意見

- 息抜きや休憩のタイミング掴めず、仕事をやりすぎて疲れる
- 会社から資料の持ち出しができない

Q41 テレワークで必要としている支援（複数回答）

テレワークをするうえで必要とする支援をたずねたところ、「特にない」が最も多く、39.1%であった。次いで「自宅以外で仕事ができる場所の提供」が31.6%、「仕事中的子ども（児童）の居場所づくり」が24.2%となっている。



		仕事中的乳幼児の託児支援	託児付きの貸しオフィスの提供	仕事中的子ども（児童）の居場所づくり	自宅以外で仕事ができる場所の提供	ひとり親のテレワーカー同士が繋がれる場やネットワーク	その他	特にない
全体 (297)		9.8	6.7	24.2	31.6	20.5	6.1	39.1
子どもの人数	1人 (175)	9.1	6.9	21.7	32.6	18.9	3.4	45.1
	2人 (100)	10.0	6.0	25.0	29.0	24.0	9.0	32.0
	3人 (21)	14.3	9.5	42.9	38.1	19.0	14.3	19.0
	4人以上 (1)	-	-	-	-	-	-	100.0
	末子の年齢	0～2歳 (26)	42.3	23.1	42.3	26.9	30.8	-
	3～5歳 (32)	25.0	25.0	62.5	31.3	34.4	3.1	25.0
	6～11歳 (90)	7.8	4.4	36.7	32.2	23.3	5.6	30.0
	12～14歳 (53)	3.8	1.9	7.5	26.4	20.8	9.4	45.3
	15～17歳 (53)	1.9	1.9	5.7	41.5	11.3	1.9	49.1
	18・19歳 (43)	-	-	2.3	27.9	9.3	14.0	53.5
世帯類型	母子世帯 (221)	8.1	5.4	21.3	30.8	20.4	6.3	43.0
	父子世帯 (76)	14.5	10.5	32.9	34.2	21.1	5.3	27.6
就労収入	100万円未満 (19)	15.8	-	21.1	21.1	15.8	10.5	42.1
	100万円以上200万円未満 (43)	14.0	9.3	30.2	14.0	25.6	-	46.5
	200万円以上300万円未満 (47)	10.6	8.5	21.3	31.9	21.3	4.3	40.4
	300万円以上400万円未満 (36)	11.1	8.3	33.3	36.1	33.3	8.3	27.8
	400万円以上 (126)	8.7	7.1	23.8	40.5	16.7	7.9	34.1
	わからない・答えたくない (26)	-	-	11.5	19.2	15.4	3.8	61.5
学歴	中学校卒業 (7)	14.3	14.3	14.3	42.9	-	-	28.6
	高等学校卒業 (62)	8.1	6.5	21.0	29.0	19.4	8.1	48.4
	専修学校・各種学校卒業 (25)	8.0	4.0	24.0	28.0	20.0	4.0	44.0
	専修学校・各種学校中退 (3)	-	66.7	33.3	33.3	66.7	-	-
	短大・高等専門学校卒業 (50)	6.0	4.0	10.0	20.0	14.0	10.0	48.0
	短大・高等専門学校中退 (3)	-	-	-	33.3	-	-	66.7
	大学卒業・大学院修了 (147)	12.2	6.8	31.3	36.7	23.8	4.8	32.0
	その他 (0)	-	-	-	-	-	-	-

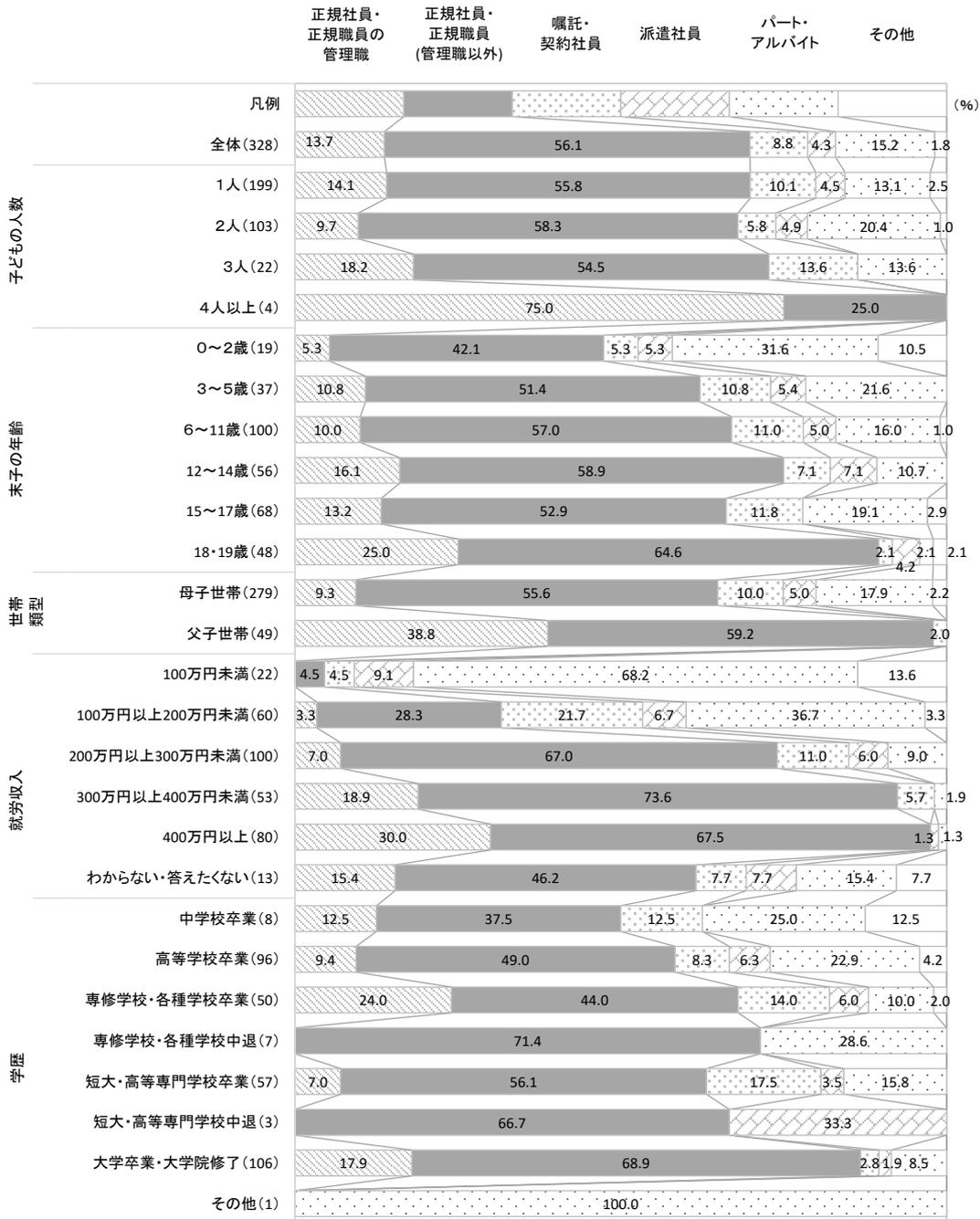
「その他」の主な意見

- 光熱電気代等の支給による在宅勤務手当
- 自宅での仕事環境整備に使用する補助
- 通信環境の整備

エ 「いまはテレワークをしていないが、今後は希望している方」に対する設問

Q42 現在の雇用形態

現在の仕事の雇用形態についてたずねたところ、全体で見ると「正規社員・正規職員(管理職以外)」が最も多く、56.1%であった。



()内は回答者数

「その他」の主な意見

- 休職中

Q43 勤務先の業種

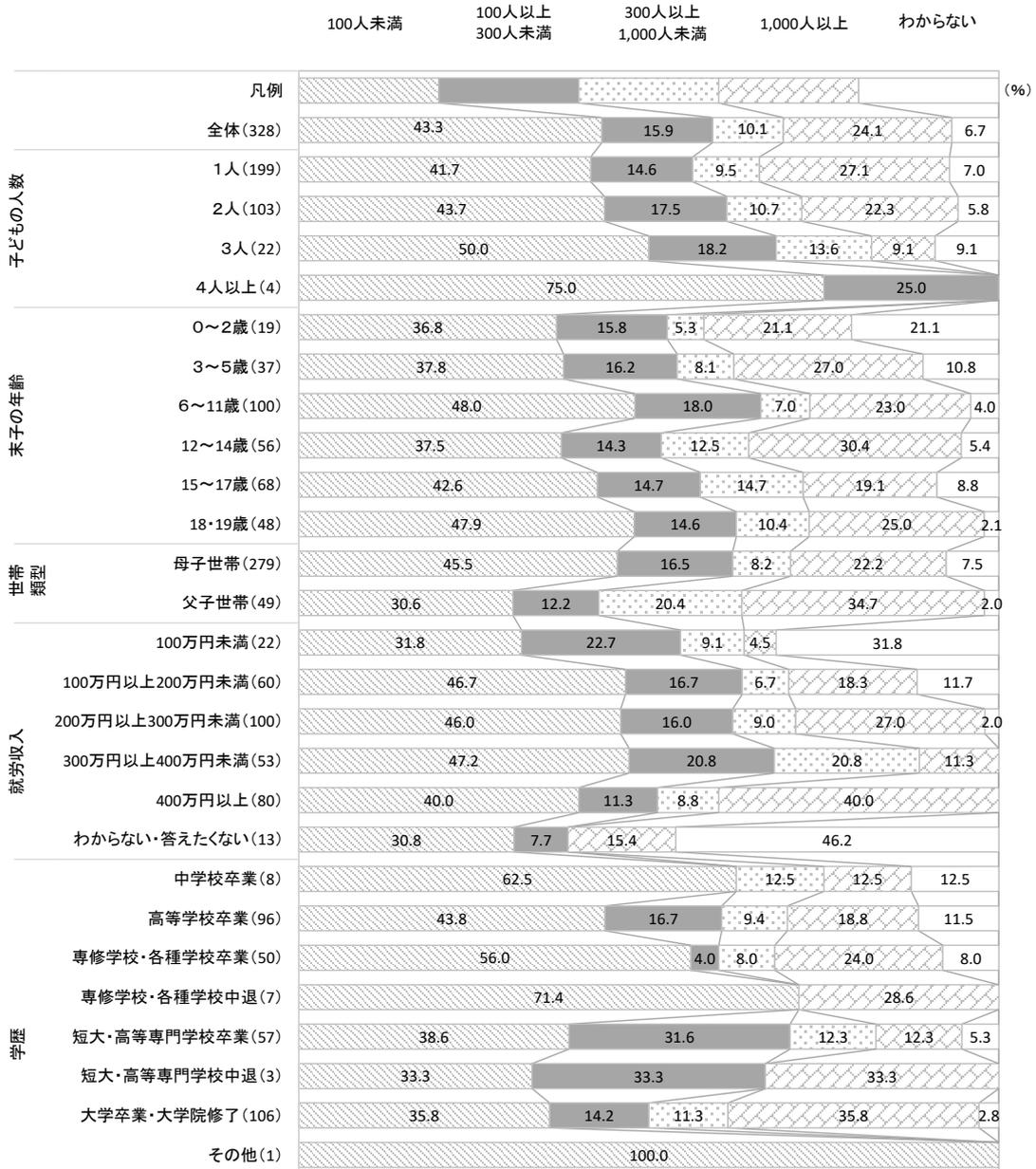
前問で回答があった勤め先の業種をたずねたところ、全体で見ると「製造業」が15.2%と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が12.8%となっている。



()内は回答者数

Q44 勤務先の従業員規模

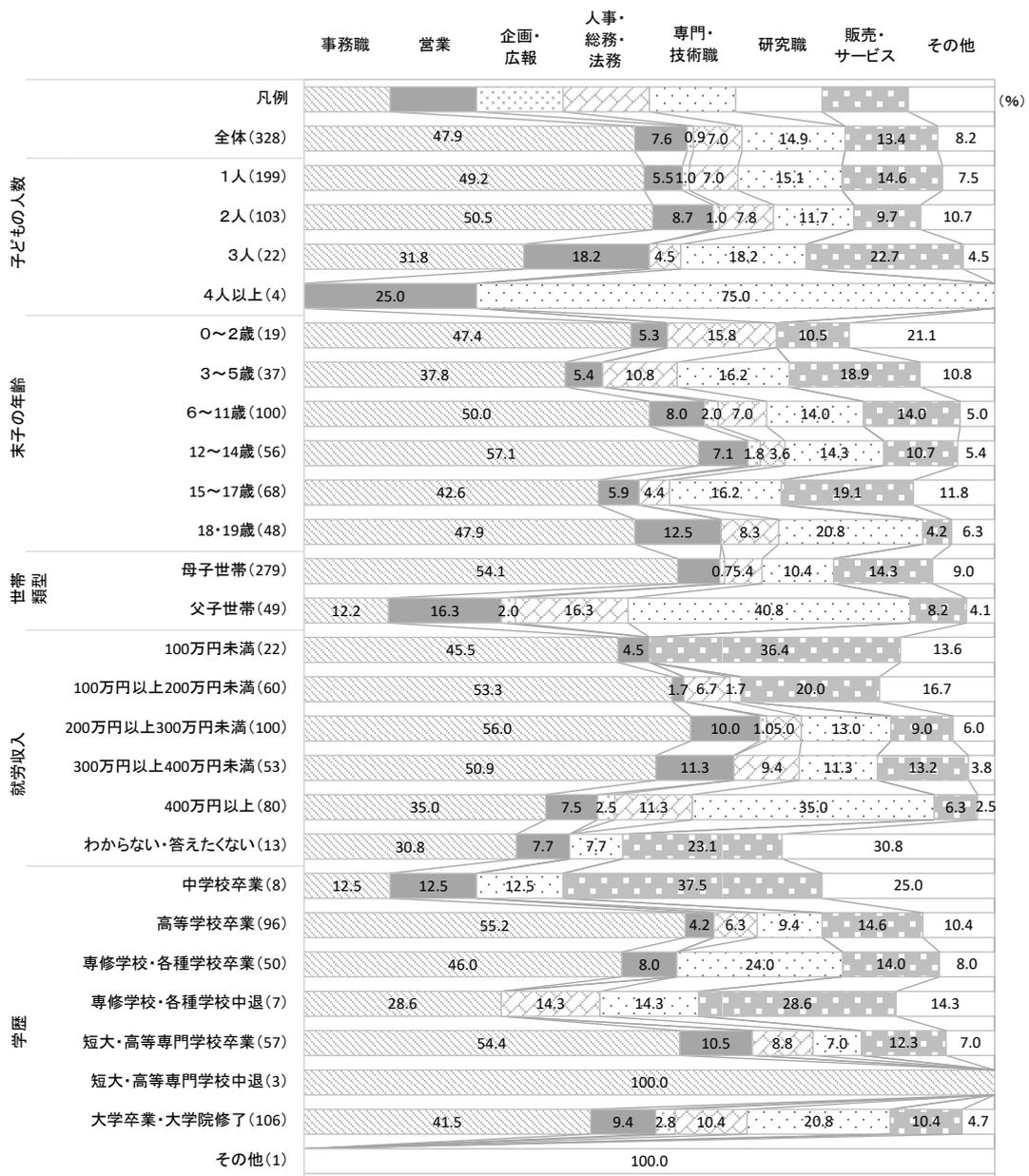
前問で回答のあった勤務先の従業員規模をたずねたところ、全体でみると多い順に「100人未満」が43.3%、「1,000人以上」が24.1%、「100人以上300人未満」が15.9%となっている。



()内は回答者数

Q45 職種

前問で回答のあった勤務先での職種をたずねたところ、全体でみると「事務職」が最も多く、47.9%であった。



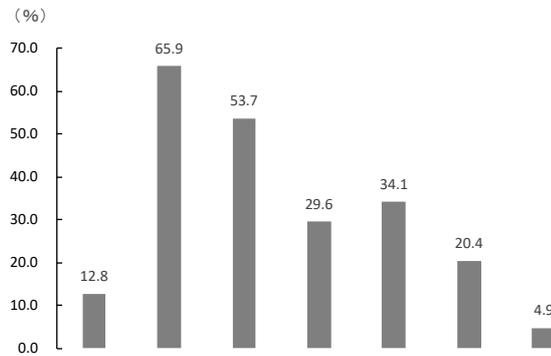
()内は回答者数

「その他」の主な意見

- ・ 清掃業

Q46 テレワークを希望する理由（複数回答）

テレワークを希望している理由をたずねたところ、多い順に「通勤による負担が少ないため」が65.9%、「自分のペースで仕事ができるため」が53.7%、「家族とのコミュニケーションが取れるため」が34.1%であった。



	仕事の生産性・効率性が向上するため	通勤による負担が少ないため	自分のペースで仕事ができるため	育児・介護の時間が取れるため	家族とのコミュニケーションの時間が取れるため	趣味や自己啓発の時間が取れるため	その他	
全体(328)	12.8	65.9	53.7	29.6	34.1	20.4	4.9	
子どもの人数	1人(199)	11.6	61.3	53.8	29.1	34.2	20.6	5.0
	2人(103)	12.6	71.8	53.4	35.9	35.0	18.4	5.8
	3人(22)	22.7	81.8	54.5	9.1	31.8	31.8	-
	4人以上(4)	25.0	50.0	50.0	-	25.0	-	-
末子の年齢	0~2歳(19)	-	52.6	47.4	68.4	31.6	5.3	15.8
	3~5歳(37)	10.8	54.1	64.9	62.2	48.6	29.7	-
	6~11歳(100)	13.0	62.0	54.0	33.0	34.0	17.0	5.0
	12~14歳(56)	19.6	71.4	55.4	25.0	42.9	28.6	7.1
	15~17歳(68)	11.8	72.1	54.4	13.2	35.3	16.2	2.9
18・19歳(48)	12.5	72.9	43.8	10.4	12.5	22.9	4.2	
世帯類型	母子世帯(279)	9.7	63.8	53.4	30.5	33.3	20.4	5.4
	父子世帯(49)	30.6	77.6	55.1	24.5	38.8	20.4	2.0
就労収入	100万円未満(22)	-	50.0	50.0	54.5	22.7	18.2	4.5
	100万円以上200万円未満(60)	5.0	58.3	65.0	33.3	28.3	8.3	6.7
	200万円以上300万円未満(100)	15.0	65.0	52.0	28.0	44.0	25.0	4.0
	300万円以上400万円未満(53)	20.8	75.5	56.6	26.4	41.5	22.6	5.7
	400万円以上(80)	13.8	70.0	48.8	23.8	28.8	18.8	5.0
	わからない・答えたくない(13)	15.4	69.2	38.5	30.8	7.7	46.2	-
学歴	中学校卒業(8)	12.5	12.5	50.0	12.5	12.5	25.0	12.5
	高等学校卒業(96)	8.3	67.7	54.2	27.1	31.3	19.8	5.2
	専修学校・各種学校卒業(50)	10.0	58.0	58.0	32.0	32.0	16.0	4.0
	専修学校・各種学校中退(7)	-	57.1	71.4	57.1	42.9	-	14.3
	短大・高等専門学校卒業(57)	14.0	78.9	43.9	26.3	36.8	17.5	3.5
	短大・高等専門学校中退(3)	33.3	100.0	66.7	100.0	100.0	66.7	-
	大学卒業・大学院修了(106)	17.9	64.2	54.7	29.2	35.8	23.6	4.7
	その他(1)	-	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-

「その他」の主な意見

- コロナウイルス感染のリスクを減らすため

Q47 テレワークの実現可能性

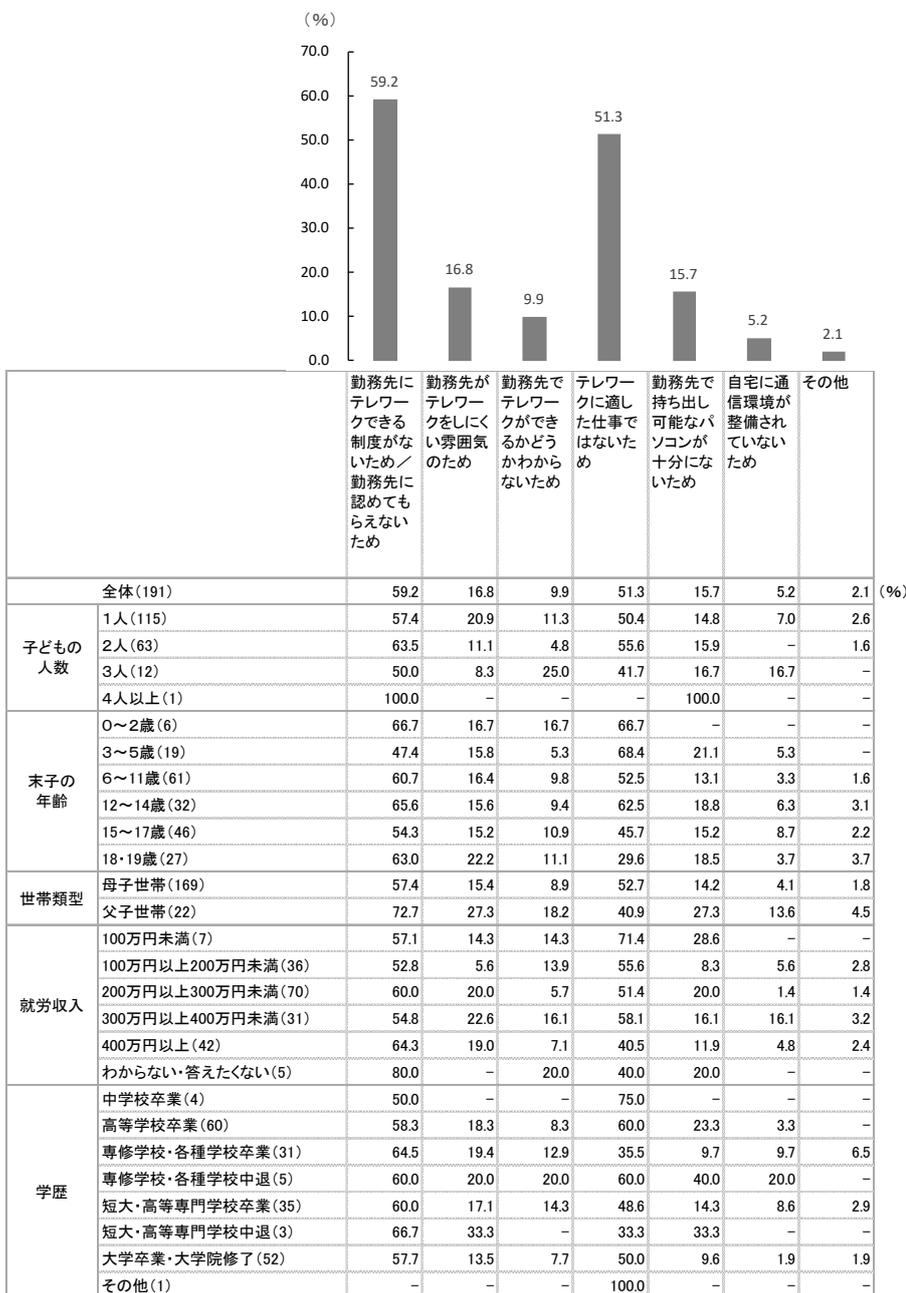
今後、テレワークをしたいという自身の希望は叶えられそうかたずねたところ、「いいえ」が58.2%と、「はい」の12.2%を大きく上回った。



()内は回答者数

Q48 テレワークができない理由（複数回答）

前問でテレワークができないと回答した方に理由をたずねたところ、「勤務先にテレワークできる制度がないため／勤務先に認めてもらえないため」が59.2%であり、次いで「テレワークに適した仕事ではないため」が51.3%であった。



「その他」の主な意見

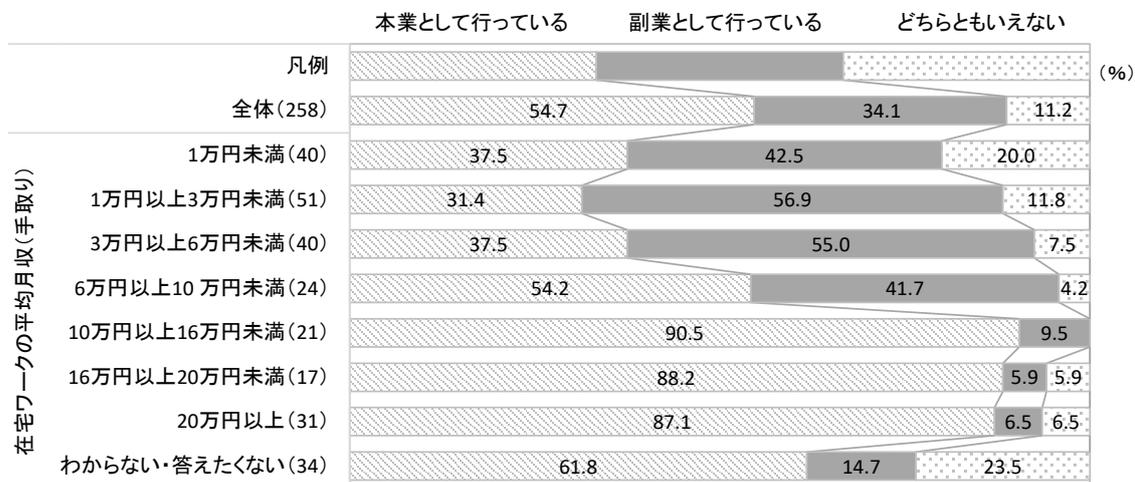
- 自宅に機器を置く場所がない
- 個人情報を取り扱う業務のため
- 企業側にテレワークに対する理解がない、また設備投資力がない

(2) 在宅ワークの平均月収を軸としたクロス分析

在宅ワークによって高い収入を得られている層とそうではない層では、どのような違いがあるのかをみるため、以下では、現に在宅ワークをしている方を対象にしたQ11①の「在宅ワークによる最近の平均的な月収（手取り）」を縦軸に取り、本業か副業かといった在宅ワークの位置づけや在宅ワークの業務内容等を横軸に設定してクロス分析を行った。

ア Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q3（在宅ワークの位置づけ）

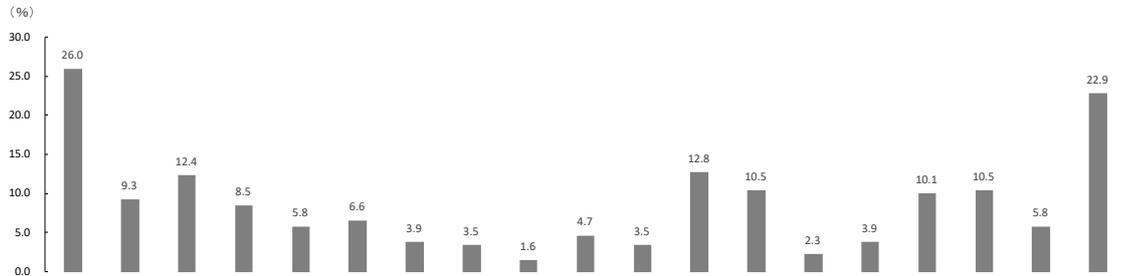
在宅ワークの平均月収（手取り）が10万円未満では副業として行っている割合が高く、10万円を超えると、本業として行っている割合が格段に高くなっている。



()内は回答者数

イ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q4①（在宅ワークの業務内容）

概ねいずれの収入層においても、在宅ワークの業務内容は「データ入力」が多く
 になっている。ただし、平均月収が高い層では、低い層ではあまり行われていない
 「デザイン」や「事務」、「営業」を行っている割合も高い。

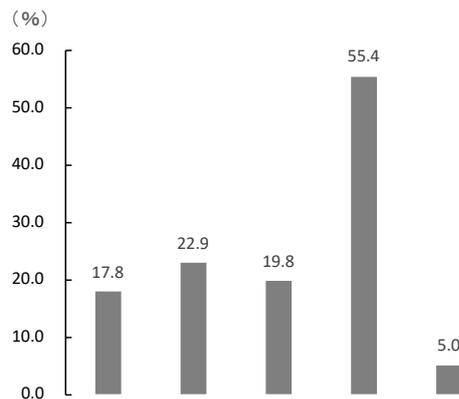


	データ入力	設計・製図	デザイン	画像加工	DTP(印刷物のデザイン、フォーマット作成)	ウェブサイト・モバイルサイト等制作	プログラミング	翻訳	システム設計	リサーチ・分析	音声起こし	事務	営業	企画・広報	人事・総務・法務	フリーライター	ウェブショップ	オンライン講師(ビジネススキル・マナーなど)	その他	
全体 (258)	26.0	9.3	12.4	8.5	5.8	6.6	3.9	3.5	1.6	4.7	3.5	12.8	10.5	2.3	3.9	10.1	10.5	5.8	22.9	
在宅ワークの平均月収(手取り)	1万円未満 (40)	37.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	7.5	0.0	0.0	2.5	15.0	2.5	7.5	27.5	
	1万円以上3万円未満 (51)	15.7	9.8	7.8	5.9	2.0	3.9	2.0	5.9	0.0	3.9	3.9	7.8	2.0	0.0	5.9	17.6	7.8	25.5	
	3万円以上6万円未満 (40)	27.5	10.0	10.0	17.5	7.5	7.5	5.0	0.0	0.0	2.5	2.5	17.5	7.5	0.0	5.0	5.0	7.5	5.0	12.5
	6万円以上10万円未満 (24)	45.8	16.7	20.8	20.8	12.5	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	25.0	8.3	8.3	12.5	12.5	16.7	8.3	20.8
	10万円以上16万円未満 (21)	14.3	9.5	23.8	9.5	14.3	14.3	4.8	0.0	4.8	14.3	4.8	9.5	28.6	0.0	4.8	9.5	14.3	9.5	28.6
	16万円以上20万円未満 (17)	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	11.8	0.0	5.9	0.0	23.5	11.8	0.0	0.0	11.8	11.8	5.9	23.5
	20万円以上 (31)	25.8	19.4	22.6	16.1	12.9	6.5	6.5	3.2	3.2	0.0	3.2	16.1	19.4	6.5	6.5	12.9	6.5	0.0	19.4
わからない・答えたくない (34)	23.5	5.9	20.6	0.0	2.9	2.9	2.9	2.9	0.0	2.9	0.0	11.8	11.8	2.9	2.9	11.8	8.8	2.9	26.5	

各収入層で最も多い業務内容
 2番目に多い業務内容

ウ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q7①（在宅ワークの受注経路）

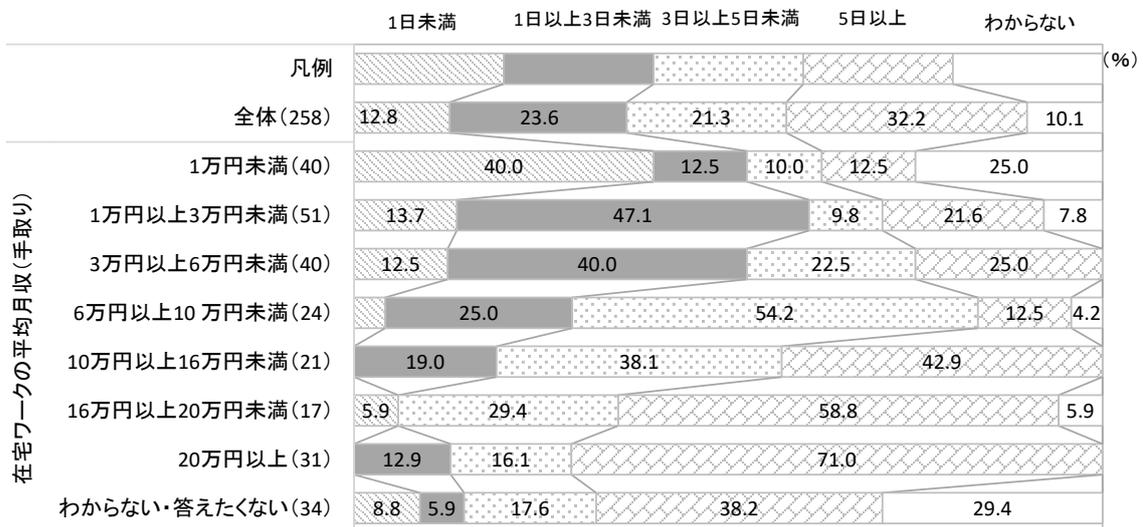
いずれの収入層においても、「直接受注」の割合が高いが、在宅ワークの平均月収（手取り）が10万円以上では特にその割合が高く、7割を超える。他方で、10万円未満の層では「クラウドソーシング会社経由」の割合が他の収入層に比べて高く、3割がクラウドソーシング会社経由で在宅ワークを受注している。



		仲介機関のマネージャーやコーディネーター経由	クラウドソーシング会社経由	同業者グループや他の在宅ワーカー経由	直接受注	その他	
	全体 (258)	17.8	22.9	19.8	55.4	5.0	(%)
在宅ワークの平均月収(手取り)	1万円未満 (40)	15.0	32.5	12.5	40.0	2.5	
	1万円以上3万円未満 (51)	19.6	27.5	13.7	52.9	3.9	
	3万円以上6万円未満 (40)	17.5	30.0	30.0	50.0	2.5	
	6万円以上10万円未満 (24)	25.0	33.3	25.0	54.2	0.0	
	10万円以上16万円未満 (21)	19.0	19.0	23.8	71.4	4.8	
	16万円以上20万円未満 (17)	29.4	5.9	11.8	70.6	5.9	
	20万円以上 (31)	19.4	9.7	19.4	71.0	6.5	
	わからない・答えたくない (34)	5.9	11.8	23.5	52.9	14.7	

エ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q8（在宅ワークの週平均日数）

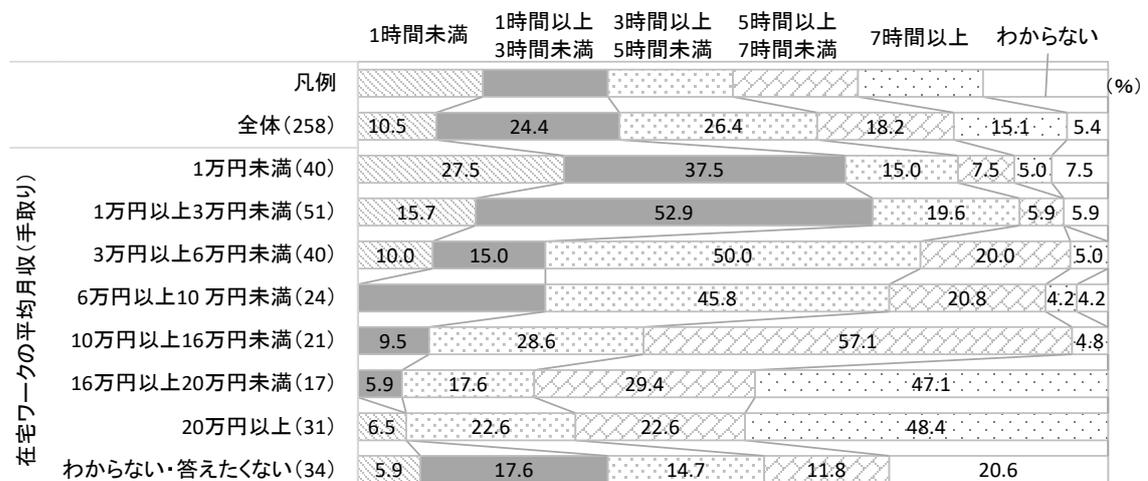
収入が高くなるほど在宅ワークを行っている日数が多く、平均月収（手取り）が20万円以上では7割以上が週に「5日以上」の在宅ワークを行っている。反対に、収入が低いほど、週に「1日未満」や「1日以上3日未満」の割合が高い。



()内は回答者数

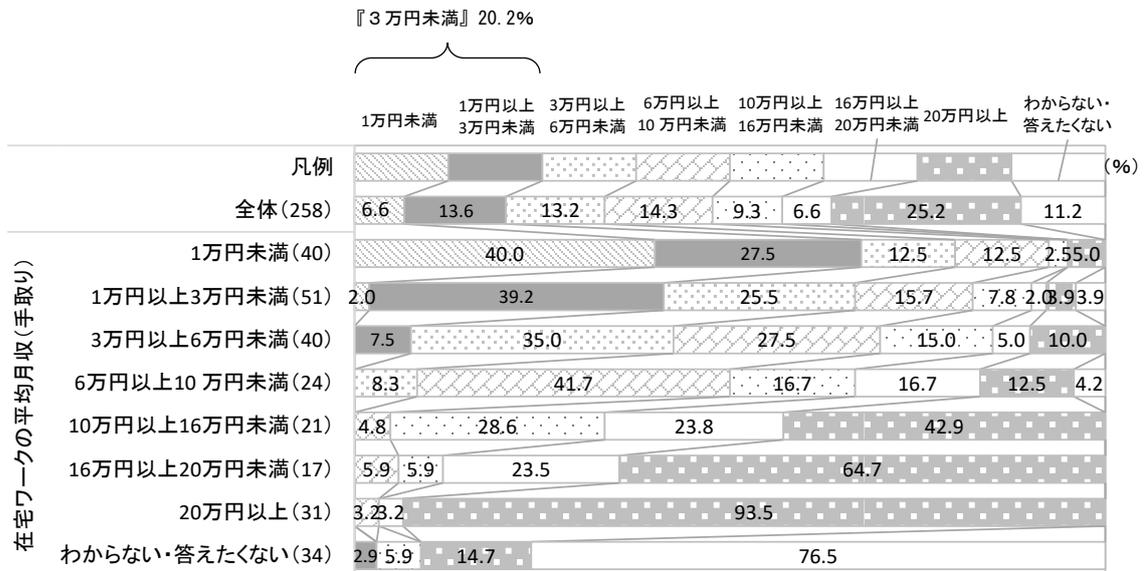
オ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q9①（在宅ワークの1日あたりの仕事時間）

上記エと同様に、収入が高くなるほど在宅ワークの1日あたりの仕事時間が長く、平均月収（手取り）が20万円以上では約5割が1日に「7時間以上」の在宅ワークを行っている。反対に、収入が低くなるほど、「1時間未満」や「1時間以上3時間未満」の割合が高い。



()内は回答者数

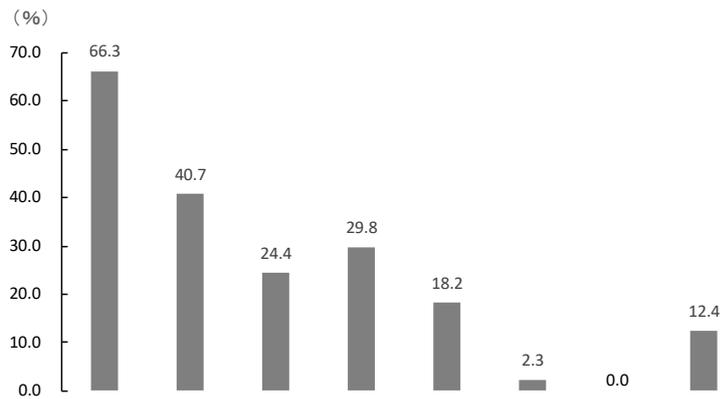
カ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q11②（在宅ワークの希望月収（手取り））
 現在の収入層別に希望収入を集計してみると、概ねいずれの層でも現在の収入水準と希望収入が一致しているケースが多い。もっとも現在の収入よりも高い収入水準を希望している人も同様に多くみられる。



()内は回答者数

キ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q13（保有している知識や技術）

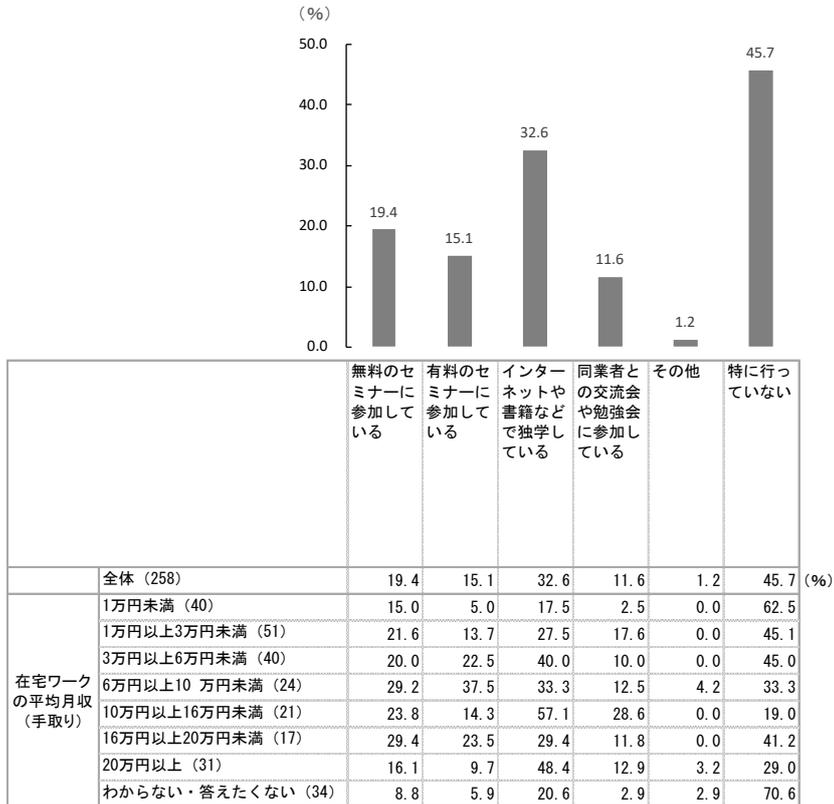
収入の多寡によって差が大きかったのは、「インターネットやパソコンを使いこなせる」ことや「エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる」ことである一方、「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」はいずれの層でも保有していると回答した人は少なく、差はなかった。



		インターネットやパソコンを使いこなせる	エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる	制作などの専門的な技術	個人事業主としての契約や経理、社会保障制度に関する知識	資格取得や検定試験の合格実績	自分の受注分野に関する最新の知識・技術	その他	あてはまるものはない
全体 (258)		66.3	40.7	24.4	29.8	18.2	2.3	0.0	12.4
在宅ワークの平均月収 (手取り)	1万円未満 (40)	57.5	30.0	10.0	10.0	12.5	2.5	0.0	20.0
	1万円以上3万円未満 (51)	52.9	27.5	15.7	21.6	17.6	0.0	0.0	13.7
	3万円以上6万円未満 (40)	62.5	52.5	27.5	32.5	15.0	5.0	0.0	12.5
	6万円以上10万円未満 (24)	79.2	37.5	29.2	41.7	33.3	0.0	0.0	4.2
	10万円以上16万円未満 (21)	85.7	52.4	28.6	33.3	23.8	0.0	0.0	4.8
	16万円以上20万円未満 (17)	58.8	58.8	41.2	47.1	17.6	5.9	0.0	11.8
	20万円以上 (31)	87.1	54.8	38.7	51.6	22.6	6.5	0.0	0.0
	わからない・答えたくない (34)	64.7	32.4	23.5	23.5	11.8	0.0	0.0	23.5

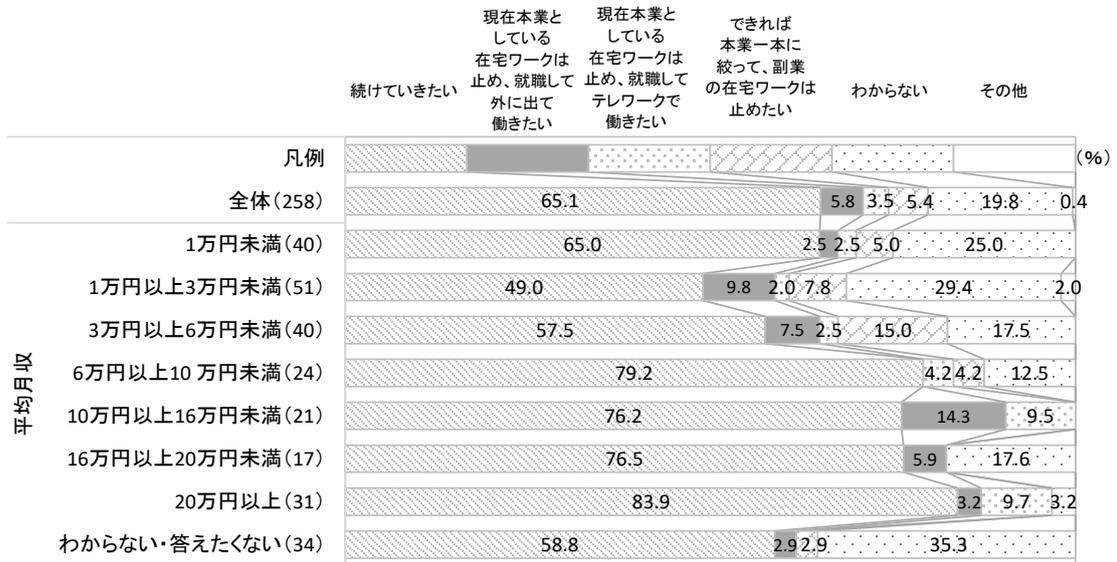
ク Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q14（取り組んでいるスキルアップ）

収入が高めの層の方がスキルアップのために行っていることが多く、特に「インターネットや書籍などで独学している」割合が高い。反対に、収入が低めの層では「特に行っていない」割合が高い。



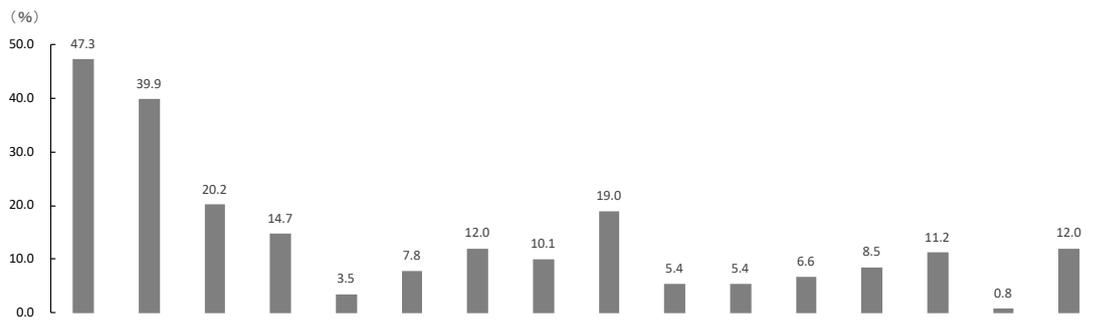
ケ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q15（在宅ワークに対する今後の希望）

現在の収入層別に、在宅ワークに対する今後の希望を集計してみると、収入が低めの層も含め、いずれの層でも「続けていきたい」が最も多い。高い収入を得ているほどその傾向が強く、約8割に達している。



()内は回答者数

コ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q16（在宅ワークで困っていること）
 在宅ワークの平均月収（手取り）が20万円以上を除く、いずれの収入層でも「収入や仕事量が安定しない、伸びない」又は「期待する収入が得られない」が多い。他方で、20万円以上を得ている層で多いのは「オンオフの切り替えが難しい」という回答であり、「収入や仕事量が安定しない、伸びない」よりも高い割合となっている。

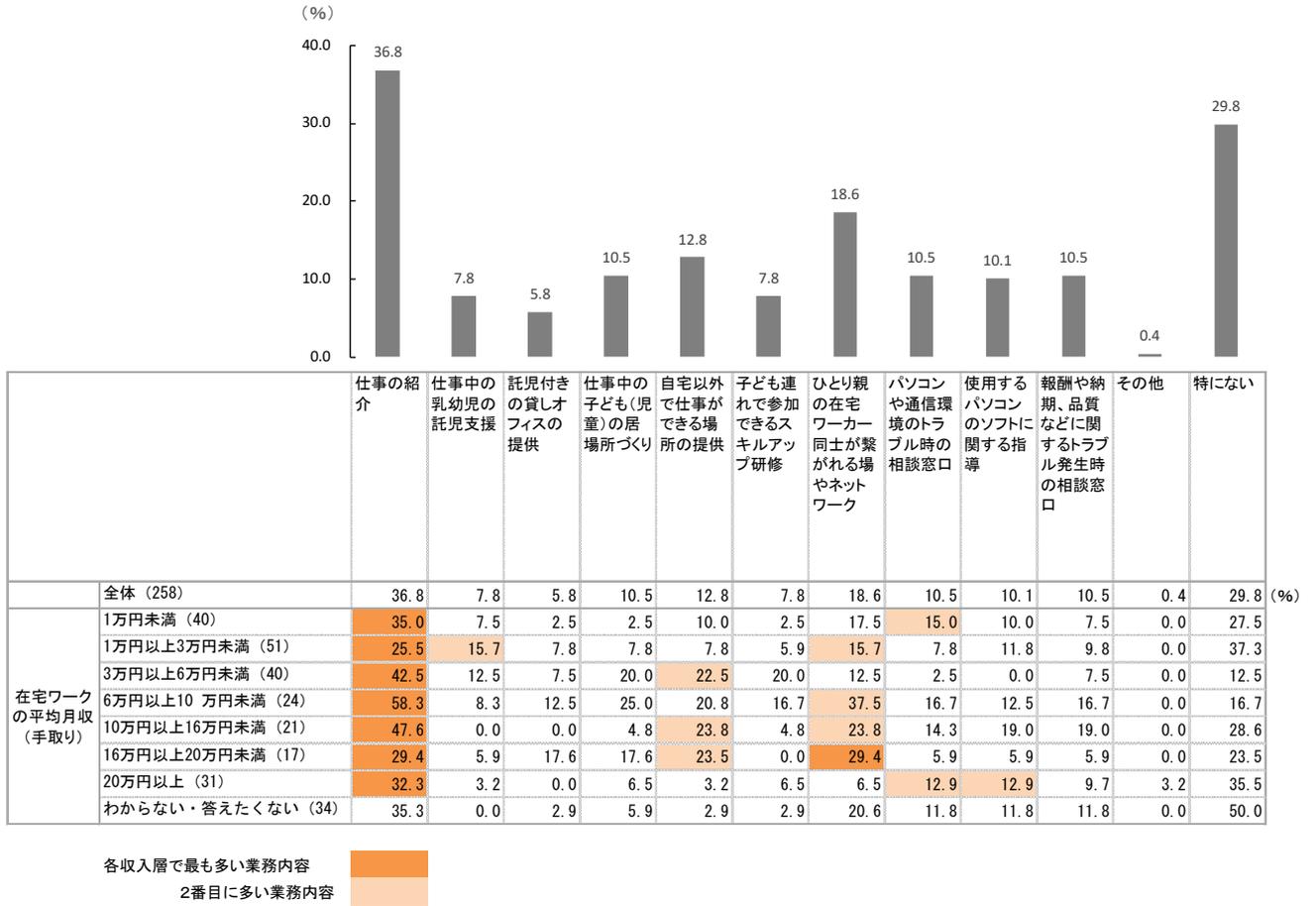


	収入や仕事量が安定しない、伸びない	期待する収入が得られない	仕事の探し方や増やし方がわからない	育児での中断が多い	介護での中断が多い	仕事の子どもの居場所がない	仕事をすすめるスペースが手狭である	長期間働きすぎてしまう	オンオフの切り替えが難しい	報酬の支払いが遅い	報酬や納期、品質などに関するトラブルが起きたことがある	必要な機材等がかかる	スキルアップの方法がわからない	スキルアップのための時間・お金がない	その他	特になし
全体 (258)	47.3	39.9	20.2	14.7	3.5	7.8	12.0	10.1	19.0	5.4	5.4	6.6	8.5	11.2	0.8	12.0
在宅ワークの平均月収 (手取り)																
1万円未満 (40)	62.5	47.5	20.0	17.5	2.5	2.5	15.0	5.0	15.0	2.5	2.5	2.5	7.5	17.5	0.0	5.0
1万円以上3万円未満 (51)	41.2	39.2	21.6	9.8	5.9	5.9	17.6	11.8	9.8	7.8	3.9	2.0	7.8	9.8	2.0	9.8
3万円以上6万円未満 (40)	35.0	47.5	25.0	25.0	7.5	10.0	7.5	7.5	17.5	2.5	2.5	7.5	5.0	10.0	0.0	5.0
6万円以上10万円未満 (24)	45.8	37.5	29.2	20.8	8.3	20.8	8.3	8.3	20.8	8.3	12.5	8.3	16.7	8.3	0.0	12.5
10万円以上16万円未満 (21)	71.4	52.4	23.8	9.5	0.0	9.5	14.3	9.5	33.3	4.8	14.3	9.5	19.0	19.0	0.0	9.5
16万円以上20万円未満 (17)	76.5	52.9	17.6	23.5	0.0	11.8	17.6	23.5	35.3	0.0	11.8	23.5	5.9	11.8	0.0	0.0
20万円以上 (31)	22.6	12.9	16.1	3.2	0.0	9.7	9.7	19.4	25.8	9.7	0.0	3.2	3.2	6.5	3.2	16.1
わからない・答えたくない (34)	47.1	35.3	8.8	11.8	0.0	0.0	5.9	2.9	14.7	5.9	5.9	8.8	8.8	8.8	0.0	35.3

各収入層で最も多い業務内容
 2番目に多い業務内容

サ Q11①（在宅ワークの平均月収）× Q18（在宅ワークに必要な支援）

いずれの収入層でも必要な支援として「仕事の紹介」という回答が最も多い。そのほか、収入が高めの層では、「自宅以外で仕事ができる場所の提供」や「ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がる場やネットワーク」が多い傾向がある。他方で、収入が低めの層では、「仕事上の乳幼児の託児支援」や「子ども連れで参加できるスキルアップ研修」など、託児支援のニーズが高くなっている。



第3章 民間事業者等へのヒアリング調査

1 ヒアリング調査の概要

在宅就業支援に取り組んでいる（いた）民間事業者及びひとり親の就業支援に取り組む母子寡婦団体に対し、ヒアリング調査を実施した（調査の実施方法の詳細は、第1章2（2）を参照のこと。）。

ヒアリング調査結果は、以下の2のとおりである。

■ ヒアリング対象者

No.	法人種別	企業名	主な提供事業	ひとり親の就業支援
1	民間事業者	(株)エイジェック (東京都)	BPO事業※	練馬区「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」、八王子市「ひとり親家庭テレワーク推進事業」の受託実績あり
2		(株)うるる (東京都)	クラウドソーシング事業	東京都「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
3		(株)パソナテック (東京都)	BPO事業※	仙台市、相模原市、岡山市、松山市の「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
4		(株)東海道シグマ (静岡県)	人材派遣事業	静岡県「ひとり親家庭等の在宅就業推進事業」の受託実績あり
5	NPO法人	NPO法人 在宅はたらき隊 (栃木県)	行政事務支援事業	栃木県小山市、群馬県太田市の「ひとり親家庭等の在宅就業支援事業」の受託実績あり
6	母子寡婦団体	(公財)青森県 母子寡婦福祉 連合会	ひとり親家庭に対する就業支援・相談	受託している青森県・八戸市「ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業」の一環で、在宅就業推進事業を実施
7		(公社)札幌市 母子寡婦福祉 連合会	同上	ひとり親家庭の就業支援は行っているものの、在宅就業への取り組み実績はなし

※ BPO事業とは、企業から業務のアウトソーシングを請け負う事業のこと。

2 ヒアリング調査結果

■ 株式会社エイジェック

民間事業者

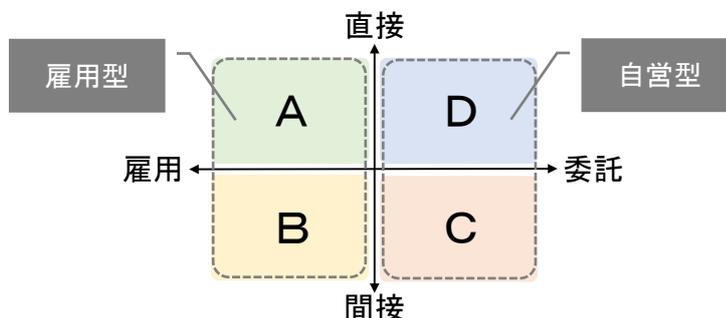
(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

・取組みのきっかけ、内容

- 取組みのもととなる「はぴシェア」は、理事長が 2008 年に起業し、シングルマザーを対象とした人材紹介事業を行っていたが、「あらゆる方へ雇用の機会を与える」という理念が株式会社エイジェック（以下、「エイジェック」という。）と一致したことから、事業をエイジェックに譲渡、その後、社内でNPO法人設立を承認され、活動を続けている。NPO法人はぴシェア（以下、「はぴシェア」という。）の職員は、エイジェックの社員でもある。家賃はエイジェックが支援しているため、通常よりも安く済み、またスタッフは、エイジェックと雇用契約を結んでいるため、はぴシェアにかかる雇用経費も半分となっている。
- 弱者支援はお金の工面が大変である。対象者から料金をもらう方法では運営は難しく、当方の考えともそぐわない。また、行政が行うひとり親家庭の支援施策に対する意見や要望を伝えやすいこともあり、NPO法人として活動している。
- 具体的には、各自治体が行っている就労支援の相談窓口のワンストップ化、求職者のスキルアップ、就職の斡旋を実施している。エイジェックが自治体から就業に関する相談支援の業務を受託し、はぴシェアはエイジェックからコンサルティングフィーをもらって、その支援をする。同業他社と比べて、はぴシェアは、当事者（ひとり親）に対する知見や理解があることが強みである。
- 自治体から受託している在宅就業支援としては、練馬区と八王子市の事業がある。練馬区は平成 28 年度から継続して在宅就業推進事業を受託しており、業務内容は在宅就業に役立つスキルアップである。八王子市は、今年度よりテレワーク推進事業に係る運営業務を受託している。
- はぴシェアのウェブサイトでは求人情報を掲載しており、採用が決まれば媒体利用料として1件あたり4万円を企業から受け取っている。ウェブサイトの維持費はその収入でまかなっている。

・取組みの方向性

○ 在宅就業は、以下のように分類できると考えている。



A	雇用/直接型 ：企業に雇用されて行うテレワーク。ハローワークやインターネット求人サイトで求人が探せる。最近、非常に増えてきている就業形態。
B	雇用/間接型 ：オンラインアシスタントと呼ばれ、BPOベンダー（キャスター、ママワークス、トランス・コスモスなど）が企業から業務を受注し、雇用している在宅ワーカーに仕事を分配する。雇用形態は、アルバイト・パート、正社員、契約社員など様々。
C	自営/間接型 ：クラウドソーシングサイト（クラウドワークス、ランサーズ、シュフティなど）に仕事がショーケースのように並んでいる。運営会社が間に入るため未収金を回避できるメリットがあるが、受注は容易ではなく単価が安い。
D	自営/直接型 ：個人事業主。実力の世界であり、仕事を自ら受注できる能力が必要。

- かつて厚生労働省が推し進めていた在宅就業の形態は「C」又は「D」の自営型であった。最近、クラウドソーシングとして成長している「C」は、いつでもショーケースのように仕事が並んでいるものの、単価が非常に安い。そして「D」は、完全に実力の世界であり、個人事業主として仕事を自ら受注する能力が必要とされるため、限られた人にしかできない。ひとり親であろうとなかろうと、商売魂をもって仕事を自分で受注できる人は全体の十数%ではないだろうか。多くの方は与えられた仕事をこなす方が、負担が少ない。失業保険、年金などの面からみても、ひとり親にとっては雇用された状態の方が望ましいと考えており、「A」又は「B」の雇成型を目標としている。子どもがいると稼働時間が上がらないが、雇成型であれば就労証明がでるため保育園に預けることもできる。スキルアップの目標も「雇成型の求人に応募ができて、選ばれること」である。
- 「A」及び「B」の業務内容は、インターネット回線に繋がったPCを使用してデータ入力、加工、簡単な制作などを行うといったものであり、単価は時給換算で1,200円相当を目指している。「A」の場合であれば、「在宅」という就業形態に関係なくなるため、年収300万円を超えることも可能である。
- 当方は、企業から業務のアウトソーシングを請け負うBPO（Business Process Outsourcing）ベンダーであることから、営業活動を行って受注した業務を参加者に提供している。その場合は、NPO法人としてではなく、エイジェックとしての立場が有効である。一つの業務にアサインする人のコーディネートにノウハウがあるため、どのような人の組み合わせが効率的かといったことが分かっている。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- 最終学歴は高卒が約 50% 大卒は 1 割弱である。
- 練馬区、江戸川区、北区、八王子市、横須賀市などで相談窓口業務を受託している（いた）が、それらの参加者をみると年齢は 35 歳から 45 歳がボリュームゾーンである。なかには 50 歳を超えている方もいる。
- 希望する年収は 250 万円～300 万円、月収で 25 万円程度である。子どもが 1 人の場合、年収 365 万円までは児童扶養手当が支給されることから、参加者も年収 300 万円を超える水準を希望している。
- 昼と夜とでダブルワークをしており、夜の仕事を在宅に切り替えたいといった人は一定数いる。在宅での 1～2 時間の作業に切り替えることで副収入が得られ、子どもとの時間を増やすことができるという考えがあるのではないかと。
- ひとり親は結婚や子の誕生などでキャリアの中断があることが多いので、学び直し（再就職のためのスキルアップ）が必要である。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 在宅の仕事は環境づくり、時間の捻出が難しく、納期が守れないと仕事を発注してもらえないというリスクがある。そのため、保育園に子どもを預けて安定的に働ける雇用型を目指すのがいいと考えている。
- ひとり親家庭は他に頼れる人が少ない。例えば子どもの発熱など、自分でコントロールできない要因があるが、それをサポートしてくれるサービスがない。シッターに依頼するにしても、自身が受け取る時給よりもシッター料金が高くなってしまう。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- コロナ禍のこの 1 年間で、企業の間接部門の業務は在宅でもできることが分かった。また、ウェブ関連サービスや教育分野も非対面でも上手くいくことが実感できたと思う。これらが在宅就業のニーズが見込まれる分野ではないか。
- 前述のとおり、当方は BPO（Business Process Outsourcing）ベンダーであることから、こうした業務を営業により受注し、参加者に提供することができる。それぞれの企業は繁忙期に合わせてアウトソーシングする背景があるため、年末調整に関するものであれば 11 月、採用事務であれば就職活動時期に左右され、経理事務であれば 3 月末から 4 月初旬に多くの業務が発生するという特徴がある。
- ひとり親の特性に向いている業種というのは特になく、周囲に理解があるかどうかであらう。

- 1日に平均して1～2時間程度働きたいといった場合、そうした希望を聞くことはするが、雇用環境が悪化している中であって、仕事は回しにくい。短時間労働を希望する人を組み合わせて業務を受注すると管理コストが大きくなってしまう。在宅でも週5日フルタイムで働ける方が仕事を得やすい。

・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 求職者に要求されるスキルは年々高度化している。参加者の多くは30代、キャリアを中断している方がほとんどで、同世代のキャリア中断していない人と比べると職業能力は劣っている。
- 国の在宅就業支援のスキームを使えば、PCの研修を3か月間（80～100時間）実施することができる。3日間（18時間）程度のPC講習会では足りない。
- 2020年を起点として雇用型テレワークが広がり、ハローワークも雇用条件に「在宅勤務可」といった求人情報を載せるようになってきている。そのため、八王子市の事業では、訓練内容に基本的なアプリケーションの使用スキルだけでなく、ITツールを使ったICT（非接触型コミュニケーション）に関するプログラム（チャット機能、Zoomなどのウェブ会議ツールの使用方法）を組み込んでいる。教材はFOM出版のeラーニングを使用し、利用者にワード、エクセル、パワーポイントの中から2つを選んで受講してもらい、MOS資格を取得することを目標としている。リモートワークに関するスキルはリモートワークアカデミー（株式会社キャスターが開催するリモートワーク初心者向けのオンライン講座。コミュニケーション、仕事環境&セキュリティ、オンラインツール（Chatwork、Zoom、Slack、Google）などの12講座）を教材としている。
- 在宅就業は、自己解決能力、適切なキーワードによるGoogle検索、ネットワークセキュリティ、課題解決ができる人でないと向かない。当方の事業では、研修期間が3か月と他の支援事業と比べて長期であるが、本人の体調や仕事の関係上、続けられなくなった場合でも連絡は取れるような状態を保っている。また、脱落しないようにするために、受講者には期間中は日報を提出してもらい、それに対して早くレスポンスをすることを心掛けている。これにより、常に見守っていることを受講者に示している。

・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

- 市場で求められるスキルと相談者の現状との乖離を解決するためのキャリアコンサルティングのあり方としては、相談者に対してモデルを示すことが大事ではないか。当方ではキャリアコンサルタントを置いているが、相談者に対していかに共感を持って対応できるかが重要であると考えている。
- また、ひとり親家庭だからといったバイアスにとらわれることなく、自立して生活できることが大事である。自身もひとり親であり、すでに成人している3人の子どもがいるが、これまでの経験から相談者に対して10年後、15年後の話をするようにしている。育児の期間は15年程度である一方、働く期間は50年もある。体験に基づくナラティブを語る必要がある。なにより本人が目指してもらわないと継続性が失われることから、このように相談者に対するキャリアコンサルタントの意識、姿勢も大事になってくる。
- 収入は「労働時間」×「単価」であるが、このうち「労働時間」を伸ばすには限界がある。母親の健康状態が損なわれると、子どもの健康にも影響が及ぶ。他方で、「単価」を上げるには、対応可能な業務範囲を拡大するだけでなく、仕事に対する姿勢、態度といった信用を得ることが必要となる。

(5) 成功モデルについて

- 八王子市の事業の一環として参加者に発表をしてもらっているが、その中にテレワークの仕事が時給100円上がり、さらに仕事も多くもらえるようになり、同僚からは「もっと時給は上げてもらえるよ」などと励ましの言葉をもらったことを涙ながらに発表していた方がいた。このよう経験を通して本人も自信がついたと話していた。在宅であれば子どもが熱を出しても仕事を休まずに済むとのメリットも語っており、これは一つの成功事例と考えている。

■ 株式会社うるる

民間事業者

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 「東京都ひとり親在宅就業推進事業」を受託し、今年度で5年目である。
- 当社が運営するクラウドソーシングサイト shufti (シュフティ) を活用して、事業の参加者に在宅ワークを紹介するとともに、実際の在宅就業のサポートを行っている。具体的には、専任のキャリアカウンセラーを2名配置し、在宅ワーカーに対して初期のアドバイスからゴール設定までを行い、ゴール到達に向けて並走している。在宅ワーカーとキャリアカウンセラーは月に1度、本人の希望や業務内容の向き・不向き、クラウドソーシングサイトの活用方法などをテーマにカウンセリングをしている。
- 当事業の参加者は年間で30名、参加にあたっての倍率は約2倍である。本人の希望や在宅ワークの必要性、パソコンスキルを聞き、選考する。当事業ではパソコン研修などの講座がないため、参加者がパソコンを使える環境にあることが前提となる。
- また、当事業では就業経験が全くない人への支援は行っていない。在宅ワークは自己管理能力が必要となることから、就業経験がない場合はハードルが高くなる。
- 在宅ワークの内容は、経理系、情報収集、ライティング、在宅コールセンターが主である。納期は、業務の性質により、継続的なものもあれば、3日間と短いものもある。
- 参加者は、無職の方も一部いるものの、ほとんどの方が別に本業を持っている。在宅ワークだけで稼げるようになるには時間もかかるため、本業をやりつつ、在宅ワークは副業にするように伝えている。
- 支援期間中は、その期間に稼ぐということよりも、在宅ワークを定着させることに力をいれている。月収は支援期間中で1万円程度であり、月収3万円、5万円といったように月収を増やすのは当事業の卒業後と考えている。
- 在宅ワークだけで月に10万円、20万円を稼げるようになれば、とてもいい働き方だとは考えているが、そこに到達するまでには日々忙しい時間を過ごしているうえに、さらにプラスアルファの時間が必要となる。
- 仕事の単価は、業務内容と個人の能力によって様々である。入力業務だと作業スピードが遅ければ時給200円～300円程度になってしまうこともある一方、在宅コールセンターであれば対応件数によって時給600円～1,000円を超えるとといったように幅がある。在宅コールセンターで月に25万円を稼いでいる人もいる。
- なお、実際に在宅ワークの仕事をこなせる方は少なく、30名の参加者がいたとしても、毎年残る人はそれほど多くない。辞退を申し出る人、連絡が取れなくなる人、前回の面談時に伝えた宿題をこなしていない人が毎年いる。事業を卒業できれば在宅ワークの形式そのものは変わらないため定着しやすいが、事業への参加を最後まで続けられない人はその後の在宅ワークも難しいだろう。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- ひとり親であろうとなかろうと、仕事を発注すれば変わりはない。問題は仕事が定着するかどうかである。ここを乗り越えればひとり親であってもそうでなくても変わらない。ただ、ひとり親は日常生活の中で常に何かが起きているので、そのような環境であっても時間を確保できるかどうか重要となってくる。
- 障害児を抱えているひとり親が多いように感じる。
- 子どもは0歳の人から成人している人もいる。支援を開始した当初に比べると、扶養する子どもの年齢が上がっているように感じている。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 前述のとおり、ひとり親は時間の確保に困難を感じている人が多い。納期に間に合わないケースもある（ただし、支援期間中はそのような事態は想定しているので、遅れても問題がないようにバックアップの用意、納期の調整をしている。）
- スキルが追いついていない人もいる。在宅ワークを紹介する前にスキルの確認をするが、こちらが求めているレベルに達していないことがある。その場合、苦手意識が出てしまい、その後のカウンセリングでフォローはするものの、継続性が低くなる傾向がみられる。
- 参加者の意識や環境が、その後の継続性に大きな影響を与えている。最初は時給換算するとあまり稼げない業務でもあるため、途中で辞める人も多い。
- 在宅ワークは自己管理能力が必要となることから、就業経験がない場合はハードルが高くなる。【再掲】

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・ 在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- 経理周りの入力業務が増えている。
- 在宅コールセンターも、コロナ禍においてオフィスで受電する人が減ったため、需要が増えている。
- 以前は在宅ワーカーに発注する企業はスタートアップ、個人事業主など規模の小さい会社が多かったが、最近では大手企業も増えている。
- ひとり親の特性に向いている業種というものはないと思う。ひとり親だけでなく、在宅ワーカー全般にいえることだが、納期・品質にコミットする仕事を避ける傾向にある。画面を開くと自分のタスクが明確にされており、自分の空いた時間でできる分だけ取り組むといったものが好まれている。（BPOベンダーとしては、これまでの経験から、「このような業務ではどれくらいの人に興味を持ち、どのくらい取り組むか」を推測できるため、こうした希望に合わせて仕事を用意することは可能ではある。）

・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 在宅ワークのために備えておいた方がよいと思う資格、スキルといったものはあまりない。当社が割り振る業務は、企業での一般的な就業経験があれば問題なく取り組めるものと思っている。
- ただし、デザイナー、エンジニアを希望した場合は難しく、数か月の支援期間では実務レベルには到達できない。マーケットにもプロの方も多く、受託も難しい。日々進歩しているウェブ業界にあって、研修等によってフリーランスで受託している人と競争する市場に参入するには無理があるのではないか。
- それよりも事務系の仕事はまだ多く存在し、RPA、AIの導入が進んできたとはいえ、導入コストが負担となる中小企業では在宅ワーカーの需要もあることから、その分野でプロフェッショナルを目指した方が現実的だと思う。
- 資格よりも高い正確性、高いITリテラシーが必要である。

・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

- 当社としては、きちんと仕事してくれる人にはスキルの高い(単価の高い)仕事を発注したくなる。実践により学ぶこともたくさんあるので、収入を上げる方法として目の前の仕事をこなしていくことが遠いようで近道と考えている。

(5) 成功モデルについて

- 参加時は生活保護を受給していたものの、卒業後1年経過したのちに「生活保護から抜け出ることができた」と報告を受けたことがあった。在宅ワークだけではなく、ダブルワークをこなしたうえでのことだったと聞いているが、このようなケースは事業者(支援者)側にとっても励みになる。
- なお、生活保護の受給者であっても、意外とPCやネット環境は整っている方が多い。持っていない方にはスペックやおおよその金額(10万円程度)を伝えて本人に用意してもらっている。もっとも、用意をする前提で毎年数人参加するものの半分ぐらいの人は用意できず、受講を辞める人もいる。

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 平成 21 年 12 月から平成 27 年 3 月まで、松山市、相模原市、岡山県、仙台市の「ひとり親家庭等の在宅就業支援事業」を受託していた。訓練生は松山市と相模原市が各 220 名、岡山県が 100 名、仙台市が 75 名の合計 615 名であった。
- 訓練生には個人事業主として当社と契約してもらい、在宅で就業するための PC スキルやマナーの研修を行いつつ、カリキュラムをこなすことを前提に、毎月賃金を支払っていた。そして、基礎的な訓練が終了した後、希望者には在宅ワークを紹介し、訓練と実務を並行しながら行っていた。
- 訓練を開始して約 1 年経過後に訓練修了となるが、その後も当社の JOB HUB という、企業と個人事業主をつなぐマッチングサイトを介して在宅ワークを紹介し、少しでも賃金を得られるような機会を提供していた。
- 訓練は、大きく分けて集合型研修と e ラーニングの 2 種類であった。集合型研修としては、「一般的なビジネスマナー研修」、「PC の基礎知識習得」、「Microsoft office 製品 (Word/Excel/PowerPoint) の操作/機能習得」などがあり、その中には自己紹介の資料を作成する、特定のテーマでグループワークを行って発表するといった実践形式の研修も含むものであった。e ラーニングでは、タイピングや office 製品を活用したドキュメント作成などの課題を毎月提出してもらっていた。
- 在宅ワークの実務としては、専門知識が求められる業務 (Web デザインやプログラミング開発など) は難易度が高いため、音声データの文字おこしやデータ入力、EC サイトの価格調査といった、一般的な PC 操作ができれば対応可能な業務を紹介していた。PC 操作さえできれば誰でもこなせる仕事であるため、それほど高い単価の案件ではない。ただし、在宅ワークを本業としたいと希望し、複数の仕事を受託した結果、15 万/月程度を稼いでいた人もいた。

(2) 参加者 (ひとり親) の特性について

- 受講生の内訳は女性 98%、男性 2% の割合であった。
- 両親と同居し、子どもは両親に見てもらいつつ、日中は仕事をしている方が多かった。そして、「副職として在宅業務をしたい」、「少しでも収入を上げたい」といった目的の方がほとんどであった。
- 在宅ワークで希望する手取り月収は 5 万~10 万円程度と記憶している。
- 最終学歴は、かなりばらつきがあった印象である。地域によっても異なり、相模原市では四大卒が多いものの、中卒・高卒などの方もいた。
- 過去に正社員として法人企業にお勤めされた経験のある方が多かった。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 子どもがまだ小さく、両親とも同居していないひとり親家庭の場合は、子どもの面倒をみながらの在宅就業となるため、集中できるのは子供が寝てからになってしまうという悩みを抱えている人がいた。
- 前述のとおり、PC操作さえできれば誰でもこなせる仕事であるため、業務の単価が低い。
- 訓練期間中は、紹介した案件について、当社のスタッフが間に入って案件管理を行い、受講生は安心して在宅ワークの経験を積むことができる環境を整えていたため、発注者との間のトラブルなどはなかった。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- 事業を展開していた当時とは状況が異なり、コロナ禍により在宅業務が当たり前の時勢となってきているため、「在宅就業の人に仕事を依頼することでメリットが創出される」といったニーズは、今後は想定しづらい。
- ひとり親の特性に向いている仕事としては、家庭の状況にもよるが、夜間に在宅業務をしたい方もいるため、「日付を跨いで内容更新されるWebサイトについて、鮮度の高い情報と即時連携させる作業」や「夜間のSNSサイトの監視・チェック」といった業務内容であれば合致する可能性はある。

- ・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 高い専門性が求められるものではないため、基礎的なPC研修、ビジネスマナー研修で足りると考える。

- ・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

- 在宅就業だけで生計を立てられるような状況になるまで支援することは難しい。とはいえ、各家庭の状況や環境を鑑みた上で、「どういった業務に適正があるのか」、「どの時間帯に就業可能か」「在宅業務就労のうえで求める金額」といった要望をヒアリングし、生活に支障をきたさないように配慮したコンサルテーションを行うことが必要であろう。

(5) 成功モデルについて

—

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 現在は行っていないが、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて静岡県からの委託で、ひとり親の在宅就労支援を行っていた。具体的な支援内容は、エクセル、ワード及び一部のパワーポイントなどの Microsoft office の基礎的な操作に関する研修、そして参加者に対するデータ入力の発注であった。発注する業務は、弊社内で発生した業務もあれば、他の企業に営業して受託したものもあった。
- 業務内容はアンケート等のデータ入力業務が多かった。業務の単価は、アンケート入力を例にすると、1 件（50 問の入力作業）当たり当時で 30 円であった。
- 現在はひとり親に限らず、障がい者、高齢者、子どもの社会的養護といったように社会的弱者と呼ばれる方たちに幅広く就業支援を行っている。在宅での就業支援も引き続き行っているが、情報漏洩などのリスクが懸念されている昨今の社会情勢から、外部への業務の切り出し自体が少なくなっている。
- 当社が社会的弱者を対象に支援を行っているのは、従前より地方自治体からの受託により求職者に対する支援を行う中で、依然としてこうした方々が求職者市場に残っていることがわかったためである。当社は官公庁からの受託事業も多く、このような方々への支援は当社の取引先である国や地方自治体の取組指針とも一致することから、支援を継続している。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- 母子家庭が大半で、父子家庭は少なかった。実家ではなく、親と子のみで生活している方が多く、子どもの人数は 1 人～3 人程度であった。
- 就労経験は概ね持っていたが、婚前から職を持っていた方は少なく、多くは離婚を機に働くようになった方であり、必然的に非正規の方が多かった。
- 参加者の学歴は高卒が最も多く、まれに大卒の方もいた。
- 生活の安定を求めて、ダブルワークよりも 1 か所での就業を希望するケースが多かった。
- 参加者が在宅ワークで希望する手取り月収は、親と同居している場合で 15 万円程度、親と同居していない場合で 20 万円以上が多かった。養育費をもらっているため、アルバイト程度の収入で構わないといった方もいたが、レアケースであった。
- また、ひとり親は経済的に困窮する状況が迫っている方が多く、スマートフォンはあるが、PC・ネット環境が整っていないことが多いため、在宅就業に向いていないのではないかと考えている。特に PC を持っていない方が多い。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 子どもの年齢が低いと、仕事と育児の時間的な線引きが難しい。隙間時間での仕事は、副業でないとできないのではないかと。また、保育園入園にあたって在宅就業に関する理解が進んでいないため、在宅就業では保育園に預けにくいという現実もある。
- 正社員での在宅就労であればいいが、フリーランスは業務の単価が総じて低い。
- 参加者は、就労経験があってもサービス業の経験者が多く、PC・営業スキルや、組織で働くうえでの調整スキルが伴っていないケースがある。組織で働くことによって習得する「報・連・相」などの基本ができないため、発注先との連絡や、仲介業者とのやり取りに不安を感じる場面が多かった。
- 業務が安定的に受注できるかは、本人の能力に寄るところが大きく、PCスキルは必須として、仕事の精度が高い、納期に対する感覚を持っている、コミュニケーション能力が高いといった方に仕事が集まってくる。他方、やる気があってもこういった能力が低いと仕事が回ってこない。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- 一般企業の場合は、パンチ業務（データ入力）が外部へ切り出しやすい。ただし、情報漏洩防止の観点から、外部からアクセス可能なPCを貸し出す必要があるところ、在宅就業の非正規者へのPC貸与は難しいのではないかと。また、AIにより画像からデータを読み取ることができるようになっており、初期投資をすれば単純な作業は人手が要らなくなっているため、データ入力などの単純作業は下火になっている。
- （これから成長が見込まれるIT関連でニーズがないかという質問に対し、）データ入力に限らず、AI技術の革新により単純作業は人手をかなり減らせることがわかってきた。当社の例を取り上げると、以前は人手を介することが多かった給与計算やタイムカードの記録は、AIの導入によりボタン一つで読取・計算ができるようになっている。そのため、IT関連であっても、より高度な専門知識を習得しており、かつ、IT関連で長期的にキャリアを形成する覚悟がある人材が求められていると考える。
- 当社は人材派遣業も行っているが、今後は医療・介護・物流・食品系などで求人が増えるのではないかと。ただし、これらの職種は資格を必要とする場合が多いため、在宅向けに仕事を切り出すことは難しいだろう。また切り出しができたとしても、業務量が少ない又は専門的過ぎる内容（例：介護ケースワーカーのプランニング）であるため、新規参入は易しくないと思う。
- 単身世帯のひとり親は子供の時間に縛られるため、業種というよりは、子どもが学校にいる時間や寝た後の夜間にできることが前提条件となる。とはいえ、昨今の働き方改革では誰にとっても生産性向上が求められているため、ひとり親に限らず、誰もが定時までの時間内でパフォーマンスを最大限に発揮する個人の努力と、それを後押し、受容する企業努力が必要になるだろう。

- 企業にひとり親の特性に対する理解と歩み寄りがあれば、在宅に限らず就業が可能であり、ひとり親の特性に向いている業種かどうかというよりは、働きやすい環境が整備されているかどうかを重要と考える。
- とはいえ、当面は、企業が行っている業務のうちデータ入力を切り出し、それを副業として在宅で行うという仕組みはニーズがあると思う。業務を切り出す民間企業にも費用はかかるかもしれないが、「地域貢献」や「会社のブランディング」の一環としての認識が深まれば市場が形成できるのではないかと。その場合の月収は3万円がボリュームゾーンになると思う。
- 例えば障がい者雇用の場合は、企業に数値目標を持たせている。未達の場合は罰則金を支払うことにより、雇用を促している。障がいは先天性や本人の意思とは無関係に障害を負うところもあり、障がい者向けの事業は周囲からの理解も得やすいが、ひとり親の場合は、個人の選択の結果である場合もあるため、共感は得られにくいように思う。そのような中で支援を考えるとすると、「くるみん」、「えるぼし」といったような認定マークを作成し、ひとり親に対して優しい企業であることをブランディングできるような仕組みを作ってはどうか。ただし、その前にひとり親に対する理解を深めてもらうことが必要であろう。例えば、ひとり親に対する共通認識として、子育ての大変さがあると思う。そこにクローズアップしてひとり親に対する理解を深めてもらうのはどうか。

・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 在宅就業を基軸とするのであればPC関連の訓練は必須である。また、在宅ワークは基本一人での作業になるため、Microsoft officeの基本的操作ができる程度では十分とはいえず、PCのトラブルシューティングがある程度できる機器の知識の習得が必要である。
- PCで作業をしても、ファイルの保存を忘れたために成果がゼロになってしまった、メールがうまく送れなかったがために納期に間に合わなかったというケースもあり、またその場合にどうすればいいのかを自分で考えて対応できない人も多い。
- 資格研修としては、MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）やサーティファイ（ビジネスで役立つ知識と技術の習得を目的とした資格検定試験）の取得を奨励しているが、むしろ、例えばPCが上手く作動しないときのトラブルシューティングといったPCを使用する上でのベースとなるスキルの習得の方が重要と考える。

- ・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

○ 在宅就業ができるスキルを有している、又は企業が在宅でも雇いたいと思うひとり親であれば、すぐに就業と繋がらずとも自身で就業できるであろう。問題は、スキル不足の人材をどうつないでいくかである。すぐに在宅就業につなげるのではなく、自身のキャリアプランを考える中で、今後はどのようなスキルを身に着ければいいのか、またそのためには何をしていけばいいのかということを考えてもらい、実践していく意識付け、覚悟を培うことが必要なのではないか。

(5) 成功モデルについて

- 成功している方は、それなりの資格を取得した方が多いように思う。これまで出会った中では、アルバイトで生活をしながら社会保険労務士の資格を取り、その後、人材コンサルティング会社を立ち上げた人がいる。
- IT系ではマクロやシステムを組めるようになって独り立ちした方もいた。当社が外注している在宅就業者は優秀な方が多く、過去には当社で雇用した実績もある。
- 在宅ワークを通して副業から本業へ、非正規から正規雇用を勝ち取る人は自分自身の売り込みができる人ではないか。
- 自身のキャリアを考えている人や、ソフトを操作する中で興味が沸いてきて自分で習得してきた人が成功すると思う。他方、これまで支援してきた中には、ある程度のスキルの習得で満足して就業に向かう人も多いため、その後のスキルのサポートをする体制も必要と考えている。

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 主に地図ソフト「スーパーマップ」の操作訓練を終えた人たちを会員とし、行政が管理する固定資産税や都市計画の図面データの編集を会員に依頼している。平成 22 年度に開始された厚生労働省ひとり親在宅就業支援事業を受けて、群馬県太田市及び栃木県小山市で訓練を終えた人を受け入れたことから始まった。その他パンチ入力を中心に、少しずつ取り組める範囲は広がってきている。
- これらの業務は、地方自治体から受託した民間企業から発注を受けているものであるため、仕事が発生するタイミングが行政のスケジュールに依存し、秋頃から年度末が繁忙期、春から夏が閑散期となっている（このことは会員が定着しない要因でもある。）。
- 賃金は、時給換算でおおよそ 1 時間当たり 750 円から 800 円程度である。スキルが高い人であれば 1,000 円を超えるケースもある。
- 会員数は現在 70 名程度であり、そのうち平均で 2 万円程度の収入を得ている会員は 30 名程度である。
- 会員のほとんどは本業を有している。過去にひと月で 15 万円の収入を得た会員もいたが、これは繁忙期における実績のため、年間では 150 万円もいかない。そのため、1 人当たり月平均の収入額は、子どもの教育費、給食費、教材費を賄う程度であり、当法人からの仕事をこなすだけでは生活を成り立たせることはできない。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- 学歴は基本的に高卒以上、就業経験はほとんどの方が有している。
- 会員のほとんどは本業を有しており、本業は農家の手伝い、会社の経理事務、飲食店などと様々である。
- 特性は人によるので、ひとり親だからこうというのではない。ただし、ひとり親家庭は子どもが障害を持っている、又は不登校であるケースが多いように思う。このような場合、ひとり親の中でもさらに家庭環境が苦しく、仕事を斡旋するだけでは不十分と感じている。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 自治体からの受託業務は季節によって業務量の変動がある。それを補うために民間企業から受託したこともあったが、なかなか継続しない。会員に依頼する業務が副業ではなく、本業として生計が成り立つようであれば望ましい。
- 子どもが障害を持っている、又は不登校であるケースの場合、このことにより仕事に集中できないなど、本人の能力でなく、突発的なトラブルなどの外的要因により納期が守られないことがある。当法人では出来高による支払いのため、納期が守られないと本人の収入に直結する。コンスタントに1日に2～3時間できる人もいれば、週に1～2回しかできない人もいて、週に1～2回程度では時給換算で500円～600円程度になってしまうこともある（もっとも、そのような環境にあっても当法人では時給は200円などと低くなりすぎないように調整している。）。
- こうした難しい問題を抱える家庭に対する支援策としては、例えば同じような障害を持つ子どもの母同士のコミュニティや支援学校を卒業した子どもと一緒に在宅ワークで働けるといった環境整備ができるといいのではないかと。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- AI技術の発達により、今後はパンチ入力のようなワード、エクセル等を使った単純作業は減少すると予想している。今後は属人的な業務が残り、例えば在宅コールセンターなどのニーズはあるのではないかと。
- ひとり親といっても、個々人の性格によるところが大きく、パンチ入力のようにコツコツと入力業務をこなす人もいれば、コールセンターのように人と話すのが得意な人もいる。
- 在宅ワークのニーズは業種を問わないと考える。例えば建設会社だと事務作業の中には図面データの編集作業があるのではないかと。総務や経理といったように、会社の中ではアウトソーシングは進んでいる部署もあるので、切り出してくれるといい。
- また、行政には紙ベースでのデータが大量に残っていることから、スキャンやパンチ入力、CADによる図面のトレースなど、外注できる業務は多くあると思う。ただし、こうした業務はNPO法人が直接受託することはできず、民間企業が元請けとなって受けてNPO法人に下請けに出すため、中間マージンが発生する。個人やNPO団体が行政から直接業務を受託できる仕組みがあればいい。
- どれだけ訓練をしても、個人では仕事は取れない。クラウドソーシングは単純作業は一般的に報酬が安いので定着していない。クラウドソーシングのように全国規模で展開するのではなく、商工会議所などを使って地域内で個人に仕事を結びつける仕組みがあってもいいのではないかと。スキルの習得だけでなく、その後の仕事についても行政による支援が必要である。

○ 民間事業者を経由する場合でも、企業側が在宅ワーカーに仕事を切り出すメリットはあまりないのではと考えており、例えば入札時に得点加算されるような「社会貢献ポイント制度」の創設など、企業側にも何らかのメリットが生じる仕組みがあればいいのではないか。

・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

○ キャリアアップするためには、明確なビジョンを持つことや、もっと稼がないと生活できないという意識が必要である。

(5) 成功モデルについて

○ 10年前の「厚生労働省ひとり親在宅就業支援事業」で訓練を終えた人のうち、群馬県の緊急雇用助成金を使って平成25年からディレクターとして2名を雇用している。その2名は、現在も当法人の正職員として働いており、一つの成功モデルといえる。他にもパソコンの訓練を終えて、パートや学校の非正規職員、建築事務所で働くことができたなど、非正規雇用ではあるが雇用された例は数多くある。

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 青森県・八戸市より受託している「ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業」の一環として、平成 28 年度より NPO 法人「あおもり就職キャリア支援センター」と連携し、在宅就業推進事業を行っている。この支援は、母子家庭を対象に、文字入力、テープ起こし、アンケート集計、文章の手書き、ホームページの更新作業の業務を紹介し、収入の確保を支援しようというものであり、研修は含まれない。業務は単純なものが多く、例えば文字起こしであればワードとネット検索ができれば十分対応可能である。
- ネット環境整備などの支援は行っておらず、ネット環境が整備されている人が対象となる。
- 在宅就業推進事業の登録者は、今年度は 28 名、このうち実際に作業に携わっているのは 13 名である。仕事は、手上げた登録者に分割して割り振る仕組みとなっている。
- 在宅ワークによる登録者の収入は、昨年度は 1 人当たり月平均 1 万円、今年度だと 7,800 円程度となっている。
- 登録者に提供する業務は、当会事務局が営業活動をして受注している。具体的には、民間企業への訪問、県の全課へのチラシ配りなどの営業活動を行っている。その他クチコミで当会に業務を委託してくれるケースもある。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- 当連合会に相談に来るのは、一人で前に進むことが困難であると思われる方が多い。過去に就業経験があり、自信もある人はひとり親でも自立できるが、当連合会に支援を求めてくる人は、ひとり親家庭という環境にあって、外的要因や内的葛藤により悩んでいることが多いように思う。
- 「ひとり親家庭」が抱える悩みは仕事・収入・教育・教育費等々の様々な要因が複合的に重なっているため、一概に挙げることは難しい。
- 登録者の 9 割はダブルワーカーである。昼間の仕事は、パート・アルバイトが最も多く、正社員、契約・派遣社員の人もある。
- 学歴は高卒が最も多く、次いで専門学校、大卒である。

(3) 在宅就業者が困っていること

- PC やネット環境が整っていない人も多く、月に 1 万円程度の収入しか得られないので PC、ネット環境の整備などの費用にも充てられず、在宅就業をしたくてもできないという声も聞く。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- ひとり親家庭に向くと思われる特定の業種はない。
- 今年度はコロナの影響もあり、営業活動が満足にできていないため、あくまでも希望になるが、スマホのできる仕事があればいいのではないかと。PCは所有していないが、スマートフォンを持っているという人が多く、スマートフォンを使った在宅就業があればいいと考えている。例えば、アンケート入力もスマートフォンでできれば希望者に仕事を与えることができるのではないかと。登録者の中には広告ライティングや記事の執筆を希望する方もいるため、そのような分野もニーズがある。
- 在宅就業の支援にあたっては、そもそも仕事をどうやって集めたらいいのかについて非常に悩んでいる。役所を訪問したり、全課にチラシを配布しても、もらえる仕事は数件である。自治体によっては、指名されていない場合はチラシ配りもさせてもらえない。ひとり親には在宅就業のニーズはあると思うが、仕事がない。今後、登録者の能力向上を努めることにより受注に繋がるようにしなければならないと考えている。

- ・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 備えておいた方がよいと思う資格、スキルとしては、ワード、エクセル、SNS、電話・メール対応、納期の遵守、報・連・相などが挙げられる。これらがあれば、在宅就業であっても幅広く対応できるのではないかと。
- グーグルで音声の文字変換ができると聞いている。支援者側も最新のITの知識に付いていけないと感じている。講習会などを通じて基礎レベルの底上げが必要であろう。

(5) 成功モデルについて

- 東京都と異なり、青森県には仕事そのものが極めて少ない。
- そのため、登録者の方のほとんどは月5,000円の収入であっても助かっている。会員の中には長年続けている人がいて、そのような方は収入が安定している。

(1) 貴法人の在宅就業支援の取組みについて

- 当会としては、過去も現在も在宅就業支援を行ったことはない。北海道では過去に行っていたが、道内の企業から業務の切り出しを募集したものの集まらず、首都圏から仕事を持ってはきたが、50文字を入力して2円という少額であったため、取組みが普及しなかった。北海道はエリアが広く、仕事がない地域もあるため、在宅就労を進めたかったが、札幌市内でいえば正社員になった方が稼げる。
- 就業支援としては、当会では「スキルアップ」と「求人紹介」の2つを行っている。
- 「スキルアップ」のための講座としては、ワード・エクセル、FP、簿記、介護職員初任者研修、介護事務、医療事務、メンタルヘルスなどを用意している。このうち簿記は当会では3級を受験しても合格率が半分程度であることから、来期からさらに資格を取りやすくするため初級講座の開設を予定している。
- 「求人紹介」については、正社員になれるかどうか求人を吟味したうえで、登録者に紹介している。そのため、ハローワークやあいワーク（札幌市とハローワークが共同運営する就職支援施設）での求人に比べて、ひとり親としてその仕事一つで生計が成り立つような仕事を紹介するようにしている。なかには時間の拘束を嫌い、パートを希望する人もいるが、相談員が子どもの成長をみながら将来的には正社員に切り替えられる道を探している。このように相談員が登録者の置かれた環境に合わせて支援している。
- 相談者は40代から50代が多く、パートから始めることになる。そこで求められる成果を積みながら信頼を得ることが必要となる。相談者本人の希望とは大きく外れない範囲の中で仕事を紹介するようにしている。

(2) 参加者（ひとり親）の特性について

- 就業経験がない人もいる。就業経験がない場合は、就職できるまでにハードルが高くなる。
- 当会の相談窓口に来る人は、ほとんどがパートである。コロナ禍によって顕著になったことだが、いままで週5日・1日5時間のパート勤務が1日3時間勤務又は週3日勤務のように就業時間を減らされている。そのため、子どもが寝静まった深夜にパチンコ屋の清掃の仕事をして給料の減少分を補っている人もいる。一方で、新しい職場に行くのは人間関係の構築から始める必要があり、大変なことから、慣れている今の仕事で勤務時間の減少により賃金が下がったとしても、コロナ禍が収束するまで我慢するという人もいる。
- うつ病にかかっている人が増えていると感じる。家庭には自分と子どもだけの状態のため、コロナ禍による収入の減少や子どもの将来などを相談する相手がいない。本人も自身がうつ病であることに気づいていない。コロナ禍により人と話す機会が減ったことで、症状が悪化するまでのスピードが早まったように感じている。

(3) 在宅就業者が困っていること

- 札幌は首都圏と違って、切り出すほどの業務を抱えている企業がほとんどない。
- 受注する側のひとり親家庭も住んでいるアパートが狭い、常に子どもがいる、ネット環境が整っていないなど、仕事に集中できる環境が整っていない。ひとり親家庭の年収は180万円～200万円ぐらいであるため、そのような費用も捻出できない。
- サテライトオフィスが自宅近くにあればいいが、現実にはそのようなこともなく、ひとり親の在宅就業は机上の空論ではないか。

(4) 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

- ・在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

- デスクワークであれば経理事務であろうか。経理事務は一般事務よりも基本給が1万～2万円程度上がることから、積極的に勧めている。ただし、相談者の中には高校中退と思われる人もいて、簿記の資格を取得してから経理事務に就職する道はハードルが高いとも感じている。

- ・当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容

- 事務職に就きたい人が多いものの、これまでの就業経験が「販売」や「接客」だけでは、事務職に就くことは難しい。そのため、人によってハードルは高いが、事務職を希望する人には簿記や医療事務等の資格を取得するように勧めている。

・ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方

- 生活保護を受給せずに「何とかしたい」という方はある一定数いて、限界まで頑張ってしまう方もいる。
- 子どものため、また将来の自分のために何かしなければならぬと思わないと難しい。その一歩目を踏み出すこと、きっかけづくりが必要だと感じている。
- 寡婦（子どもの年齢が20歳以上）になっても当会の会員として残り、年代が違ってもこれまでの知識、経験、知恵を使って相談に乗ってくれている人たちがいる。そして、彼女たちの存在によって前向きになれる相談者もいる。

(5) 成功モデルについて

—

第4章 検討会の特別委員による現場報告

1 現場報告の概要

実際に現場で就労支援等の社会活動を行っている以下の3名の方に、第2回検討会に特別委員としてご参加のうえ現場報告を頂くとともに、検討会の議論にも加わっていただいた。

現場報告の内容は、以下の2のとおりである。

■ 検討会の特別委員

敬称略

所 属	氏 名
認定特定非営利活動法人「育て上げネット」理事長	工藤 啓
特定非営利活動 法人「マドレボニータ」創業者	吉岡 マコ
日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 社会貢献担当 部長	龍治 玲奈

2 現場報告の内容

(1) 現場報告 1

認定特定非営利活動法人「育て上げネット」理事長 工藤 啓 氏

(本日伝えたいこと)

- 私たちのNPO法人は若者就労支援を行っている団体であり、ひとり親家庭がメインのターゲットではないため、その点をあらかじめお断りしておく。本日は、若者の支援という視点の中から、在宅就業について考えていることをお伝えしたい。

(“その人に合った働く”を一緒に考えて伴走する)

- まずお伝えしたいことの1つ目は、世の中では「就職支援」や「就労支援」、「就業支援」といった言葉が色々と使われており、その違いが分かりにくいですが、私たちは「就労支援」というのは“その人に合った働く”を一緒に考えて伴走する行為と定義づけ、「就職支援」はその中の一つに過ぎないと考えている。「就職支援」というのは、雇われる支援であり、企業に採用されるための支援ということになるが、就職を望まない、まずは自分に合った働き方を選択したい方もいるため、“その人に合った働く”を探していく上では、「就労支援」といった間口の広いものが必要ではないかと捉えている。
- このような中、若者に関していうと、体調が不安定であり、自宅から出られない、朝起きられない、といったように一か月間のスケジュールを安定してこなせる環境がなく、雇われて働くこと、また期限を持って請け負って責任を果たすことが現状難しいという方もいる。そのような方に対して「就職支援」の一択になると、病気を治す、体力をつける、人が苦手であれば得意にするといったように、治療して改善することが支援の中心になりがちなため、私たちは、ここ数年、いまできる“その人に合った働く”の選択肢を提供していこうという取組みを行っている。
- ある男子高校生の例を紹介する。高校生がアルバイトをしようと思うと、通常、ファーストフードやファミリーレストランなどイメージしやすい職種になるが、その男子高校生はいますぐにそのような仕事に就けるような状態ではなかった。ただ、絵が好きだというのでポートフォリオを見せてもらったら、とても上手に幻想的な絵を描く学生であったため、私は、オリジナルアイテムを作って販売できるプラットフォームサイトを使って、彼がスマートフォンケースを販売できるように手伝ったことがある。このように、いますぐ働くのは難しいけれども、収入になり得る行為を彼のタイミングで行うことができるような仕事が、たくさん出現しつつある。
- ほかに、例えば、自分が「いま2時間なら働けるな」と思った時に、近郊で2時間だけ募集している仕事とマッチングしてくれるサイトや、主に海外の方が、日本の特定の場所にしか売っていないものを誰か買ってくださいとサイトで依頼し、

もし自分がその場所の近くに住んでいれば、名乗り出て、その人に代わって購入し、国際便で送るといったような、誰かに言われるのではなく、その人のタイミングでできるような仕事というのが出てきている。なお、こうした仕事は「安定するののか」とよく聞かれるが、収入面での安定は難しいだろう。ただ、少なくとも誰かに課された業務や期日に仕上げる枠組みで働くのではなく、自分のやれる時間内にやれることをやることで、いずれは収入になるかもしれないという選択肢を提供することにはなる。

- ちなみに、先ほどの男子高校生についてもそうだが、自分の好きなことが収入になるということは自信となるものであり、若者にとって重要なことだと思っている。そのため、安定的な就業であるかどうかではなく、選択肢を増やす機会として提供すること自体に意味のあることだと思いながら活動している。

(マッチング支援から伴走支援へ)

- 次にお伝えしたいことの2つ目は、「マッチング支援から伴走支援へ」という視点である。マッチング支援は基本的に「就職支援」と同じで、仕事に就けたかどうかを一つの成果とするが、伴走支援は相手が希望する限り永続的に支え続ける行為であり、定着支援に近い。私たちの法人では「ジョブトレ」というプログラムを提供しており、参加していただいた1年以内で約9割が仕事に就き、3年後を見ても約8割が継続しているが、参加者にとっては何かあったら私たちのところに相談できるということが心の支えになっているようだ。私たちとしても、マッチング支援よりも伴走支援のほうが重要ではないかと思っている。
- なお、伴走支援において予算やKPIを立てるときは、何人が仕事に就いたのかではなく、その仕事について後にどれぐらい安定しているのか、継続しているのか、収入は上がっているのかといった指標によって成果を図るという、やや長い目の視点が必要になるだろう。

(トレーニングの段階から一定のスペックを有するデバイスやWi-Fi環境の提供)

- 在宅就業の環境整備として、私たちはデバイスや周辺機器、Wi-Fiの貸し出しを行っているが、その中で意外と見過ごしがちなのは高価なソフトが使える環境の提供である。例えば、グラフィックデザインや動画編集、ウェブデザインなどに必要なソフトをそろえるには結構な初期投資がかかるが、トレーニングの段階から提供しなければ、結果として習得できるスキルを限定してしまう。また、こうした高額なソフトに加え、クリエイティブの作業や動画の編集をするうえでは、これに耐えられる高スペックのパソコンも必要である。低スペックと通信回線の低いWi-Fiを貸し出せば、そのことによって就ける仕事を限定してしまう。これまでもタブレット端末を貸し出したこともあったが、職業に対しては全く役に立たなかった。一定の

スペックのものをしっかりとトレーニングの段階から提供するということが非常に重要だと実感している。

(正社員以外の働き方でも同様に安定をするような制度設計の必要性)

- 次に、制度の視点であるが、働くうえでは正社員以外はなかなか安定しないため、結局のところ正社員を頂点にした三角形の坂を若者に駆け上がる以外に選択肢がない。もし在宅も含めて多様な働き方で安定した収入を得ようとするのであれば、正社員以外の働き方でも同様に安定するような制度設計をしない限り、いくら援助職の人間が支援しても正社員が頂点であるという構造は変わらない。そして、その場合は、在宅就業の仕事を供給できるかどうかは企業次第ということになり、企業に仕事を安定的に切り出していただくこと以外にうまくいく要素は少ないのではないかと考えている。

(トレーニングを受け、安定した給料が得られるまでの生活資金の提供の必要性)

- 給付の視点について言えば、就労支援は、職業訓練を受けている間と仕事に就いてから初任給が出るまでの間は給料が出ないため、その間、生活が破綻しない余裕のある人しか支援を受けられない。いままさに生活が厳しい方が、非正規のアルバイトなどを止めてトレーニングを並行しながら働くというのは現実的ではないため、まだ構想段階ではあるが、私たちが少しずつチャレンジしようとしているのは、就労支援を受けている間に生活を保障する資金の一部を提供しようという取り組みである。

(就職以外の働き方への関心)

- 最近、私たちが直接関与している若者約 130 人を対象に、就職以外の働き方への関心がどれぐらいかを聞いてみたところ、6割以上が動画編集、アプリ制作、プログラミングをやってみたいとのことであった。雇われるための就職支援ではなく、“自分に合った働く”という選択肢を、このコロナ禍のうちに作っておきたいという若者が非常に多いという印象である。

(支援が必要な若者に対するニーズの高い職種)

- 新型コロナウイルスの発生以降、採用する企業側にとっても動画編集などのニーズが高まっている。コロナ禍で仕事の仕方が変わり、自ら発信しなければならなくなっているものの、動画編集ができる人がいないという中小企業のニーズが特に高い。そのため、動画編集を学んでいる途中の若者まで正社員に採用されている。
- もう一つニーズを満たせる可能性があるのは、地域のシルバー人材センターが担っている様々な仕事である。シルバー人材センターも依頼の内容が多岐にわたるようになり、シルバーの方がこなしきれないので若い人に手伝ってほしいと、自転車

の整理、草むしり、パソコン講師などの話が来ることがある。そのため、シルバー人材センターで抱えている業務を地域のシルバー以外の世代にも道を開いてもらえれば、若者の経験値が上がったり、自分の存在が地域の役に立つのだということが実感できたりするのではないかなと考えている。

(コロナ禍での新しい働き方)

- 最後に、一例を紹介する。私たちのオンラインプログラムに参加した引きこもり状態の若者2人が、都内にあるIT企業に就職をして、正社員として働いている。このコロナ禍で、半年以上が経過しても出社することなく、これまでの生活環境とあまり変わらない状態で仕事をされている。お二人のお話では、もし会社から緊急事態宣言が明けたので出社するようと言われていたら、自分は多分働けていなかっただろうということであった。これまでであれば「引きこもっているのだから、まずは外に出ましよう」という働きかけがなされていたのが、この状態でも働ける環境を用意してもらったおかげで、自宅からほとんど外に出ないで収入を得て生活できていると言っていた。
- このような新しい働き方が、このコロナ禍で出現しているのも印象的である。

(まとめ)

- 以上、お話ししたように、私たちは、就職という働き方だけではなく、自分のタイミングや余力で、やりたいときにやれるものが仕事に繋がりをうめるのだという選択肢を提示することが重要であると考えている。そして、伴走支援やPCデバイス、トレーニング中の生活資金の提供といった環境整備がこれに組み合わせられると、大変な状況にあるひとり親家庭にとって、もう少し働きやすい状況が生まれるのではないかと考えている。

(2) 現場報告2

特定非営利活動 法人「マドレボニータ」創業者 吉岡 マコ 氏

(本日伝えたいこと)

- 本日、私はNPO法人という現場の立場で参加している。22年前から「マドレボニータ」という妊産婦を支援する団体を創業し、10年ほど前からシングルマザーの心身のケアをする支援を行っている。昨年、「マドレボニータ」の代表を退き、次世代の若手に事業承継して、いまは新しい「シングルマザーズシスターフード」というシングルマザーのセルフケアとエンパワーメントに特化した団体を立ち上げたところである。
- コロナ禍で活動が制限される中、シングルマザーがオンラインで集まり、体を動かしながら対話をするというセルフケアの講座を始めたところ、10ヶ月で250人ぐらいの方が全国から参加している。31都道府県からの参加があり、そこでの現場感が、本調査研究事業の中で行われたひとり親家庭を対象としたアンケート結果と、かなり繋がりがあると感じたので、その辺りについてお話ししたい。

(当事者同士の繋がりに対するニーズ)

- まず、アンケートの中で「当事者同士の繋がりがほしい」という意見が見られたが、私が開催するオンラインの講座を通して、そのニーズをととても実感している。こういった講座を開くと「普段の生活の中では、自分がシングルマザーだということを隠して生活しているので、自分以外のシングルマザーに初めて出会った」という方が多い。周りに相談できる人がおらず、抱え込んでしまっている。
- 今回、アンケートの中で、繋がりが必要だというニーズが出てきたというのは、おそらく「情報交換をしたい」、「自分に有益な情報を得たい」という損得だけではなく、「同じような立場の人と繋がって刺激をもらいたい」、「孤独感を抱えているのは自分だけではない、他にも頑張っているシングルマザーがいるということを知って元気をもらいたい」ということなのだと思う。
- ひとり親の方にICTスキルを身につけてもらい、就労に繋げることを目的とした「グローバルスキルイニシアチブジャパン」というプログラムを、日本マイクロソフト社と開発しているところであるが、こうしたアンケートの結果も受けて、単に技術取得だけではなく、コミュニケーションや横の繋がりによってエンパワーし合えるような支援にしていきたいと感じた。

(自己投資としてのPC購入)

- ひとり親の方の中には、自分にはPCは必要ないと思込んでいる人がいる。先日、あるシングルマザーの支援団体がメルマガで、「せっかく『ひとり親世帯への臨時特別給付金』が出たので、それでパソコンを買いませんか?」、「生活費にも

できるかもしれないけれども、それを自己投資に使いましょう」という呼びかけをされていた。やはりこういう背中を押してくれる存在が必要であると思う。私が開催するオンラインの講座に参加してくれたシングルマザーに、上記の「グローバルスキルイニシアチブジャパン」について少し頭出しをしたところ、その情報を受けて「パソコンを持ってなかったけれども、これから買いに行ってきます」という方がいた。本当に困窮していてパソコンが買えないという方もいらっしゃるが、実は「自分はそういうことに値しない」と思い込んでいる、マインドセットの問題もあると思う。そういうところでブレーキをかけてしまうのはすごくもったいない。PCスキルには、学歴はあまり関係がないため、仕事に使えるスキルを取得して仕事につなげていけるのであれば、それはチャンスである。ICT分野であれば、学歴や置かれた環境による階層をぶち破るようなイノベーションが起きるのではないかと考えている。

- とはいえ、一口にICTスキルと言っても、基礎的なワード、エクセルから始まり、情報セキュリティ、SNSマーケティングといったものまで、色々なレベルのスキルが求められる。「グローバルスキルイニシアチブジャパン」では、こういったプログラムも用意されているが、一方で、何が分からないかが分からないという方もいると思われるので、伴走支援をするメンター役や相談役が必要になるだろう。

(チームで働くスキルの習得)

- 「チームで働く」という能力も重要である。一人で黙々と作業をして納品するという仕事が向いている方もいるとは思うが、自宅にいてもチャットを介してチームビルディングしながら遠隔で仕事を回すという能力も、これから必要なスキルとして求められていくのではないか。
- 企業としても、手取り足取り隣に座って教えないといけないという段階の人を雇うのはなかなか難しい。目の前にいなくても、オンラインで繋がってさえいれば、分からないことはちゃんと質問する、あるいは自分で調べて、他のチームの人ともコミュニケーションを取りながら仕事を前に進めていける、こういう能力は学歴に関係なく身につけていけると思う。

(まとめ)

- 支援者側は支援が必要な層に情報を提供してエンパワーするとともに、支援を受ける側も自分で自分にブレーキを掛けることなく、学歴に関係ないPCスキルやチームで働くスキルを身に付けて、仕事につなげていくことが大事であると思っている。

(3) 現場報告3

日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 社会貢献担当部長 龍治 玲奈 氏

(本日伝えたいこと)

- 本調査研究事業におけるひとり親を対象としたアンケート結果や皆さんのお話はすべて納得できる内容であったが、その中でこれを伝えられたらいいなという点を何点か書き出してきたので、お伝えしたい。

(企業側、個人側双方におけるマインドセットの改革の必要性)

- まず1つ目として、企業側、個人側双方のマインドセットの変革が必要だと感じている。新型コロナウイルスが流行した昨年3月以来、弊社では限られたエッセンシャルワーカー(例:メールルーム)以外は、原則、出社禁止となっている。ほぼ全員が在宅勤務でありながら、それでも業務は継続できていることを考えると、例えば、データ入力是在宅でできる仕事、それ以外は出社が必要な仕事、といったような線引きを企業側が考えてはいけないのではないかと思う。人生のライフステージにおいて、一時的に子育てや介護があっても、状況は変化するものであるから、どのような社員であっても在宅ワークができる体制を企業側が整備できると、社員は安心して働き続けられるのではないか。
- 弊社においても、何年か前であれば、会議を通知するメールにオンライン会議のリンクを含めないこともあって、そうすると会議をオンラインで参加できるようにしてくださいという依頼がメールで飛び交っていた。ところが、いまやもう、全ての会議にオンライン会議のリンクが当然あって、社員が自らにあった形で打ち合わせに参加している。とはいえ、弊社でもこうした行動に結び付くまで、ダイバーシティ・インクルージョンについて勉強した期間があった。「会議室に集まっている人だけで話が進行しないようにしよう。在宅から、あるいは、外出先から参加している社員の意見もちゃんと反映しないと、色々な人の意見が反映された、いい成果は生まれない」というトレーニングも受けた。また、ジェンダーの多様性、宗教の違い、時差への配慮といったことに関するトレーニングもあった。それは、色々な方々と意見を交わして、製品サービスを生み出すことに繋がっており、企業の競争力に結び付いていると思う。この人は在宅ワーカーだから、妊娠中だから、介護中だからといって、「仕事を切り出さないといけない」というマインドセットではいけない。そのためには、ジョブ・ディスクリプションが必要である。この仕事、このスキルに対して、対価を払うという考え方である。
- 弊社の新卒採用は、性別を記載する欄がない。又、自分が何をしてきたのか、どのようなスキルがあるのか、何をしていきたいのかといったことに基づいて(履歴書は、自由フォーマット)採用が行われている。

- こうした考えのもと、「ひとり親だから」「在宅でしかできないから」といった思い込み（バイアス）を取り外した社会であればいいと望んでいる。

(伴走者によるサポートの必要性)

- 2つ目に思うのは、伴走者の存在は本当に重要だということである。支援が必要な方がもう少しできるようになるために、「どのような講座を受けるのがいいか」、「こういうことをやれたらいいね」といった会話（伴走）をして、脱落しないようにすることが大事だと思う。
- 育て上げネットさんを交えた会話の中で、いまは伴走者がやっているけれども、今後、AIが「君はこういうことに興味あるから、こういうことを勉強してみたらいいよね」、「この講座はこういう仕事に繋がっているよ」、「この仕事ではこういうスキルも必要だよ」といったことを話してくれて、「伴走者もAIのアドバイスに基づいて支援ができたら面白いね」と話をしていて、伴走者をサポートするAIの働きによって、人間がより人間らしく、人間しかできない仕事に注力することができるようになる。AIと共生する社会の考え方として重要な点だと思う。
- よく言われる「自己肯定感が低い」という点に関しても、人間ならではの温かみをもって支える＝「伴走する」・「励ましつづける」という行為が非常に必要なのではないか。その点、シングルマザーシスターフッドさんが構想されているコミュニティづくり、ピアサポートの仕組みづくりはとても重要と感じている。
- 話は少し変わるが、いまIT分野は有効求人倍率が非常に高くニーズがあるが、他方で、キャリアカウンセラーの方たちがそれを分かりながらもITを使った仕事をなかなか受益者の方たちに繋げられないというデータがある（詳細：若者のキャリア形成に関わる支援者のICT関連産業に対する理解度および現場での支援活動についての調査報告 | Global Skills Initiative (gsi-jp.com)）。ここに仕事があるのに、仕事を探している方と仕事を繋げる方たちが、そこに対してなかなか一歩踏み出せないというのは非常にもったいないことと感じている。キャリアカウンセラーの方たちにとっては、ITの動向がすごく早いので、そこになかなかついていけない、というのがその要因のようであるが、これに対しては、今後、支援者の皆様と仕組みづくりに取り組んでいきたい。

(リカレント教育の必要性)

- 3つ目は、本調査研究事業のアンケート調査の中で「スキル形成の時間がない」という課題が挙げられていたが、これは日本全体の課題だと思う。有職者のリカレント教育に掛ける時間は、OECD諸国の中で日本が一番低かったように記憶している（データ：Creating Responsive Adult Learning Opportunities in Japan | en | OECD）。ここもマインドセットを変えないといけないところである。

○（コロナ禍に） いまは動画編集のニーズが注目されているようだが、テクノロジーが変わり、人々が情報を得る手段が変わったら、求められるのは動画編集のスキルではなくなるかもしれない。AIが動画編集の仕事をやるようになり、人間はより人間にしかできないところへ仕事をシフトしていくことも必要かもしれない。このような環境を鑑みて、絶えず新しいスキルを学び続けたいといけないうのだという意識と具体的な取組みが大事である。

（まとめ）

○ 何事に対しても、制約があるから“できない”ということではなく、マインドセット（意識）と周りの方との連携、願わくば、テクノロジーもそのお繋ぎを微力でも支援することで、誰しものが活躍できるような社会を官民NPO連携通じて実現していきたいと考えている。

第5章 ひとり親家庭の在宅就業支援の今後の在り方等についての提言

1 各調査結果から見えてきたこと

第2章「ひとり親家庭へのアンケート結果」、第3章「民間事業者等へのヒアリング調査」の各調査結果、及び第4章「検討会の特別委員による現場報告」から見えてきたことをまとめると、以下のとおりである。

(1) ひとり親家庭へのアンケート調査

ひとり親家庭で、現に在宅就業に携わっている方及び在宅就業を希望している方に対し、アンケートを行ったところ、在宅ワーク及びテレワークそれぞれについて、以下のような実態が確認できた。

ア 在宅ワーク関連

(在宅ワークの位置づけ)

- 在宅ワークを「本業」として行っている人は全体の半数以上を占めている。ただし、平均月収（手取り）が10万円未満の層（以下、本章において「収入が低い層」という。）では「副業」として行っている人が多く、反対に10万円を超える層（以下、本章において「収入が高い層」という。）と「本業」として行っている人が多くなっている。

(在宅ワークの業務内容)

- 在宅ワークの業務内容は「データ入力」が多く、いずれの収入層においても同様である。ただし、収入が高い層では、低い層ではあまり行われていない「デザイン」や「事務」、「営業」の業務を行っている人も多い。

(在宅ワークの受注経路)

- 在宅ワークの受注経路は「直接受注」が最も多く、全体の半数以上を占めている。これはいずれの収入層においても同様であるが、収入が高い層では特にその割合が高く、7割を超える。他方で、収入が低い層では「クラウドソーシング会社経由」の割合が高く、約3割がクラウドソーシング会社経由である。

(在宅ワークの従事日数・時間)

- 在宅ワークの週平均日数は、全体では「5日以上」が最も多く、3割以上を占めている。もっとも収入が高い層ほど在宅ワークを行っている日数が多く、平均月収（手取り）が20万円以上では7割以上が週に「5日以上」の在宅ワークを行う一方、収入が低い層では週に「1日未満」や「1日以上3日未満」の人が多い。

- 1日あたりの仕事時間も同様に、収入が高い層では「7時間以上」の人が多く、収入が低い層では、「1時間未満」や「1時間以上3時間未満」の人が多い。

(保有している知識や技術)

- 保有している知識や技術に関し、収入が高い層と低い層で差が大きかったのは、「インターネットやパソコンを使いこなせる」ことや「エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせる」ことである一方、「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」はいずれの層でも保有していると回答した人は少なく、その点、ほとんど差は見られない。

(取り組んでいるスキルアップ)

- 収入が高い層の方がスキルアップのために取り組んでいることが多く、特に「インターネットや書籍などで独学している」人が多い。反対に、収入が低い層では「特に行っていない」人が多い。

(在宅ワークに対する今後の希望)

- 在宅ワークに対する今後の希望については、収入が低い層も含め、いずれの層でも在宅ワークを「続けていきたい」が最も多く、全体では65%を占めている。高い収入を得ている層ほどその傾向が強く、約8割に達している。

(在宅ワークで困っていること)

- 在宅ワークで困っていることとしては、在宅ワークの平均月収(手取り)が20万円以上を除く、いずれの収入層でも「収入や仕事量が安定しない、伸びない」又は「期待する収入が得られない」を挙げる人が多い。他方で、20万円以上を得ている層では、それよりも「オンオフの切り替えが難しい」という人の方が多い。
- また、これから在宅ワークを始めたいと希望する人の場合には、「どうやって仕事を探してよいかわからない」、「スキルアップのための時間・お金がない」、「エクセルやワードなどの知識がない、自信がない」を困りごととして挙げた人が多い。

(在宅ワークに必要な支援)

- 在宅ワークをするうえで必要な支援としては、いずれの収入層においても「仕事の紹介」を挙げる人が最も多い。このほか、収入が高い層では、「自宅以外で仕事ができる場所の提供」や「ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がれる場やネットワーク」が多い傾向がある。他方で、収入が低い層では、「工作中的乳幼児の託児支援」や「子ども連れで参加できるスキルアップ研修」など、託児支援のニーズが高くなっている。

- また、これから在宅ワークを始めたいと希望する人の場合には、「仕事の紹介」に次いで、「在宅ワークの始め方の支援」を必要な支援として挙げた人が多い。また、既に在宅ワークを行っている人と比べると、「パソコンや通信環境のトラブル時の相談窓口」、「使用するパソコンのソフトに関する指導」といったパソコン関係の支援や、「報酬や納期、品質などに関するトラブル発生時の相談窓口」を必要とする人が多い。

(参考) アンケート調査結果にみる、収入が低い層と高い層の相対的な比較

在宅ワークによる収入が低い層と高い層でどのような違いがあるかをみてみると、収入が高い層では、「データ入力」に加えて「デザイン」、「事務」、「営業」など対応できる業務内容が幅広いこと、インターネットや書籍などで独学している人が多いことが分かる。こうした要素に従事日数・時間が多いことが掛け合わせり、直接受注の割合が増え、その結果、在宅ワークを本業として成立させることができていると推測できる。

	収入が低い層 (平均月収(手取り)が10万円未満)	収入が高い層 (平均月収(手取り)が10万円以上)
位置づけ	・「副業」が多い	・「本業」が多い
業務内容	・「データ入力」が多い	・「データ入力」が多いが、「デザイン」、「事務」、「営業」も多い
受注経路	・「直接受注」が多いが、「クラウドソーシング会社経由」も多い	・「直接受注」が多い
従事日数・時間	・従事日数が少なく、週に「1日未満」や「1日以上3日未満」が多い ・時間も「1時間未満」や「1時間以上3時間未満」が多い	・従事日数が多く、週に「5日以上」が多い ・時間も「1時間未満」や「1時間以上3時間未満」が多い
保有する知識や技術	・「インターネットを使いこなせること」、「エクセルやワードなど事務用のソフトを使いこなせること」である一方、「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」を保有する人は少ない	
スキルアップの取組み	・「特に行っていない」人が多い	・「インターネットや書籍などで独学している」人が多い
今後の希望	・「続けていきたい」が多い	・「続けていきたい」が多く、収入が高いほど多くなる
困っていること	・「収入や仕事量が安定しない、伸びない」、「期待する収入が得られない」が多い	・「収入や仕事量が安定しない、伸びない」、「期待する収入が得られない」が多い ・平均月収(手取り)が20万円以上では、「オンオフの切り替えが難しい」が多い
必要な支援	・「工作中的乳幼児の託児支援」、「子ども連れで参加できるスキルアップ研修」が多い	・「仕事の紹介」、「自宅以外で仕事ができる場所の提供」や「ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がれる場やネットワーク」が多い

イ テレワーク関連

(テレワークのきっかけ)

- 約 85%の人は、新型コロナウイルス感染防止対策がきっかけでテレワークを始めている。

(テレワークの頻度)

- テレワークの頻度は、緊急事態宣言期間中でなければ、「勤務日の毎日又はほとんど毎日」が約3割、「勤務日の半分以下」と「勤務日の半分程度」がいずれも2割強であり、残りの約2割は「頻度は特に決まっていない」とのことである。

(テレワークに対する今後の希望)

- テレワークに対する今後の希望としては、「現状のまま続けていきたい」が6割強、「もっと増やしたい」が2割弱、「もっと減らしたい」が1割弱となっている。
- 「もっと増やしたい」と回答した場合に、その希望が叶えられそうかについては、「いいえ」が3割強と、「はい」の2割強を上回り、「わからない」も4割強と多い。なお、テレワークの頻度が増えそうにない理由には、「勤務先の制度で上限日数が決まっているため／勤務先に認めてもらえないため」、「勤務先がテレワークをしにくい雰囲気があるため」、「テレワークに適した仕事ではなく、ある程度の出社が必要であるため」が、いずれも4割前後で並んでいる。
- また、いまはテレワークをしていないが、今後希望する場合に、その希望が叶えられそうな人は約1割と非常に少なく、叶えられそうにないという人の方が約6割と圧倒的に多い。その理由として、約6割が「勤務先の制度で上限日数が決まっているため／勤務先に認めてもらえないため」を、約5割が「テレワークに適した仕事ではなく、ある程度の出社が必要であるため」を挙げている。

(テレワークで困っていること)

- テレワークをするうえで困っていることとしては、いずれも4割前後の人が「通信光熱費が増えた」、「プリンターやスキャナーがなく、紙の書類のやり取りができない」、「上司・部下・同僚や仕事の相手先とのコミュニケーションがとりづらい」と、環境整備や業務に関することを挙げている。また、「仕事と仕事以外の切り分けが難しい」という人も多い。

(テレワークに必要な支援)

- テレワークをするうえで必要とする支援については、「特になし」が4割弱と最も多いものの、2～3割の人は「自宅以外で仕事ができる場所の提供」、「仕事中的子ども（児童）の居場所づくり」、「ひとり親のテレワーカー同士が繋がれる場やネットワーク」を挙げている。

(2) 民間事業者等へのヒアリング調査

在宅就業支援に取り組んでいる民間事業者等に対し、ヒアリングを行ったところ、ひとり親家庭を取り巻く在宅就業のうちの在宅ワークについて、以下のような実態が確認できた。

() 内は、ヒアリング回答者

ア ひとり親の特性について

(ア) 最終学歴

- 最終学歴は高卒が約 50%、大卒は 1 割弱である。(民間事業者)
- 学歴は高卒が最も多く、まれに大卒の方もいた。(民間事業者)
- 最終学歴は、かなりばらつきがあった印象である。地域によっても異なる。(民間事業者)
- 学歴は基本的に高卒以上であった。(NPO法人)
- 学歴は高卒が最も多く、次いで専門学校、大卒である。(母子寡婦団体)

(イ) 就業経験の有無

- 過去に正社員として法人企業にお勤めされた経験のある方が多い。(民間事業者)
- 就労経験は概ね持っていたが、婚前から職を持っていた方は少なく、多くは離婚を機に働くようになった方であり、必然的に非正規の方が多かった。(民間事業者)
- 就業経験はほとんどの方が有している。(NPO法人)
- 就業経験がない人もいる。就業経験がない場合は、就職できるまでにハードルが高くなる。(母子寡婦団体)

(ウ) ダブルワークの有無

- 両親と同居し、子どもは両親に見てもらいつつ、日中は仕事をしている方が多かった。そして、「副職として在宅業務をしたい」、「少しでも収入を上げたい」といった目的の方がほとんどであった。(民間事業者)
- 昼と夜とでダブルワークをしており、夜の仕事を在宅に切り替えたいという人は一定数いる。(民間事業者)
- 生活の安定を求めて、ダブルワークよりも 1 か所での就業を希望するケースが多かった。(民間事業者)
- 会員のほとんどは本業を有しており、本業は農家の手伝い、会社の経理事務、飲食店などと様々である。(NPO法人)
- 登録者の 9 割はダブルワーカーである。昼間の仕事は、パート・アルバイトが最も多く、正社員、契約・派遣社員の人もある。(母子寡婦団体)
- 当会の相談窓口に来る人は、ほとんどがパートである。コロナ禍で週 5 日・1 日

5時間のパート勤務が1日3時間勤務又は週3日勤務のように就業時間を減らされ、子どもが寝静まった深夜にパチンコ屋の清掃の仕事をして給料の減少分を補っている人もいる。一方で、新しい職場に行くのは人間関係の構築から始める必要があり、大変なことから、慣れている今の仕事で勤務時間が減少して賃金が下がったとしても、コロナ禍が収束するまで我慢するという人もいる。(母子寡婦団体)

(エ) 在宅ワークで希望する手取り月収

- 在宅ワークで希望する手取り月収は5万～10万円程度と記憶している。(民間事業者)
- 在宅ワークで希望する手取り月収は、親と同居している場合で15万円程度、親と同居していない場合で20万円以上が多かった。養育費をもらっているため、アルバイト程度の収入で構わないという方はレアケースであった。(民間事業者)

(オ) 家庭環境

- 実家ではなく、親と子のみで生活している人が多い。(民間事業者)
- 結婚や子の誕生などでキャリアの中断があることが多い。(民間事業者)
- 障害児を抱えているひとり親が多いように感じる。(民間事業者)
- ひとり親家庭は子どもが障害を持っている、又は不登校であるケースが多い。(民間事業者)
- ひとり親は日常生活の中で常に何かが起きているので、時間の確保が難しい。(民間事業者)
- スマートフォンはあるが、PC・ネット環境が整っていないことが多い。(民間事業者)
- 過去に就業経験があり、自信もある人はひとり親でも自立できるが、当連合会に支援を求めてくる人は、ひとり親家庭という環境にあって、外的要因や内的葛藤により悩んでいることが多いように思う。(母子寡婦団体)
- うつ病にかかっている人が増えていると感じる。家庭には自分と子どもだけの状態のため、コロナ禍による収入の減少や子どもの将来などを相談する相手がいないう。本人も自身がうつ病であることに気づいていない。人と話す機会が減ったことで、症状が悪化するまでのスピードが早まったように感じている。(母子寡婦団体)

イ 在宅就業者が困っていること

(ア) 時間の確保

- 時間の確保が困難で、納期に間に合わないケースもある。(民間事業者)
- 子どもが障害を持っている、又は不登校であるケースの場合、仕事に集中できず、

また突発的なトラブルなどの外的要因により納期が守られないことがある。納期が守られないと本人の収入に直結する。(民間事業者)

- 子どもがまだ小さく、両親とも同居していないひとり親家庭の場合は、子どもの面倒をみながらの在宅就業となるため、集中できるのは子供が寝てからになってしまう。(民間事業者)
- 子どもの年齢が低いと、仕事と育児の時間的な線引きが難しい。隙間時間での仕事は、副業でないといけないのではないか。また、在宅就業に関する理解が進んでいないため、在宅就業では保育園に預けにくい。(民間事業者)

(イ) 頼れる人の存在

- ひとり親家庭は他に頼れる人が少ない。子どもの発熱などの際、シッターに依頼すると自身が受け取る時給よりもシッター料金が高くなってしまう。(民間事業者)

(ウ) スキルの不足

- こちらの求めているレベルにスキルが達していない人がいる。その場合、苦手意識が出てしまい、継続性が低くなる傾向がみられる。(民間事業者)
- 就労経験があってもサービス業の経験者が多く、PC・営業スキルや、組織で働くうえでの調整スキルが伴っていないケースがある。(民間事業者)
- 在宅ワークは自己管理能力が必要となることから、就業経験がない場合はハードルが高くなる。(民間事業者)
- 業務が安定的に受注できるかは、本人の能力に寄るところが大きく、PCスキルは必須として、仕事の精度が高い、納期に対する感覚を持っている、コミュニケーション能力が高いといった方に仕事が集まってくる。他方、やる気があってもこういった能力が低いと仕事が回ってこない。(民間事業者)

(エ) 業務の単価の低さ

- PC操作さえできれば誰でもこなせる仕事であるため、業務の単価が低い。(民間事業者)
- 正社員での在宅就労であればいいが、フリーランスは業務の単価が総じて低い。(民間事業者)

(オ) 業務量の確保

- 自治体からの受託業務は季節によって業務量の変動がある。それを補うために民間企業から受託したこともあったが、なかなか継続しない。(NPO法人)
- 地方は首都圏と違い、切り出すほど業務を抱えている企業がほとんどない。(母子寡婦団体)

(カ) PCやネット環境をはじめとする就業環境の整備

- PCやネット環境が整っていない人も多く、在宅就業では月に1万円程度の収入しか得られないのでPC、ネット環境の整備などの費用にも充てられず、在宅就業をしたくてもできない。(母子寡婦団体)
- 住んでいるアパートが狭い、常に子どもがいる、ネット環境が整っていないなど、仕事に集中できる環境が整っていない。(母子寡婦団体)

ウ 現在及び今後の在宅就業のニーズについて

(ア) 在宅就業のニーズが見込まれる業種、ひとり親の特性に向いている業種

(在宅就業のニーズが見込まれる業種)

- AIにより画像からデータを読み取ることができるようになっており、初期投資をすれば単純な作業は人手が要らなくなっているため、データ入力などの単純作業は下火になっている。(民間事業者)
- 今後は属人的な業務が残り、例えば在宅コールセンターなどのニーズはあるのではないか。(民間事業者)
- 在宅コールセンターも、コロナ禍においてオフィスで受電する人が減ったため、需要が増えている。(民間事業者)
- 経理周りの入力業務が増えている。(民間事業者)
- コロナ禍で、企業の間接部門の業務は在宅でもできることが分かった。また、ウェブ関連サービスや教育分野も非対面でも上手くいくことが実感できたと思う。これらが在宅就業のニーズが見込まれる分野ではないか。(民間事業者)
- 当方は、企業から業務のアウトソーシングを請け負うBPO(Business Process Outsourcing)ベンダーであることから、営業によりアウトソーシングを受注し、提供できる。(民間事業者)
- 下火とはいえ、当面は、企業が行っている業務のうちデータ入力を切り出し、それを副業として在宅で行うという仕組みはニーズがある。業務を切り出す民間企業にも費用はかかるかもしれないが、「地域貢献」や「会社のブランディング」の一環としての認識が深まれば市場が形成できるのではないか。「くるみん」、「えるぼし」といったような認定マークを作成し、ひとり親に対して優しい企業であることをブランディングできるような仕組みを作ってはどうか。(民間事業者)

(ひとり親の特性に向いている業種)

- 夜間に在宅業務をしたい方もいるため、「日付を跨いで内容更新されるWebサイトについて、鮮度の高い情報と即時連携させる作業」や「夜間のSNSサイトの監視・チェック」といった業務内容であれば合致する可能性はある。(民間事業者)

- ひとり親の特性に向いている業種というのは特になく、周囲に理解があるかどうかであろう。(民間事業者)
 - 企業にひとり親の特性に対する理解と歩み寄りがあれば、在宅に限らず就業が可能である。ひとり親の特性に向いている業種かというよりは、働きやすい環境が整備されているかどうかを重要と考える。(民間事業者)
 - ひとり親の特性に向いている業種というものはないと思う。ひとり親だけでなく、在宅ワーカー全般にいえることだが、納期・品質にコミットする仕事を避ける傾向にある。画面を開くと自分のタスクが明確にされており、自分の空いた時間でできる分だけ取り組むといったものが好まれている。(民間事業者)
 - 在宅ワークのニーズは業種を問わないと考える。例えば建設会社だと事務作業の中には図面データの編集作業があるのではないか。総務や経理といったように、会社の中ではアウトソーシングは進んでいる部署もあるので、切り出してくれるといい。(NPO法人)
 - また、行政には紙ベースでのデータが大量に残っていることから、スキャンやパンチ入力、CADによる図面のトレースなど、外注できる業務は多くあると思う。ただし、こうした業務はNPO法人が直接受託することはできないため、個人やNPO団体が行政から直接業務を受託できる仕組みがあればいい。(NPO法人)
 - 民間事業者を経由する場合でも、企業側が在宅ワーカーに仕事を切り出すメリットはあまりないので、例えば入札時に得点加算されるような「社会貢献ポイント制度」の創設など、企業側にも何らかのメリットが生じる仕組みがあればいいのではないか。(NPO法人)
 - PCは所有していないが、スマートフォンは持っているという人が多く、スマートフォンを使った在宅就業があればいいと考えている。例えば、スマートフォンでできるアンケート入力、広告ライティングや記事の執筆など。(母子寡婦団体)
- (イ) 当該業種で在宅就業をするにあたって必要な資格や受講が望ましい職業訓練の内容
- 国の在宅就業支援のスキームを使えば、PCの研修を3か月間(80~100時間)実施することができる。3日間(18時間)程度のPC講習会では足りない。(民間事業者)
 - 在宅就業を基軸とするのであればPC関連の訓練は必須である。また、在宅ワークは基本一人での作業になるため、Microsoft officeの基本的操作ができる程度では十分とはいえず、PCのトラブルシューティングがある程度できる機器の知識の習得が必要である。資格取得よりも、PCが上手く作動しないときのトラブルシューティングといったPCを使用する上でのベースとなるスキルの習得の方が重要と考える。(民間事業者)
 - 資格よりも高い正確性、高いITリテラシーが必要である。(民間事業者)

- 在宅就業は自己解決能力、適切なキーワードによる Google 検索、ネットワークセキュリティ、課題解決ができる人でないと向かない。(民間事業者)
 - 事務系の仕事はまだ多く存在し、RPA、AIの導入が進んできたとはいえ、導入コストが負担となる中小企業では在宅ワーカーの需要もあることから、その分野でプロフェッショナルを目指した方が現実的である。(民間事業者)
 - 高い専門性が求められるものではないため、基礎的なPC研修、ビジネスマナー研修で足りると考える。(民間事業者)
 - 備えておいた方がよいと思う資格、スキルとしては、ワード、エクセル、SNS、電話・メール対応、納期の遵守、報・連・相などが挙げられる。これらがあれば、在宅就業であっても幅広く対応できるのではないかと。(母子寡婦団体)
- (ウ) ニーズがある業種での仕事にひとり親を繋いでいくためのキャリアコンサルティングのあり方
- 相談者に対してモデルを示すことが大事ではないか。キャリアコンサルタントが、相談者に対していかに共感を持って対応できるかが重要である。(民間事業者)
 - ひとり親家庭だからといったバイアスにとらわれることなく、自立して生活できることが大事である。そのため、育児の期間は15年程度である一方、働く期間は50年もあるなど、相談者に対して10年後、15年後の話をするようにしている。体験に基づくナラティブを語る必要がある。なにより本人が目指してもらわないと継続性が失われることから、相談者に対するキャリアコンサルタントの意識、姿勢も大事になってくる。(民間事業者)
 - スキル不足の人材をどう就業につないでいくかが問題である。すぐに在宅就業につなげるのではなく、自身のキャリアプランを考える中で、今後はどのようなスキルを身に着ければいいのか、またそのためには何をしていけばいいのかということを考えてもらい、実践していく意識付け、覚悟を培うことが必要ではないか。(民間事業者)
 - 在宅就業だけで生計を立てられるような状況になるまで支援することは難しい。とはいえ、各家庭の状況や環境を鑑みた上で、「どういった業務に適正があるのか」、「どの時間帯に就業可能か」、「在宅業務就労のうえで求める金額」といった要望をヒアリングし、生活に支障をきたさないように配慮したコンサルテーションを行うことが必要であろう。(民間事業者)
 - 収入を上げる方法として目の前の仕事をこなしていくことが遠いようで近道と考えている。(民間事業者)
 - キャリアアップするためには、明確なビジョンを持つことや、もっと稼がないと生活できないという意識が必要である。(NPO法人)

(3) 検討会の特別委員による現場報告

実際に現場で就労支援等の社会活動を行っている方々の現場報告により、以下のよう
な実態が確認できた。

ア 働き方の選択肢の提示

- 就労支援というのは“その人に合った働く”と一緒に考えて伴走する行為であり、
いまできる“その人に合った働く”という選択肢を提供することである。収入面での
安定は難しいだろうが、自分のタイミングでやれることをやることで、いずれは
収入になるかもしれない。自分の好きなことが収入になるということは自信にな
るものであり、安定的な就業であるかどうかではなく、選択肢を増やす機会として、
提供すること自体に意味がある。

イ マッチング支援から伴走支援へ

- マッチング支援は基本的に就職支援と同じで、仕事に就けたかどうかを一つの成
果とするが、伴走支援は相手が希望する限り永続的に支え続ける行為であり、定着
支援に近い。マッチング支援よりも伴走支援のほうが重要ではないか。
- 支援が必要な方がもう少しできるようになるために、「どのような講座を受けるの
がいいか」、「こういうことをやれたらいいね」といった会話（伴走）をして、脱落
しないようにすることが大事である。
- よく言われる「自己肯定感が低い」という点に関しても、人間ならではの温かみをも
って支える＝「伴走する」・「励ましつづける」という行為が非常に必要なのでは
ないか。その点、コミュニティづくり、ピアサポートの仕組みづくりはとても重要
である。

ウ 企業側のニーズの高い職種

- 新型コロナウイルスの発生以降、採用する企業側にとっても動画編集などのニー
ズが高まっている。コロナ禍で仕事の仕方が変わり、自ら発信しなければならなくな
っているものの、動画編集ができる人がいないという中小企業のニーズが特に
高い。
- IT分野であれば、学歴や置かれた環境による階層をぶち破るようなイノベーション
が起きるのではないかと考えている。
- IT分野は有効求人倍率が非常に高くニーズがあるが、他方で、キャリアカウンセ
ラーの方たちがそれを分かりながらもITを使った仕事をなかなか受益者の方
たちに繋げられないというデータがある。ここに仕事があるのに、そこに対してな
かなか一歩踏み出せないというのは非常にもったいない。キャリアカウンセラーの
方たちにとっては、ITの動向がすごく早いので、そこになかなかついていけない
というのが要因のようである。

エ 自己投資としてのPC購入

- ひとり親の中には、自分にはPCは必要ないと思い込んでいる人がいる。本当に困窮していてパソコンが買えないという方もいるが、実は「自分はそういうことに値しない」と思い込んでいる、マインドセットの問題もあると思う。
- PCスキルには、学歴はあまり関係がないため、仕事に使えるスキルを取得して仕事につなげていけるのであれば、それはチャンスである。

オ トレーニングの段階から一定のスペックを有するデバイスやWi-Fi環境の提供

- 在宅就業の環境整備として、見過ごしがちなのは高価なソフトが使える環境の提供である。グラフィックデザインや動画編集、ウェブデザインなどに必要なソフトをそろえるには結構な初期投資がかかるが、トレーニングの段階から提供しなければ、結果として習得できるスキルを限定してしまう。また、こうした高額なソフトに加え、クリエイティブの作業や動画の編集をするうえでは、これに耐えられる高スペックのパソコンも必要である。

カ チームで働くスキルの習得

- 「チームで働く」能力も重要である。自宅にいてもチャットを介してチームビルディングしながら遠隔で仕事を回すという能力も、これから必要なスキルとして求められていくのではないか。
- 目の前にいなくても、オンラインで繋がってさえいれば、分からないことはちゃんと質問する、あるいは自分で調べて、他のチームの人ともコミュニケーションを取りながら仕事を前に進めていける、こういう能力は学歴に関係なく身につけていける。

キ リカレント教育の必要性

- 「スキル形成の時間がない」という課題は、日本全体の課題である。有職者のリカレント教育に掛ける時間は、OECD諸国の中で日本が一番低かったように記憶している。ここもマインドセットを変えないといけない。
- (コロナ禍に) いまは動画編集のニーズが注目されているようだが、テクノロジーが変わり、人々が情報を得る手段が変わったら、求められるのは動画編集のスキルではなくなるかもしれない。AIが動画編集の仕事をやるようになり、人間はより人間にしかできないところへ仕事をシフトしていくことも必要かもしれない。このような環境を鑑みて、絶えず新しいスキルを学び続けたいといけないのだという意識と具体的な取組みが大事である。

ク 安定した給料が得られるまでの生活資金の提供の必要性

- 職業訓練を受けている間と仕事に就いてから初任給が出るまでの間は給料が出ないため、その間、生活が破綻しない余裕のある人しか就労支援を受けられない。いままさに生活が厳しい方が、非正規のアルバイトなどを止めてトレーニングを並行しながら働くというのは現実的ではないため、この期間に生活を保障する資金を提供することも必要である。

ケ 企業側、個人側双方におけるマインドセットの改革の必要性

- 企業側、個人側双方のマインドセットの変革が必要である。人生のライフステージにおいて、一時子育てや介護があっても、時は変化するものであるから、どのような社員であっても在宅ワークができるというマインドセットを企業側がしっかりと持たなければならない。この人は在宅ワーカーだから、妊娠中だから、介護中だから「仕事を切り出さないといけない」というマインドセットではいてほしくない。
- こうした考えのもと、「ひとり親だから」、「在宅でしかできないから」といった思い込みを取り外した社会であればいいなと望んでいる。

コ 当事者同士の繋がりに対するニーズ

- 「普段の生活の中では、自分がシングルマザーだということを隠して生活しているので、自分以外のシングルマザーに初めて出会った」という方が多い。周りに相談できる人がおらず、抱え込んでしまっている。背景にあるのは、「情報交換をしたい」、「自分に有益な情報を得たい」という損得だけではなく、「同じような立場の人と繋がって刺激をもらいたい」、「孤独感を抱えているのは自分だけではない、他にも頑張っているシングルマザーがいるということを知って元気をもらいたい」ということなのだと思う。

2 ひとり親家庭の在宅就業支援の今後の在り方等についての提言

上記1では、第2章「ひとり親家庭へのアンケート結果」、第3章「民間事業者等へのヒアリング調査」の各調査結果、及び第4章「検討会の特別委員による現場報告」から見えてきたことをまとめた。これらを踏まえ、ひとり親家庭の在宅就業支援の今後の在り方についての提言を以下に示す。

(1) 在宅ワーク関連

ア 就労支援の軸足の置き換え ～ マッチング支援から伴走支援への転換 ～

一般に、在宅就業支援は、職業訓練と仕事の紹介に重きが置かれることが多い。しかしながら、在宅就業は軌道に乗るまでには時間が掛かるうえ、初めて間もないうちは効率が悪く、収入があまり上がらないため、就業を継続すること自体のハードルが高い。とはいえ、継続することで経験を積むことができ、スキルも向上させることができるという側面もあることから、在宅ワーカーに寄り添い、脱落しないように支え続ける伴走支援が必要である。

もっとも在宅就業を開始してからの定着支援に加え、支援が必要となった段階からの伴走支援も大切である。アンケート調査結果によれば、在宅ワークを始めたいと希望する人の多くは「仕事の探し方」、「スキルアップのための時間・お金の不足」、「エクセルやワードなどの知識不足」といった困りごとを抱え、必要な支援として「在宅ワークの始め方の支援」を挙げている。また、「パソコンや通信環境のトラブル時の相談窓口」、「パソコンのソフトに関する指導」といったPC関係の支援や「報酬や納期、品質などに関するトラブル発生時の相談窓口」も欲している。

支援が必要な人がもう少し前に進めるようになるために、単に仕事を紹介するマッチング支援から、広く“その人”の困りごとを共有し、“その人”に寄り添い、支える伴走支援へと、支援の軸足を移していくことが求められる。

イ 職業訓練の内容の拡充

アンケート調査結果からは、収入が高い層は、一部を除いて、必ずしも「自分の受注分野に関する最新の知識・技術」を有するなど、特殊な技術を身に付けているがゆえに高い収入を得られているというわけではなく、在宅ワークに多くの日数・時間を投入して就労していることによって成しえている様子がうかがえる。

もっともヒアリングでは、PC操作は一般的な操作ができればよいが、それ以上に課題にぶつかったときに自分で調べたり聞いたりして解決する能力、発注者と納期や進め方について調整する能力、PCのトラブルシューティングがある程度できる機器の知識などが必要という意見が聞かれた。そのため、職業訓練において、一般的なPC研修に加え、検索スキル、報・連・相の方法、オンラインツールの使い方、セキュリティ、トラブルシューティングなど、業務を円滑に遂行するために必要となる各種スキルを高められる講座をあわせて提供していくことが望まれる。

ウ ソフトスキルの重要性の認識と習得に向けた支援

ヒアリングでは、在宅就業にあたり、自己解決能力、自己管理能力、組織で働くうえでの調整スキル、納期に対する感覚、コミュニケーション能力が不可欠という意見が多く聞かれた。また、検討会の特別委員による現場報告でも「チームで働く」という能力、具体的には「自宅にいてもチャットを介してチームビルディングしながら遠隔で仕事を回すという能力」、「目の前にいなくても、オンラインで繋がってさえいれば、分からないことはちゃんと質問する、あるいは自分で調べて、他のチームの人ともコミュニケーションを取りながら仕事を前に進めていけるといった能力」が必要というコメントがあった。こうした能力はソフトスキルとも言われ、上記イで記載したPCスキルなどの目に見えるハードスキルとともに、発注者をはじめ仕事上の関係者との良好な関係を築き、信頼を得て、より多くの仕事を得るために不可欠な要素である。そのため、こうしたソフトスキルを習得するための支援も必要となる。

なお、ソフトスキルの習得度合いは就業経験の有無などが影響し、個人差が大きいと思われることから、当該スキルは伴走支援を通じて高めていくことが望ましい。その際、伴走支援をする側にもソフトスキルを習得させる能力が求められることから、支援者に対し、その能力を向上させる取組みも必要となってこよう。

エ 安定的な仕事の供給に向けた方策

アンケート調査においては、在宅ワークで困っていることとして「収入や仕事量が安定しない、伸びない」を挙げる人が多かった。また、ヒアリングにおいて、就業支援を行っているNPO団体や母子寡婦団体からは在宅ワーカーに提供する仕事がないと声が聞かれた。

他方、自治体から在宅就業推進事業を受託するBPOベンダーに聞くと、営業を通じて企業から業務のアウトソーシングを請け負って在宅ワーカーに仕事を提供することは本業そのものであり、提供する仕事が枯渇することはないとのことであった。

このような状況から、仕事の提供に関しては、それを本業とするBPOベンダーなどの民間事業者を活用することが、現時点での最適解であるように思われる。

オ 在宅ワークのキャリアマップの作成、提示

在宅ワークは、一般的に慣れないうちは効率が悪く、収入も上がらないものの、継続することで経験値が高まり、軌道に乗せられれば、ある程度は安定して収入を得ることも可能になるという側面を持つ。そのため、在宅ワークへの向き合い方として、いきなり本業として在宅ワークに取り組むではなく、副業から始めて経験値を積み、発注先から一定の信頼を得て、継続的に受注が得られるようになった段階で本業に切り替えるといったようにステップを踏むことが望ましい。

そのため、こうしたステップがみえるように、在宅ワークのキャリアの標準的な道筋を示した「キャリアマップ」を作成し、在宅ワーカーに提供していくことが期待される。このマップをみて自分の現在地を正しく認識し、より収入を得るためには何をすればいいのかといった、その先に行くためにすべきことが分かれば、それに適した行動（学習や取り組み方等）が取りやすくなると考える。

カ 希望する業務内容に応じて、高スペックなパソコン、高価なソフトも使用できる環境の整備

ヒアリングでは、「PCやネット環境が整っていない人が多い」というコメントが多くみられた。在宅就業事業において、無料でPCや周辺機器、Wi-Fiの貸し出しを行っているケースも多いが、検討会の特別委員による現場報告では、意外と見過ごしがちなのは高価なソフトが使える環境の提供だという。グラフィックデザインや動画編集、ウェブデザインなどのクリエイティブな仕事を行っていくうえでは、高額であるけれども必要な専用のソフトをトレーニングの段階から提供しなければ、結果として習得できるスキルを限定してしまう。また、それに合わせて高スペックのPCも必要とのことであった。在宅ワークの業務内容としてどのようなものを希望するかによるが、業務内容や本人のPCスキルの習熟状況を勘案し、必要があれば高額のソフトが使用できる環境を整備することも求められる。

キ 在宅ワークに集中できる環境の整備

収入は、就労時間と単価の掛け合わせによって決まることから、就労時間を確保できる環境を生み出す支援も大切である。ヒアリングでは、「保育園に子どもを預けられないために、子どもの面倒をみながらの在宅就業になってしまう」、「障害児を抱えているひとり親が多く、仕事に集中できない」といった実態が明かされた。

また、アンケート調査においても、子どもの年齢が低いほど「育児での中断が多い」や「仕事中の乳幼児の預け場所がない」ことを在宅ワークの困りごととして挙げている人が多く、「仕事中の乳幼児の託児支援」や「子ども連れで参加できるスキルアップ研修」などの託児支援のニーズが高い。

さらに、子どもが大きい家庭でも、「住んでいるアパートが狭い」、「常に子どもがいる」といった問題を抱えており、「自宅以外で仕事ができる場所の提供」に対するニーズもみられた。

そのため、一定の収入を得るうえで重要な要素である就労時間を十分に確保し、仕事に集中できる環境の整備、具体的には「仕事中の乳幼児の託児支援」や「子ども連れで参加できるスキルアップ研修」、「自宅以外で仕事ができる場所の提供」といった支援も必要と考えられる。

ク 安定した給料が得られるまでの生活資金の提供

就労支援は、職業訓練を受けている間と就業を開始してから安定的に稼げるようになるまでの間は収入がないため、その間、生活が破綻しない余裕のある人しか支援を受けられない。そのため、就労支援を受けている間の生活資金を提供する支援も必要となってこよう。

ひとり親が就職を容易にするために必要な資格の取得を促進するため、当該資格に係る養成訓練の受講期間について給付金を支給し、生活の負担の軽減を図り、資格取得を容易にすることを目的とした「高等職業訓練促進給付金」制度がある。対象資格は、就職の際に有利となる資格であって、養成機関において1年以上のカリキュラムを修業することが必要とされているものであり、修業する期間は令和元年度より上限3年から上限4年に拡充された。月額10万円（住民税課税世帯は月額70,500円）が支給され、令和元年度より、修学の最終年限1年間に限り支給額を4万円加算することとされている。この制度を利用すれば生活資金を確保しつつ訓練を受けることができることから、制度の周知を図っていくことが必要と考えられる。

ケ ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がれる場やネットワークの構築

アンケート調査結果の中で、在宅ワークをするうえで必要な支援として、「ひとり親の在宅ワーカー同士が繋がれる場やネットワーク」を希望する人が多くみられた。検討会の特別委員による現場報告でも「自分以外のシングルマザーに初めて出会った」という方が多いとのことである。同じような立場の人と繋がることで刺激をもらったり、孤独感を抱えているのは自分だけではないと元気になったりすることができるので、こうした場づくり、ネットワークづくりも重要な支援の一つと考える。

コ ニーズの高い職種への橋渡しに向けて

検討会の特別委員による現場報告にもあったように、IT分野は有効求人倍率が非常に高く、求人のニーズがある。しかしながら、ITの動向があまりに早いためにキャリアカウンセラーでさえ付いていけず、その結果、ITを使った仕事を在宅ワーカーに紹介するということできていないという状況がある。これを打破し、この有望分野に仕事を求める人を繋ぐため、まずはキャリアカウンセラーがIT分野に対する理解を深めることが重要であることから、キャリアカウンセラーに対する啓蒙が先決であると考えられる。

(2) テレワーク関連

多くの人は新型コロナウイルス感染防止対策をきっかけとしてテレワークを始めているが、「現状のまま続けていきたい」あるいは「もっと増やしたい」を合わせると約8割を超え、「もっと減らしたい」の1割を大きく上回っている。しかしながら、「もっと増やしたい」と希望しても、それが叶えられそうにないという人も多く、その理由として約4割が「勤務先の制度で上限日数が決まっているため／勤務先に認めてもらえないため」、「勤務先がテレワークをしにくい雰囲気があるため」を挙げている。「テレワークに適した仕事ではなく、ある程度の出社が必要である」といったように業務の特性を理由としているケースもあり、一律の実現は難しいと思われるが、テレワークはひとり親家庭にとっては子どもとの生活を維持しやすくする就労形態であることから、コロナ後においても本人が希望すればテレワークという働き方も選択できるようになっていることが望ましい。

なお、テレワークをするうえで必要な支援として、アンケート調査結果では「自宅以外で仕事ができる場所の提供」、「仕事中的子ども（児童）の居場所づくり」、「ひとり親のテレワーカー同士が繋がれる場やネットワーク」が挙げられていることから、テレワーカーにとって働きやすい環境づくりにも取り組んでいく必要がある。

本報告書は、株式会社日本経済研究所のホームページ (<https://www.jeri.co.jp/>) に掲載し、公開しています。

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
〈ひとり親家庭の在宅就業に関する調査研究報告書〉

令和3（2021）年3月

株式会社 日本経済研究所

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 15階

TEL : 03-6214-4600